

令和 6 年 3 月 4 日
総務委員会行政報告資料

旧赤星鉄馬邸の利活用に関する 有識者会議 報告書（資料編）

令和 6 年 2 月

武藏野市

目次

参考資料1 旧赤星鉄馬邸の利活用に関する有識者会議設置要綱	1
参考資料2 旧赤星鉄馬邸の利活用に関する有識者会議名簿	4
参考資料3 耐震診断結果概要書（第二次診断）	6
参考資料4 一般公開・利活用に関するアンケート結果（令和4年10月）	9
参考資料5 旧赤星鉄馬邸の保存・利活用を考える市民ワークショップニュース vol.1～4	28
参考資料6 一般公開ウィークの実施結果 令和5年5月	45
参考資料7 一般公開ウィーク【事前申込制】の実施結果（令和5年11月）	49
参考資料8 関係者・団体へのインタビュー結果	51
参考資料9 WEB アンケート実施結果（令和5年3月～11月）	60
参考資料10 オープンハウスの実施結果（令和5年6月～7月）	77
参考資料11 旧赤星鉄馬邸の庭園活用社会実験（11月速報版）	89
参考資料12 耐震補強計画（案）	98

参考資料 1

旧赤星鉄馬邸の利活用に関する有識者会議設置要綱

旧赤星鉄馬邸の利活用に関する有識者会議設置要綱

(設置)

第1条 武藏野市吉祥寺本町4丁目1822番3の土地に所在する旧赤星鉄馬邸ほか2棟（以下「建物」という。）の利活用にあたり、利活用の検討に資する意見を聴取し、助言を求めるため、旧赤星鉄馬邸の利活用に関する有識者会議（以下「有識者会議」という。）を設置する。

(所管事項)

第2条 有識者会議は、次に掲げる事項について意見を述べ、市長に助言する。

- (1) 建物及び土地の一体的な利活用に関すること。
- (2) 建物の保存に関すること。
- (3) 建物及び土地の維持管理及び運営に関すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、市長が必要と認めること。

(構成)

第3条 有識者会議は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 文化財保護に関する専門家
- (2) 建築に関する専門家
- (3) 緑地計画及びランドスケープデザインに関する専門家
- (4) 社会教育に関する専門家
- (5) シティプロモーションに関する専門家
- (6) 市の職員
- (7) 前各号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

(座長)

第4条 有識者会議に座長及び副座長各1人を置く。

- 2 座長は委員の互選により選出し、副座長は委員の中から座長が指名する。
- 3 座長は有識者会議を統括し、有識者会議の進行にあたる。
- 4 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるとき又は座長が欠けたときは、その職務を代理する。

(意見聴取)

第5条 有識者会議は、必要に応じて委員以外の者に資料の提出又は会議への出席を求め、その説明又は意見を聞くことができる。

(設置期間)

第6条 有識者会議の設置期間は、その設置の日から令和6年3月31日までとする。

(謝礼)

第7条 委員（第3条第6号に掲げる委員を除く。）には、有識者会議の会議1回の出席につき12,000円の謝礼を支払う。

（庶務）

第8条 有識者会議の庶務は、総合政策部資産活用課において処理する。

（その他）

第9条 この要綱に定めるもののほか、有識者会議の運営に必要な事項は、市長が別に定める。

付 則

- 1 この要綱は、令和4年7月26日から施行する。
- 2 この要綱は、令和6年3月31日限り、その効力を失う。

参考資料 2

旧赤星鉄馬邸の利活用に関する有識者会議名簿

旧赤星鉄馬邸の利活用に関する有識者会議名簿

氏 名	所 属	選任区分
内川 隆志	國學院大學文学部教授 國學院大學博物館副館長	文化財保護に関する専門家
塙本 由晴	東京工業大学大学院教授	建築に関する専門家
阿部 伸太	東京農業大学地域環境科学部 造園科学科准教授	緑地計画・ランドスケープ デザインに関する専門家
光田 剛	成蹊大学法学部教授	社会教育に関する専門家
深谷 信介	ノートルダム清心女子大学 人間生活学部人間生活学科教授	シティプロモーションに 関する専門家
吉清 雅英	総合政策部長	市職員
大塙 省人	環境部長	
樋爪 泰平 (令和5年3月まで)	教育部長	
藤本 賢吾 (令和5年4月から)		

參考資料 3

耐震診斷結果概要書（第二次診斷）

耐震診断結果概要書（第二次診断）

建物概要	(1)建物名称	旧赤星鉄馬邸																		
	(2)用途	住宅																		
	(3)所在地	東京都武蔵野市吉祥寺本町4丁目26-21																		
	(4)構造・規模	鉄筋コンクリート造（ラーメン構造） 地上2階建て（塔屋1階、部分地下）																		
	(5)建設年度	1934年（建築年数 87年：2021年時点）																		
	(6)面積	建築面積 393.12 m ² 延床面積 671.67 m ²																		
	(7)高さ	軒高 7.697 m 最高高さ 10.272 m 階高：1F 3.485 m 2F 3.606 m																		
	(8)基礎	直接基礎（独立基礎、一部布基礎）・支持層は関東ローム層																		
	(9)構造上の特徴	平面：やや不整形（ほぼ中央にて折れ曲りアリ） 立面：整形 意匠図：有 構造図：有 構造計算書：無																		
材料強度	コンクリート	設計基準強度 Fc150kg/cm ² (14.7N/mm ²)																		
		階	圧縮強度の平均値 σ_B			標準偏差 σ		採用強度 σ_C												
		2	17.1			4.11		15.0												
		1	20.3			4.09		18.3												
判定指標	鉄筋 (設計図による)	せん断補強筋（柱帯筋・梁あばら筋）SR24 $\sigma_y=294N/mm^2$ その他、柱梁主筋等 SR24 $\sigma_y=294N/mm^2$																		
		$I_{S0}=0.60 \quad C_{tu} \cdot S_D=0.30$ (第二次診断) 塔屋階 X方向： $I_{S0}=0.60$ (壁式第二次診断) Y方向： $I_{S0}=0.80$ (壁式第一次診断)																		
診断結果	経年指標 $T=0.958$ 塔屋階 Y方向： $T=0.80$ (壁式第一次診断)																			
	階	X 方向						Y 方向												
		E_0	S_D	F	I_s	$C_{tu} \cdot S_D$	判定	E_0	S_D	F	I_s									
	PH	1.12	1.0	1.5	1.07	—	OK	2.31	1.0	1.0	1.84									
	2	1.78	0.90	1.0	1.53	1.60	OK	2.16	0.60	1.0	1.24									
	1	1.53	0.60	1.0	0.88	0.92	OK	1.12	0.60	1.0	*0.19 (0.64)									
電算ソフト	※ *は、下階壁抜け柱の補強要否の判定により I_s 値を再評価した値であり、 ()内は、下階壁抜け柱の補強を行った場合の参考値である。 (注)正負加力の小さい方の値を記載																			
	BUILD.耐震 RC Ver.8																			
考 察	a. 診断結果 1. X 方向は、1F、2F とも構造耐震指標 I_s 値が判定指標 I_{S0} 値以上である。しかし、Y 方向は、1F にて下階壁抜け柱の圧壊防止のための補強が必要（後述、3.項）であり、その I_s 値の再評価にて構造耐震指標 I_s' 値は判定指標 I_{S0} 値以下である。したがって、平成 18 年国土交通省告示 184 号に照らし、X 方向は、「地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い」となるが、Y 方向は、「地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い」と判断する。建物全体としては、																			

	<p>「地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第二種構造要素の柱ではないが、周辺柱への長期軸力の再配分を必要とする柱の改善が望ましい。(後述、4.項)
考 察 (つづき)	<p>2. 塔屋階は、壁式構造となっている。X 方向は第二次診断により構造耐震指標 I_s 値は判定指標 I_{so} 値以上であることが確認された。Y 方向は、第一次診断により、I_s 値は I_{so} 値以上であることが確認された。したがって、塔屋階は平成 18 年国土交通省告示 184 号に照らし、「地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い」と判断する。</p> <p>b. 診断で判明した耐震性能上の問題点</p> <p>3. 下階壁抜け柱が存在し、せん断破壊、または最大軸力比 η が制限値を超えるため第二種構造要素柱となる。</p> <p>最大軸力比 $\eta_{max} \geq \eta_u = 0.40$ の柱</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 7 通り C 軸 1 階柱 および、同 A 軸 1 階柱 b. 9 通り C 軸 1 階柱 および、同 A 軸 1 階柱 <p>上記柱については、地震時に圧壊の恐れがあるため、軸力を分担し得るソデ壁を新設もしくは増し厚補強が必要である。</p> <p>4. 第二種構造要素の判定に対し、破壊モードの極脆性袖壁付柱(CWSS)、極脆性柱(CSS)が存在し、せん断破壊に伴い周囲の柱への長期軸力の再配分が必要となる。この場合、再配分可能との判定で「倒壊し、又は崩壊する危険性が低い」と判断しているが、下記の当該柱ともに接続する外壁のコシ壁・タレ壁により短柱となっている。その短柱状態を改善するために必要な長さの構造スリットを入れる改修を提案する。</p> <p>第二種構造要素の柱ではないが、周辺柱への長期軸力の再配分を必要とする柱の改善が望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 6 通り D(E) 軸 1 階柱(CWSS) b. 9 通り D(E) 軸 1 階柱(CSS) c. 12(13) 通り R[D(E)] 軸 1 階柱(煙突内蔵柱) <p>→本柱は解析モデルの都合により極脆性柱(CSS、CWSS)となっていないが、a. b. と同様に改善が望ましい。</p> <p>c. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 地下階は、土圧壁により十分な壁量がある。躯体の状況として、ひび割れはない様であるが、コールドジョイントと思われるジャンカ(もしくは、コンクリート脆弱部の剥落)の箇所、かぶり厚さ不足からコンクリートが剥落し侵入水による鉄筋の発錆箇所があり、改善すべきである。 礼拝棟・修室棟ともにその増築にあたって渡り廊下部分は、本棟(旧赤星邸)に S 造で繋結させる形となっている。増築棟の構造躯体そのものではないが、それぞれの地震動による動きの差異により損傷を受ける可能性があり、改善すべきである。 その他、懸念される事項 <ul style="list-style-type: none"> a. 屋上に設置されている設備機器およびその受け架台は、建物への緊結状態が確認不能な箇所*が多く改修に当たっては再度確認し、かつ改修することが望ましい。(※止水のためと思われる、コンクリートもしくはモルタルによる覆いによる) 塔屋屋根に設置されている高架水槽は、現在使用されていないこと、および、建物美観を損ねていることから、撤去することが望ましい。 b. 敷地境界に設けられている塀(RC 造部分)については、かぶり厚さの不足から鉄筋の発錆に伴う爆裂箇所がみられる。 c. ブロック塀は、塀の高さ $H=1,800$ mm に対し控え壁がなく、隣地境界にある。また、内部の配筋状態も不明であり、撤去が望ましい。
備考	

参考資料4

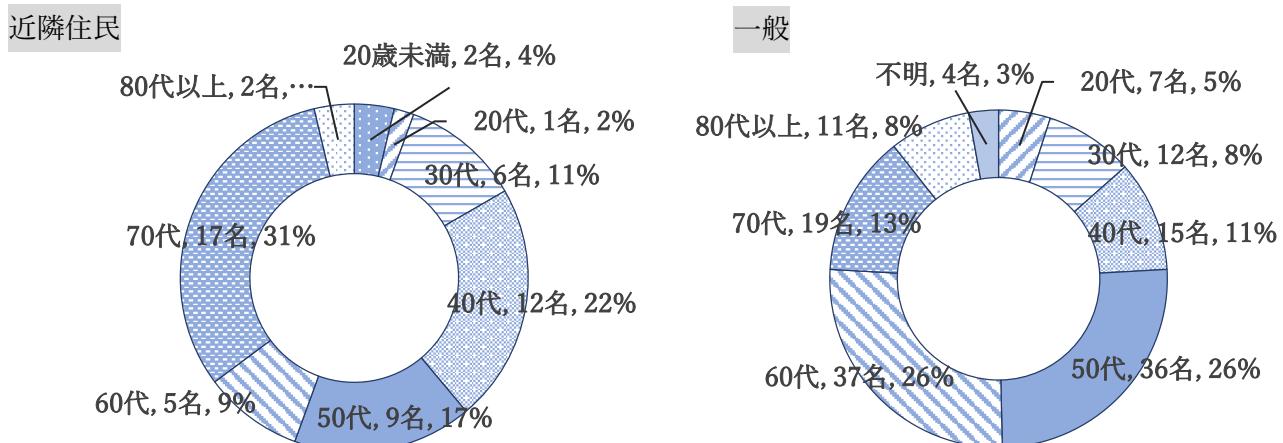
一般公開・利活用に関するアンケート結果（令和4年10月）

一般公開・利活用に関するアンケート結果(令和4年10月)

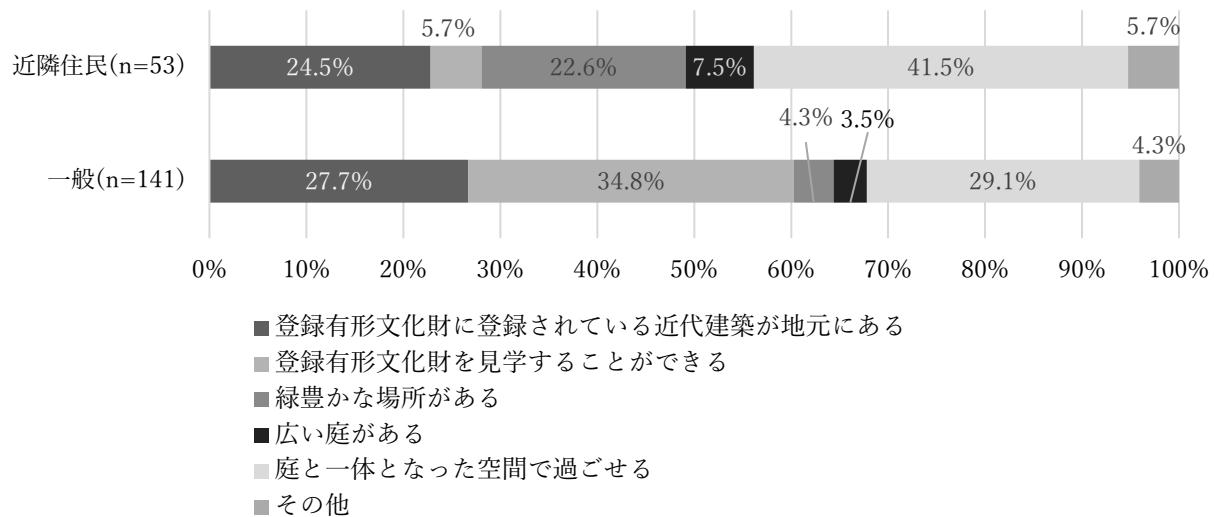
参加者数

近隣住民：10月8日（土）42組（67名）うちアンケート回答53名
 一般：10月9日（日）44組（70名）うちアンケート回答69名 ※うち1名は近隣住民
 10月29日（土）46組（76名）うちアンケート回答73名

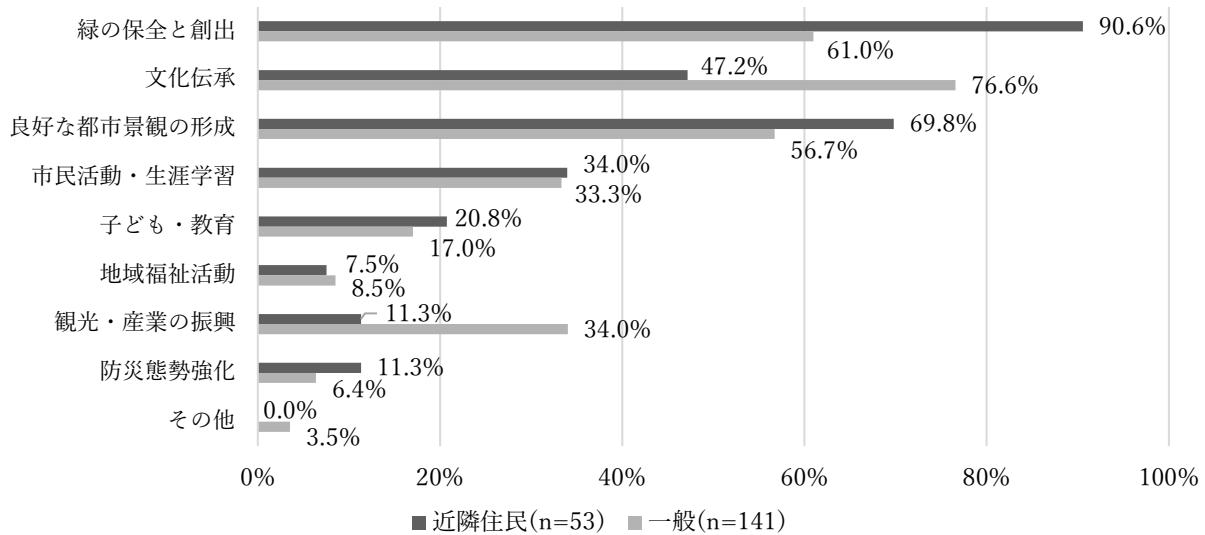
（アンケート回答者 年代別内訳）



旧赤星邸の最も大きな魅力は？



旧赤星邸の利活用で期待することは何ですか？（3つまで選択）



公開時のコメント（1）

「旧赤星邸の利活用で期待すること」の選択肢の中でもっとも大切だと思った理由

*選択肢：緑の保全と創出、文化伝承、良好な都市景観の形成、市民活動・生涯学習

子ども・教育、地域福祉活動、観光・産業の振興、防災態勢強化、その他

緑の保全と創出

建物も大変素晴らしいのですが、隣家に住む者としては、庭の状態をできればそのまま変えずに残していただきたいです。美しい木々がバランス良く配され、草木から四季を感じられる。ただあるだけで心癒やされる風景です。例えば新宿御苑のように有料にするなどして、手入れを続けつつ人の出入りをある程度制限し、保持に努めていただけたと嬉しいです。

吉祥寺地域で最も広い緑の土地であり、これを現状通り維持保全することは、地域全体の利益に最も資すると思うため。

近年大きな木が切られてしまつて残念に思っています。庭の空間が大きいので、残せる限り大木を保全してほしいです。成蹊大学のケヤキ並木と同じように。広い芝生の庭も地域に開放して、活用してほしいと思います。

周囲が住宅地なので、まとまった緑地が少ない。貴重な場所だと思います。

緑豊かな景観と環境の保全をしていただき、市民の憩いの場になるといいと思います。
(市民活動や子ども・教育、地域福祉活動の場は市内にすでにいろいろな場所がある)

今まで向かいに住んでいたが、この建物が何かは知らなかった。修道院があるということのみ。中に入ってこんなにもステキな緑が豊かな場所だと知ってイメージが変わった。この緑の空間をぜひいろいろな人に体感してほしい。

ここでしか緑がきれいな所はないし、近所だから、道路でタヌキが通っていたり、自然に虫などのきれいな音の声が聞こえるからです。

近所に緑があるのは魅力。

木がたくさんあるのがうれしい。広いスペースがありうれしい。

今緑が少なくなってきたので、木は増やしても切らないでほしい。なるべくなら周囲が見えないように枝も残してほしい。このような素晴らしい環境の地域はないと思います。武蔵野市は緑が多いので、この赤星邸が武蔵野市で管理していただけること、大変うれしく思っております。

緑を残してほしい

豊かな緑と広い空、季節の移り変わり、人間としての本来のあり方を感じられる。

自然をそのままの形で残した場所が近くあるとうれしい。

緑豊かな環境を残すべき。

緑が少なくなっている今日、いろいろなプラス（良好な都市景観の形成、市民活動・生涯学習など）があるので、残してほしい。

静かな暮らし

のままこの緑の多さを残してほしい。美しい空間で、ここまで状況をまたつくるには年数もかかる。緑の保全にあたっては、長期計画づくりも大切に。事前に手当てをした上で更新を。プロセスを公開する映像やみどり保全の専門家を登用し、その人たちがやる気を引き出せるような仕事にしてほしい。

とてもすてきなお庭があり、心が癒やされます。

庭園も含め、文化財を価値あるものとして保全することに意義を感じるため。

実際に入ってみて、植物の多様性や豊かな緑の環境に驚きました。このあたりは、ふらつと立ち寄りリフレッシュできる公園が少ないので、公園として開放していただけるうれしいと感じました。

赤星邸の裏側のマンションに住んでいますが、お庭の方から届く草木の香りや鳥の声や四季の移り変わりに毎日とても癒やされています。豊かな環境をこれからも保全していただきたいです。

緑の形成が非常に美しく整っているため、保全に力を注いでほしいと思いました。

吉祥寺という街があるすぐ近くに豊かな緑があるというのが、武蔵野市の大きな魅力だと思うから。

住宅街の中に、これだけの広さで緑豊かなところは武蔵野にはないので、守りつつ、皆で使用していきたい。いつも東側道路を通っていますが、中がこのようになっていることは知らなかった。見学することができて良かったです。

市内は緑が豊かだとは感じていますが、庭の植物が少し変わっているように思いました。五日市街道が近いなか静かな空間で残ってくれているのをうれしく思います。

武蔵野市の印象は緑豊かな自然が多くあるイメージ。そんな街にあこがれ引っ越してきました。今も満足していますが今後もこの豊かな緑を残して欲しいです。

緑に囲まれた景観が良かった。

住宅街だが各家庭に緑が少ない。

特に植物が大きく素敵である。建物は古い学校のよう。庭も広々していていい感じ。建物はいまいち。

豊かな自然が地球や子供達をはぐくむ。

武蔵野市内にこんなに広く緑がある気持ちの良い所がある為、多くの方に知っていただきたい。

武蔵野で一番大切 地元にこういった貴重な建物と庭が一体となった空間があるので残してほしい。

武蔵野の緑あふれる環境のなかに、こうしたすばらしい建築物が残されているという点が評価できると思うため。

素晴らしい芝、もみじ、藤のテラスなど市民生活に“いこい”と“うるおい”を与える空間と思います。リフレッシュできました。

旧赤星邸を眺めながら、日当たりの良い広々とした緑豊かな庭でお菓子やお茶をいただきながら、本などをめくり一時のくつろぎの中で過ごすことが出来たら幸せに思います。

庭と緑の景観が素晴らしかったです。思ったより庭が広く日当たりが良くて気持ちのいい空間です。庭にテーブルやイスを置いていただいて、休憩出来るスペースとして活用が出来れば嬉しいです。

大きな樹も芝生も今後も手入れをして保存していただきたいです。今日はありがとうございました。

武蔵野市の吉祥寺周辺はほぼ住宅建物で埋まっております。この緑は貴重です。何とぞ緑の保全をよろしくお願い申し上げます。

武蔵野市に移り住んで25年。駅前の賑やかさ、便利さも良い点ですが、何といっても緑が豊かな場所がある、ホッとできる場所があるということです。心があらわれる場所があるのは魅力です。

緑が消失していく昨今（市内でも緑豊かな住居が細分化）貴重な緑地。より魅力的ヘリティージにリフォームして、地域が誇りに出来る、そして楽しく気軽に利用出来る武蔵野市文化財産としてKeepして欲しい。

緑豊かな武蔵野であって欲しい。

文化伝承

緑は失われても再生できるが、一度失われた文化は二度と再生できない。伝統的な建物には独特の雰囲気があり、過去とコミュニケーションできそこからまた過去を踏まえた新しいものが作り出せるかも知れない。

戦前からどうやって残れたか、と言う歴史も伝え残したい。キリスト教が買った経緯や文化を伝承してほしい。歴史を残してほしい。

緑も大切ですが、建物の素晴らしさも守っていってほしい。

何でも開発してしまう現代に残してほしい文化遺産。

貴重な建物だから。

武蔵野市の発展の歴史を伝える良い文化財。庭の美しさが印象的で、心も休まる貴重な空間。市民の共用の場で、歴史に触れる場となる。

古くて価値のある建築物が壊されてなくなっていく昨今、新しい用途を持たせて次世代に引き継いでゆくことが大切だと思います。

建築物と景観が評価され、緑の保全を推進している武蔵野市の施策と合致して、今に至っていることとても評価しています。文化を守っていただきありがとうございました。

今回初めて知りました。このような素晴らしい歴史と建築物をいつまで歩保持し、後世に残してほしい。

地元にこんな歴史的価値のある建築物があったことを知らなかった。今回見学して驚き、感激しました。高い文化的価値を損なわず、保存してほしい。広い庭や自然環境も素晴らしいと思いました。

見学ができる貴重な古い建物。

レーモンド設計の建物が武蔵野市にあることに価値があると思う。ただ見学がもっとより広範囲にいろんな人を見てもらえると良いと思う。

近年古民家カフェなど昔ながらの建築の再活用が注目されるなかで、旧赤星邸のような建物を継承し、長く今後に残していくことが重要かと思いました。(古い建物が耐震の問題で壊れてしまいがちのため)

世の中が似たようなものになっていくなか、昔の衣装を見るとその作りに個性を感じる。一旦立ち止まって昔に戻って見てみると、その中に新しさも感じる。そういった中に赤星邸も位置づけたい。

赤星家であったからこそその建築、庭園の造営である。これを文化として、武蔵野市から発信し、今後につなげてほしい。今後の日本を委ねる小・中学生の参観を大いに期待する。文化を伝承していくためには子どもへの教育・伝承が重要。令和4年まで残っていることが希少である。

日本の建築はどうしてもスクラップビルトでつくられていくので、どうしても特に近代建築が失われがち。歴史建造物としてでなく、有効活用する形で使用していくことを考えるべきだと思っている。

登録有形文化財に登録される近代建築の歴史や、その時代、風土に根ざした建築等を伝えていくべきだと思った。

武蔵野市の歴史や文化を地元の人たちに残し、伝えていくことが大切だと思います。古い建築を壊したり、作りかえてしまうのではなく、活かした形で残してほしいと思います。

近年古い建物がどんどん壊されて（相続税のため？）チープなマンション住宅地になり、文化・景観的に日本らしさがなくなってきたいるなと感じるため。

新しい家屋、建築には「あそび」が少なく（時にはなく）、合理性ばかりが追求されているが、昔の家屋には「何に使うの？」と思うようなあそびがあり、それが人間の想像力や余裕、豊かな感性を育んでいたように思う。

アントニン・レーモンドがつくった建物として歴史的価値があるので残してほしい。
地元に貴重な文化財があるのが、素晴らしいと思った。
歴史的建築が保存され地域の人々に価値を伝えることができる。
古い建物を残すため、庭園と一体となったものは少ないので、特に意義があると思う。
アントニン・レーモンドの戸建てを伝承してほしいです。
これだけの建築と庭が市街地に残されているの極めて貴重。オリジナルに戻せるところは戻し、活用しつつ、文化財を残してほしい。
素敵な歴史ある建物が武蔵野市にあるのがうれしいので、大切に守ってほしい。
見学させていただいて、当時の工夫ある美しい建築をぜひ大切にしていただきたいと思いました。年月をかけてお庭に育っている木々も、なるべく保存していただきたいと思います。大きな樹木も多く貴重だと感じました。
レーモンドが考察した、日本に於ける建築様式と他に残っている建物との比較が可能となる。
モダンな洋風建築で、和装の女性が住んできたことに趣を感じる。当時の日本文化を国内外を問わず発信できる施設にならうれしい。着付け体験や能、狂言、歌舞伎鑑賞な、羽子板や昔の遊びなど建物の歴史と体験が結びついたものが、ふさわしいと思う。
レーモンド建築の素晴らしさをこれからの方々にも知ってもらいたい。近くには東京女子大もあるので、関連付けて伝えていくことができれば良いのではないか。
建築物として素晴らしい、価値があると思う。吉祥寺にこんな貴重な建物があること、大切に守っていってほしいです。
空間全体を次の世代に伝えていってほしい。
私の住む武蔵野市!!(他市の友人に住みやすさ、老人の私たちへの福祉、いつも自慢している)そのうえ、今日の赤星邸の見学にすごい!!と感じ、この素敵なかたちを自然のまま残してほしいです。

歴史的建造物の意義や価値

歴史を知ることは大切だと思うから。
歴史的価値のある建造物に日常的に触れる機会を持つことで、文化財保護の重要性をより多くの方に再認識していただきたいから。
とても貴重な近代建築であり、見たこともない木材が使われていて驚いた。玄関、らせん階段、2階からの眺めが特に素晴らしい。
市内には珍しい緑と文化的価値を両方持っている魅力ある場所なので、大変貴重だと思う。旧朝香邸に似ている。同じような公開の仕方が良いのではないかと思う。
白金の庭園美術館のように庭、建物を含めて楽しめるような施設ができればと思いました。
近所に古い建物を大切にするものがあることが有意義。
この地の歴史をふまえ、この建物がどのような経緯で建てられ変遷していったのかを具体的に知ることができました。武蔵野市には、多くの文化財があるはずがあまり明らかになっていない。旧赤星邸からさらなる広がりを見せてほしい。レイモンドの建築として、完全に近い形で残っているのは本当に貴重です。
住宅街に残されたオアシスの様な存在。歴史的建造と共に残った空間を次世代に継げたい。
都心でなく吉祥寺にアントン・レーモンド設計の建物があるのに驚いた。赤星さんの生涯についても興味がわいた。
国立博物館創立時の事情を知って、身近にあるものは時代の変化に応じて容易に壊されてしまうこと、それを防ぐには相当の努力が必要であることを思った。壊してしまったら戻

らない。保全していくには努力と信念が必要となる。

建物を作った背景などは、私的には重要だと思わなかったが、昔の海外建築様式や当時のデザイン性など、今の環境からは得られない目で見る文化財が非常に貴重であり、面白いと感じた。「文化伝承」をすることで「5.子ども・教育」にもつなげることができるので、まずは2番を選択した。

・歴史的価値の維持と継承が重要　・公開方法も憂慮（周辺環境との共存）

文化は意識的に残していくかないとあつという間に無くなってしまうので、この建物が改装はされていても形、庭共に現在まで残っていた事はとても貴重だと思うので、このまま無くしてはいけないと思いました。

武蔵野市の歴史を知り伝えることができる。そのまま残っていることで当時の感覚を体験できる。

赤星邸の歴史、建築の文化的価値、その背景を整理いただき、可能な限り元の姿に近く復元いただければ、伝統的な日本の美やモダンな考えに多くの人が触れることができると感じたため。

身近に有形文化財があるというすばらしいことを伝えていってほしい。

形あるものは、意識をして保存しなければ残っていかないですし、形のない文化や風習は、形ある文化財と共に語り継いでいかなければ伝承していく事は難しいと思うからです。

現在にはない文化、歴史を知ることができる。

後世に地域の文化的財産を残したいから。

レーモンドの手がけた庭も含めた建築物がすばらしいと思うので、うまく残してほしいと思ったから。

レーモンドの設計建築の個人住居を保存することに意味があると思います。赤星氏がレーモンドに依頼した経緯等時代背景も知りたいと思いました。

自分の住んでいる地域に登録有形文化財に指定された価値ある建物が残っているという事がすばらしいと思いました。建設当時の歴史的観点を含めて後世に残していくべきだと思います。

アントニンレーモンドの設計による現存する唯一の個人邸であること。それを再現して残し、伝えていくことが重要であると思う。

レーモンドが設計し建物がどんどん無くなっている。是非とも残すべきと考える。

すばらしい家に感激しています。ここが残されていた事が奇跡に思われます。日本は建物を大事にしないように思え、都市開発等で歴史ある建造物が次々こわされていくのを、何も出来ず悲しい思いでいます。どうかこの建物を次の世代の人に残して下さいますようお願いします。新しい建造物はきれいです。でも何の歴史も感じられない。あの時代にこの建物を造った人々の思いも大切にしたいです。よろしくお願ひします。

貴重でユニークな建物と、庭を含めた空間を維持したい。

この邸宅がなぜこの場所に建築されたのか？当時の最先端の技術を使用した建物か。何もなかった場所に現実の建物を保存することが重要と思いました。

素晴らしい建築物の保存と体験できる場として身近になるとよいと思いました。

古いものを壊してしまうのではなく、保存して活用することが人類にとって大事だと思うから。

武蔵野市には歴史的な建造物が無いので、赤星邸の建物内部に素晴らしい建築が細部に見られ価値のあるものだと思い、多くの人達に見て頂きたいと思いました。

武蔵野市に戦後より住んでいますが、市内に有形文化財が存在するという素晴らしいこと、意義をのちのち子供、孫などの次の世代に残していきたいと思うからです。

日本は海外に比べて古い建物を保存する活動が少ないと思います。耐震化の問題もあると思いますが、今日のように市民に公開していただき、とても感謝しております。以前からこの中を一度見てみたいと思っておりましたので、今日は有難うございました。

現代ではむずかしい手仕事的デザインや工法を实物を見て学ぶことができる。

歴史的建造物はなくなってしまうと二度と見られなくなってしまうのが残念で仕方ないので、今現存しているものだけでも大切に保存し伝承してほしいと思うから。

当時の建築の特徴をそのまま保存して、次の世代の人たちが学んでいくために。

市（武蔵野）内の「登録有形文化財」として末長く、市民の誇りとなるものでありたい、と思うから。

良好な都市景観の形成

駅前の騒がしさから離れて静かな空間があり、緑豊かで精神的な心地よさがある。

今まで修道院と個人の別荘だったため、昔から替わらない武蔵野の面影が残っていると思う。建物も貴重なので、耐震工事はしてもなるべく現存のものを残してほしい。

これだけの建築物、歴史的建物や緑があるので、大切にしてほしい。

日本、東京全体、都市景観が整った国ではない。武蔵野市も全体で見るとまだまだ美しい所。この場をきっかけ、拠点に都市景観につながるようこの場を守る。まずはここから大切に。

景観の良さは住みやすさに重要な要素だから。もう少し庭を外からも楽しめるようになると良い。

これだけの緑が残っているのは貴重なことで、その価値を街全体で享受できることが重要と思うため。

住まいが南側の隣で日頃から緑を楽しめていただいている。これだけの敷地をもっとステキに空間になったらと望んでいます。

貴重な建築物と庭が現存するので、それを活かしたい。

建物、庭を保全してほしいから。この地域にとってこの空間は愛着がある。この空間があるから、この場所を選んだ。

緑のある町で良好な景観を保全しておくことが、将来にわたって大事。

住んでいるエリアに歴史的建築物があると思うと、心豊かに暮らせるような気がします。武蔵野市民であることが自慢できそう。

人間が生きていく上で、また都市との接点を考える上で、大切な点だからです。良い環境と良い生活とは結びついていると思われますので、こういった拠点を整備、継承していくほしいです。

街並みの中に、建築と自然とがうまく共存した空間があることに癒しを感じます。

緑の保全と創出や文化伝承にも共通することだと思いますが、武蔵野市の良いところは緑が多く、文化的という点だと思うので、昔の建築などをもっと残すことで、さらに良い都市景観になっていくと思います。

公園の整備にあたって、現代的な公園のイメージにとらわれず、建築の中から見た庭園の様子や庭園の中から見た建築の姿に意識いただき、かつ地域に開かれた空間となることを期待します。

武蔵野市にある有名建築家の残した建物と庭を保全することは大変意義のあることだと思います。また、後世に残し文化を伝えることも良いと思います。

緑に囲まれた中に立つ建物は都市の中で潤いや安らぎのある空間となり、武蔵野市の価値を高めると思います。

市街地であるにもかかわらず豊かな緑があり、ぜひこの緑を残してほしい。すぐ近くに住んでいるが、ここに素晴らしい建物、庭園があることつい最近まで知らなかった。

由緒ある建築物と緑豊かな広い庭、バス利用で便利な場所にこのような敷地があるのは市民として誇れるものだとthoughtでした。

武蔵野の魅力を外部へ伝える良い材料になると思い、素敵な街を残していくください。

周囲の環境と共に古くからの暮らしぶりの豊かさを感じ、現代にも生かしていくことが精神的な豊かさをもたらしてくれるを考えるから。

歴史的背景のある建物と豊かな自然環境を合わせて持つ貴重な存在だと思います。武蔵野市の大変なイメージづくりに役立つと思います。

都会にありながら、緑豊かな建築物であることを武蔵野市としては大切にしていただきたい。

立派な庭と建物を大切に保存していってほしい。

建物の文化的価値も素晴らしいが、同じくらい広大な庭と緑の保存度が素晴らしいと思ったため。豪邸の庭づくりの文化を継承していってほしい。

最近マンションの林立や宅地の細分化で、緑が減少し、街の景観が悪くなっていることが気になっています。(私の好きな)前川國男や吉村順三の師であるレイモンドの建物とともにこの良好な景観を残してほしいと思っています。

建物だけではなく、広いお庭はそのまま残し、身近で旅行気分を味わえる場所として活用してほしい。

緑豊かな町であり、商業都市、学園都市とさまざまな特色ともうまく調和し続けて欲しいです。この空間で時代やニーズにあったWorkshop やセミナーなど開催する等して、多くの人々にこの美しい空間を満喫して欲しいです。

新しく便利なモノが並ぶ街も良いがゆとりのある空間を使った建物は重要で、失ってはいけないと思う。形が変わっても良い環境の一部として残って欲しい。

レーモンド建築を残し次代に継承する事が大切だと思います。

都市に不可欠なオープンスペースとして有効に使うこと。

密な住宅環境になっている中で、決して広い市ではない武蔵野市で、贅沢な庭と邸宅を残していきたいということ。

見学する前は緑につつまれたこのお庭と家はどういう家なのだろうと興味津々でした。保存されてもっと多くの方がここでくつろげたらいいと思います。

武蔵野市のイメージを体現した空間と思える。

“赤星邸”と知らなかった時から、良い建物があると感じていました。住宅地の中に広い敷地できれいな建物と庭のある景観は街の価値を高めると考えます。

歴史的価値のある建築物の保存も重要と思うが、広い庭を持つ建物(低層)を維持することによって、本地域の景観のモデルになると考える。この建物を含む邸の存在は近隣の景観及び環境の今後に良い影響をもたらすと思います。

都市開発の目的が全て収益性に終れんされてしまうことに淋しさを感じます。(特に都心の土地開発はいたしかたない部分もあるかと思いますが) 今日、旧赤星邸に来て、ゆったりとした庭や建物の空間に身をおいて、東京の中にもこのような空間が残っていたのだなあとしみじみうれしく思いました。ゆったりとした空間は市民の心の豊かさに寄与するものと思い、選びました。

空襲の影響もあり、歴史的な建築が少ない武蔵野市において貴重な文化財である。京都の町家ではないが、こうした空間を単に保存するのではなく、生きたランドマークに活用できると良い。

縁多く、文化財としても有効なレーモンド建築は二度と手に入らない類をみるものだか

ら。

広大なお庭、魅力的な建築物があわさった貴重なものだと思うので、是非今後も守っていってほしい。

公園を含め中途半端では無い景観整備と文化財保護、そして市民が気軽に利用出来る、飲食店等も招聘し豊かな時間を過ごせる施設を希望します。

武蔵野市の緑を保存させたい！！

市民活動・生涯学習

自由学園明日館のように、文化財として残しながら、利用していくものになれば良いと思う。見学もでき、結婚式やレストランとして何度か利用したことがあります。そのような日でなくとも、様々な講座やコンサートもあり、大切にされつつ活用しているなあという印象があります。観光地として大きく開かれるよりも静かに活用していってほしいと思います。

身体を動かす、声を出すような場所が今ない。近隣の迷惑にならなければそうした活動ができると良い。堀をもう少し高くするなど工夫できれば可能か？

幅広い世代の市民で共有できたら良いですね。

子どもが集まり勉強、読書ができる場所としてほしい。子どもたちが自然とふれあえる公園としてほしい。有料でもO.K.

いいと思った点：窓が多い（開放的、明るい）／屋上がある（屋上庭園、お月見などへの発展）／天井が高い（開放感）／庭が広い／樹木が多い（大きな木が多い）／花もある
気になった点：耐震を考慮して窓が少なくなると魅力が薄れるので、全く別のエコな建物にするとか例えばシックイドームハウス（低予算？できるか）

私は地元が違う場所で、大学生になってから武蔵野市に住んでいます。新聞で、今回のイベントを見なければ、このような建物やそれに関する歴史があるとは知りませんでした。このような機会があることで武蔵野市（地域）への知識、理解が深まり、愛着もわくと言うことはとても素晴らしいことだと思うので、市民活動・生涯学習としました。

成蹊に通っていたので、この場所は知っていましたが、具体的にどんな建物か知らずに通っていました。建物の価値や歴史を市民に周知し、市民が誇れる活動拠点としていただきたいと思います。

建築物も庭も、その空間の中で過ごすことのできる時間が一番の価値だと思います。見るだけや、一度だけ訪れるだけではなく、季節のうつり変わりや1日の中での時間の変化を、住むことはできなくても、感じる機会が多いことで、多くの人の気持ちに心地良さを与えてくれると思うからです。

市民活動等に活用出来れば必然的にこの文化と美しい庭にふれる事が出来、活動や学習を行なながら自然と肌で様々なものを感じられたら魅力的だと思うので。

市民にこのすてきな建物、庭を使えるようにしてほしい。

庭と一体になったこの空間で市民がこの建物の歴史を知り、文化を伝承してゆく、守ってゆくのは基本。せっかくのこの建物を使っていくことも大切だと思う。

広い世代が交流出来る場としての活用が良いと思います。住宅の暖かさと緑いっぱいの庭でゆったりと過ごせる建物として活用して欲しい。

すてきな人がたくさん増えて、すてきな市になると思うからです。

子ども・教育

間近の第一小学校の学童が増えている。校庭には学童の施設が増設され、校庭がさらに狭くなってしまった。子どもたちがかけっこ（鬼ごっこ）したり、虫を見つけたり、遊べる機会の一助になつたらいいと思う。放課後など。子どもたちにこの価値がわかるよう課外授業などして学校と連携してやってほしい。

中高生の行き場がない。コミセンに行っても追い出されてしまっている。小さい子ども向けは十分やっていて、転入してくる人も多い。中高生が自由に使える（勉強やおしゃべり）緑豊かで文化的な施設で、子ども、大人、高齢者、障害者全ての人に癒しと安らぎ、安心を得られる環境が、旧赤星邸にはあると思う。

子どもの遊び場が少ないので、いつでも本が読めたり、安全に過ごせるところとなれば、いいと思います。

緑豊かで良質な近代建築に、子どもが自然にふれあえたら、良い感性につながるのではないかと思いました。

若い人たちが日本にいながら、世界平和について考えるきっかけになるような場となってほしい。

歴史上何があったかなど、この地域に住む上で知つていてほしい。建築物のデザイン等、子どもたちのいろいろな発想の刺激になればいいと思う。小さな公園は多数あるが、この広い土地が公園になればとても子供達は楽しく過ごせると思う。

子どもにとって（大人にとっても）歴史的に貴重な建物での空間体験ができる機会は非常に希少なため。

地域福祉活動

文化財として飾らない。誰もが心豊かに心配なく生き生きと活用してほしい。毎日を過ごしていくために心のケアも含めて、歌を聴く、絵を鑑賞する、物づくりをするなど（ボランティアでも）地域で見守っていくことが大事だから、特定の人だけの屋敷にしない。誰も見捨てない福祉。

観光・産業の振興

立地が良く（バス停が近い、駅からも歩ける、大学と連携もしやすい、吉祥寺駅）いろんな利用が可能で、楽しみな気がします。イベントも期待します。

これをきっかけに観光地の一つになれば、街が活性化できるといいと思う。文化伝承が目的になると保存していくのに財政負担がかかる。

単純に文化財としてではなく、50年、100年残していくために、近代建築物の少ない武蔵野市の中でシンボルになるものにした方が良いと思う。しっかり建物と庭に残すために、商用利用も含めて活用すべき。

建物はできるだけあるがままに残したい。登録有形文化財としての価値の最大化。この建物の雰囲気、緑あふれる庭にマッチした店を集め、利用できるようにする。駐車スペースがあれば、駅から離れていても集客を期待できる。

せっかくの武蔵野市の文化資産なので、有意義な活用が望まれる。宝の持ち腐れにならぬよう。

建物と庭でお茶ができたりすると良い。素敵な建物を楽しみながらカフェとかしたい。

武蔵野市は観光資源が少ない。

多くの人に見てもらいたい。できれば財源を確保して初期に近い姿で保存ができたら良い

と思いました。庭も洋風でとても美しいのでお茶会（和でも洋でも）のイベントをするのもステキ。静けさが魅力だと感じたので観光の雰囲気を北と南で変えてプランを組むと面白そうです。

多くの方に見ていただきたい。→今後費用がかかることは目に見えているので、観光に活用してもうける（言葉は悪いですが）ことができればよいかと。文化財を巡るまち歩きツアーやベタですが、当時の洋服を着て写真撮影、ロケ地活用。どこでもやっていますが、できるだけ多くの方にかかわる様にしてほしい。

武蔵野市としての魅力を高めるためにこのようなものを増やしてほしい。

防災態勢強化

本庄地域に防災拠点が少なく、一小だけでは不安。

防災に活用できる空間だと思います。第一小学校だけでは狭い。市民が使える結婚式場、葬祭利用（家族向き）ガーデンウェディングには絶好な場所。ちなみに私の叔父は今から50年以上前、こちらの修道院で結婚式を挙げました。

カフェ+テラスの利用、レストランがあっても良い。市民講座での利用。

広い庭があることを地域の防災のために活用すると良いと思う。

電力が太陽光時代になる。それを見込んだ防災。

その他

今後は公共施設の大幅な縮減が必須であり、その際の用地として活用が可能なため。

このような緑豊かな土地が、想像以上に広く残されていたのには驚いた。出来ればこの自然に入手を入れずに保全して行くことが出来ればと期待する。

帝国ホテル、東京女子大学の建築に携わった建築家レーモンドが手掛けた家が残されていたことに感動しました。

公開時のコメント（2）

「そのほか、旧赤星邸に期待することや心配な点」

利活用の提案

落ち着いた雰囲気を残しながら、気軽に訪れることができる施設になれば良いなと思います。

歴史的にも貴重な建築物ですので、取り壊しせず保存して、地域の名所として発信してほしい。

公共施設として、文化的活動に利用してほしいです。（四重奏のコンサート、子どものイベントなど）建物も耐震化して活用してほしいです。

建物の部屋を利用して朗読会や読書クラブを催してほしい。芝生の上で、室内樂のような音楽が聴きたい。劇も良い。暖炉のあったところに Dimpex など暖炉的なヒーターを置くとムードが出ると思う。

気軽に立ち寄れる、癒しのスポット。

デイサービス（高齢者）と学童を個々でやり、誰でも入れる憩いの場所もあったらうれしい。

一部農地にして、野菜作り、食育、災害対策。市のクリーンセンターでコンポスト（堆肥作り）があるが、それをやるのもいいかも。堆肥を作り、植木の土となる。その活動を意外と知らない人がいるかも。

特別養護老人ホームにする、または宿泊できたら楽しいかも。

マンションにならなくて良かった。芝まではできれば早めに開放してほしい。

一般公開してメンテが大変だろうが、建物も一部開放にして気楽に入れるように、見学できる程度が良い。

緑の保全。

建物も保存して、一部開放。近所だからふらっと来れるようにしてほしい。

素晴らしい施設なので、適切に守って公開してほしい。周りの人々にとって憩いの場となるような活用を期待しています。

市民の憩いの場として使えるようになってほしい。

何より緑を残して、子どもが遊んだり、青年は音楽会や音楽活動など、高齢者はお茶買いなど多世代で利用できると良い。カフェもできると良い。

このままでは利活用は難しい。ある程度手を入れながら、庭と建物を一体的に市民に食事処、カフェの場として利用。高級感を出すようなブランディングもしてほしい。利活用と保全の兼ね合い、バランスが大変だろう。

子どもが庭で遊べたら。

かつては拒絶されていた印象。4丁目付近に避難場所がないので、防災時に使えると良い。

滝など流れがあると良い。音や水なる風景を楽しみたい。

気楽に入れるように。

カフェのようなものは不要と思料します。

素晴らしい建物と庭が一体となって活用されるように願っています。

庭にあれこれ手を加えず、昔からの姿がテラスなどから眺められますように。

庭は普通公園として開放されると、すぐダメになるので、利用者、時間、目的を限定して、

みどりが保全されるよう期待します。
美術館がほしい
花はそれほど多くなくても良い。一般的な植物園のようにはせず、お庭としての空間を大切にしてほしい。落ち着く空間の雰囲気を大切にしてほしい。有料にして、年中入れるように市内のもの、芝生などにとっては良いのでは。
緑豊かな静かな環境は貴重なので、緑を眺めながらゆっくり過ごせる空間が作れたら良いと思います。
赤星氏の地域の貢献があれば、紹介してほしい。
地域に開けた施設であってほしいと思います。
建物をレストランやカフェにすると良いと思った。
景観と文化を将来にわたって守れる財源を利用者から確実にとれるようにしてほしい。
美術館が良いと思います。
庭の景観をぜひ守ってほしい。建物のクラシカルな雰囲気を生かせるよう訪れる人をうまく裁いてほしいと思います。
自由に入れるものとなると良い。カフェみたいになると良い。お茶したり、お話ししたり、くつろげる空間としてほしい。
しばらく滞在できるような装置（例 カフェなど）は良いと思います。その際には、しないの障害児施設等運営システムを入れ、利益追求型ではなく地元に貢献するようなカフェになると良い。
憩いの場として、ゆっくり建物と緑を楽しめる環境になればと感じました。（カフェなど）庭も広くて落ち着く空間なので、建物と一緒に市民が憩える場所にしていただきたい。
特に庭園はこのままにして、飲食を伴う施設等は設置しない。樹木の整備、建物の保全に注力。（家具を含む）
建物の庭の保全、単純に見学する建物でなく、体験・利用できること、一般的なコミセンや公共建物のような貸館にならないこと、50年100年先を見通した保存計画、今までの概念にとらわれない活用
屋内から見るお庭や、自然もとても美しいと思ったので、それをゆったりとみながら楽しめるといいなと思いました。
緑を生かして、ゆったりと落ち着けるようなスペースになることを期待します。
市民だけでなく、市外からの移住体験、海外からの来賓受付等、観光資源としても活用できるのではないか。
耐震工事が問題なく完成して、末永く市民に親しまれる施設として存続してほしいと思います。
美術館にしてほしい。もしくはそういう芸術に触れる事のできるスペースをつくってほしい。
このような文化を多くの人に感じてもらい、この空間に入ることで、漠然とでも「ゆったり」とした感覚を味わっていけば良いなと思う。
当初は大学や地域、NGOなどのコラボでカフェ経営が良いのではと考えていたが、庭を見ながらいすに座っていたら、静かなままもよいのかなと思った。緑がきれいに残っているので、それを保全しつつ、学生も含め、地域住民がくつろげる施設になってほしいと思う。
公園として普段から利用できる場所になることを期待している。
定期的な見学会をすることで、多くの人に見てもらえるような環境があると良い。
吉祥寺はたくさんお店があるので、観光化せずに地域の子どもたちに開放してあげたいです。

素晴らしい建築を誰でも気軽に見学できるとうれしいです。

歴史博物館や美術館の移転は庭と一体してなった空間とオリジナルの意匠を損なうので、反対。庭と一体となったオリジナル建築、土木ができるだけ継承し、市民が日常的に利用できる施設としてほしい。オリジナル建築として復元し、カフェや会議スペース、ちょっとした展示くらいで、庭は常時公開しても良いのでは。

緑の保全は大切。

学生さんも近くを通ると思うので、そのあたりもうまくつながるといいなと思いました。

建物の由来、特徴や良さがわかる展示にしてほしい。

レーモンドの年譜と赤星の年譜、歴史をバックグラウンドに紹介してほしい。

吉祥寺近隣には数少ない歴史建築物と自然を地域の活性化したい。

特定の年代や団地の利用に偏ってしまわぬように工夫してほしい。

建物と庭の一部がそろっている奇跡を損なうことのないよう利用を検討してほしい。商業ベースではなく、静かな環境で利用されるようになると良いと思う。(個人的には赤星鉄馬にも興味があり、レーモンドとの関係など知りたいです)

歴史的価値を残しつつ、保全していってほしいです。

建築を学ぼうとする学生、学んでいる学生が勉強になる。説明や歴史の流れのどこにこの建築があるのかなどの展示を工夫してほしい。

庭を利用して、カフェ等を開き、見学もできたり、大人も子どもも遊べたらいいと思う。

赤星邸の今に至るストーリーなどもっと知りたい。他の人たちにも伝えてほしい。

大人数が一度に入れるほど大きくないため、テーマを絞った活用

見学のみではなく、カフェなどに利用し、生きた建物として使用していただきたいです。

うまく保存して、将来につなげていってほしいです。

気軽に立ち寄り、くつろげるスペースになると良い。

公園としてただ開放するだけになってしまふのは、もったいないと感じる。

三鷹市の山本有三記念館が昔絵本をたくさん置いて、子どもたちが自由に過ごせる場所だった時期があります。ここもそのように地元のコミュニティに取り込んだ非日常の空間になればと期待します。(収入面では課題があるのでしょうが) うまくバランスをとれるよう検討をよろしくお願いします。

修道院だった時の名残が、今日の見学会では感じられませんでした。赤星邸でどのようにシスターたちが生活していたのか、知りたかったのですが…。建築物だけではなく、ここで何をしていたのか、この環境で何がされていたのかも知りたいところです。

一般の人が自由に訪れることができる場所として開放していってほしい。周りは住宅街で静かな場所に合って落ち着いているので、庭をゆっくり眺めながらのんびりできたらうれしい。市主催のワークショップなどをこの地で開催されたら、参加してみたいと感じる。当時の建築や生活デザイン、歴史背景を学ぶ場として活用してほしい。

素晴らしい建築物と庭園なので、今の状況を生かしつつ、今までにない公園にしてほしい。

取得の経緯で様々なことがあったと聞いています。この敷地の緑を中心とした環境を必ず守っていっていただきたい。

周辺の騒音に配慮が必要。

改修方法について

ファサード部も含め、改装して景観を良くしていってもらいたいです。

今後さらに価値の認められていく建物だと思います。風呂やトイレなども興味深く、修理の際に居室だけでなく日常使いの空間も当時の状態をできるだけ保つような修理を望みます。

建物自体がとても貴重なものなので、できる限り現状を維持し、残していただきたいです。

周囲が見えないような窓は、曇ガラスにしてほしいと思います。

北側の玄関の所に大きな木があると良いと思います。

外の塀を改修する（敷居が高く感じる）スリッパだと歩くのが大変なので、改修した方が良い。土足のまま移動できると良い。高齢の人には危険。

なるべく現状の雰囲気を維持していただきたい（建物、緑）

赤星邸を公開するにあたり、どの程度修復が可能か不明ですが、当時住んでいた様子を思い起こさせるような形で、修復できれば、さらに魅力が増すと思いました。

すぐ近くに住んでいますが、あまり大きな木がそれほど手入れもされずに、植わっているのはあまり良いことではないと思っています。もう少し間引くとか考えていただきたい。

道路側の塀を安全なものにしてほしい。

道路側の壁は地震等の時に事故が起きるので修復した方が良い。

できるだけ現存しつつも、耐震工事をしてほしい。

部分的に改修前の状態を見てみたい。（和室など）

耐震改修でそれなりに耐震壁やプレースが出ると思うので、デザインにも配慮してくれる（元の建物がきちんと活かされる）構造設計事務所（or 総合事務所）を選定してほしい！

できれば大きく変更することなく、このままの形で残していただきたい。

これをこのまま楽しめるように、一度壊したものは戻せない。建築物としての文化的な価値を大切にしていただきたい。

赤星邸をなるべく原型のまま残してほしい。

保存とリノベーションのバランスをどう取っていくのか？

内装などできるだけ当時のまま残してほしいです。

安っぽい内装はやめてほしい。

庭が素敵なので、そのまま残してほしい。

耐震改修の補強設計においては、将来の見学者が当初のアントニン／レーモンドによる構造が十分理解できるよう、補強箇所を検討していただきたいです。

建物の価値を落とすような改修や必要以上の手入れはやめていただきたい。

耐震工事で、窓を極力減らさず、開放的にしておきたい。

竣工当初の姿にできるだけ戻してほしい。（内装、家具も）

耐震補強はしっかりしてほしい。

今後市民等で活用してゆくには、誰もが利用しやすいようにバリアフリーになってくれたらと思いました。

レーモンド婦人の家具も上手に修復されると良いと思う。

当時のままの保管は難しいと思いますが、なるべく忠実に復元していただきたいと思いま

す。

和室や外観を建築当時のものに復元していただけたらと思います。

外壁は元の打ちっぱなしと黒枠で見てみたい。

外観を維持して耐震対応してほしい。

ガラスなど当時の建材はなるべきそのままが良い。

藤棚もそのまま残してほしい。

建物にあまり手を加えない、当時のままを残してほしいです。

建築としての格好良さがあまりな方。改修を機に、当日の再現や内装まで手を加えられた
ら、もっと魅力が増すと思うので、期待したい。

GHQによる改修もあったそうですが、建築当初の様子を伝える資料が残っているなら、
できるだけ元の形に復元していただきたい。

藤棚から前庭にかけて、カフェをやると良いと思う。見学の入口が少し残念な感じ（修道
院時代に増築された場所）だったので、入口をきれいにすることは重要だと思う。公開に
あたり、もう少し掃除をした方が良いと思う。

人が多く踏み入れると緑（芝）の保全が大変だと思う。自由な出入りでなく、ある程度制
限も必要であるが、その代わり道路側の塀をなくして、中が見えるフェンスにして、雰囲
気を感じられるようにすると良いのではないか。

家具のデザインが、水屋を連想させてあり、着物が入るようになっていましたり、時代を感じ
るもので、難しいとは思いますが、残していただきたいです。

運営・維持管理について

大学が近いので、入場料を少しでも取るようにするといいと思います。（予約制にしても
いいかも）アートイベントにも使える。

変な人を入れず、有料にして庭をちゃんとしてほしい。

建物の活用をするのであれば、十分な使用制限を設けてできるだけ保全された方が良いか
と思います。

建物とお庭の手入れを定期的にしっかり行ってほしい。

防犯や美化（ネズミの被害に気をつける）木の剪定を定期的にする。

建物が傷まないよう窓開け、通気回数多くお願ひします。

木々はそのままにしてほしいが、きちんと定期的にメンテナンスしてほしい。

今周辺が貴重な建物、緑が壊されている。それらが保全されることに期待している。ヒマ
ラヤスギは一度切られて残念だったので、そのようなことがないように樹木はできるだけ
保全してほしい。

赤星邸の佇まいに倣った風通しの良い運営を期待します。

改修後には通年で公開されると良いと思います。公園としてオープン予定と伺いました
が、庭だけでなく、建物内にも日常的に入館できると良いと思います。

気やすく利用できるような形態が望ましい。

公園にあるお庭についても整備を充実させて維持できるよう望みます。
枯れ葉の掃除など維持管理への苦労が多いと思いますが、ボランティアの活用を期待します。(一定時間なら私も応募します)
受益者負担でも見学にも多少の見学科なり、もし市民活動に使うのであれば、使用料を取るべきと思います。

心配な点

無制限に入り自由な場所である「公園」にすることは、近隣住民として賛成できない。
防犯など気をつけていただけないと近所に住む者としては安心です。
裏にマンションがあるので、洗濯物など見えないようにしてほしい。裏のマンションに住んでいる。今日建物の裏側から中に入る際、わが家のベランダが丸見えだと知った。今後、ここが開放される際は、こちら側で、目隠しなどマンションが丸見えにならない工夫をしてほしい。
この旧赤星邸の向かいに住んでいるので、いろんな人がもし来てうるさかったら心配。うちのマンションも旧耐震なので、せっかく赤星邸を耐震化してもマンションが倒れて赤星邸に迷惑をかけないか心配。
この場所は緑や家がきれいなのに、ビルなどのアメリカ風(都市)みたいにならないか心配です。
お庭と建物を分けて利用することになるのかなーと心配です。一体として使っていただきたいです。
あまり騒がしい場にならないようにだけ気をつけてほしい。
近代的な建物に変わってしまわないよう、開発されないでほしい。今の風景を残してほしい。
隣接しているので、防犯と騒音。特に庭の奥。
庭が入り自由な普通の公園として、開放されると荒れたり防犯上も心配。(井の頭公園など緑の多い公園ではよからぬことも起きているので)
学生の通学路上、ただでさえ道路へのゴミ捨てが多いので、公園ができたら余計心配です。
公園が無制限に開放されることには反対です。
公園になった場合、高い塀が気になります。
近所のマンションに住んでいますが、ベランダが赤星邸から見えてしまうので、気になります。今日見学したら、木が立っていてそれほど見えませんが。その後どうなるか、心配は多少あります。
樹齢の長い木が伐採されること。
建物内を歩いてみて、通路が狭いこと、木造の家具や倉があったことから、内装が汚されたり、壊されてしまうことが心配になりました。

市民の開かれた活動の場にあるのは良いと思うが、うるさくなりすぎるのは、近隣の立場としては避けてほしい。今の静けさは守ってほしい。両方は難しいことだけれど。

建物自体は古いと言うだけであり、あまり大事にしても致し方ないのではないか、改修工事などでうるさくなったりするのは困ります。

カフェとしての活用なども上がっているようですが、個人的には火の使用について心配があります。また開放は大切なですが、文化財と文化の保護に十分配慮をお願いできましたらと思います。

安易に人が入れるシステムにしてほしくない。

うるさい施設は止めてほしい。

公園になり、多数の人が訪れるにあたっていろいろと汚れていかないか心配。

あまり広く公開して、保全が十分できるでしょうか？これが心配です。

できればそっとしておきたい気もします。公開も期間限定や少人数での予約制にするものいいかと思いました。

あまり大勢の人が訪れて、騒々しくなったり、景観が乱れる、建物が傷つくことは避けてほしいです。

活発に利用されることによって、傷みが激しくなることが心配です。

旧赤星邸の東側道路は通行量も多いため、ここに来場するための交通の車との安全に注意していただきたいです。

心配な点は、耐震性と補強、再現性。市の資金で足りるのかどうか。下手な改修はしていただきたくないと思いました。きちんと維持するのは大変そう…。

維持管理に多額の税金がかかるのではないかと気になります。

重文登録は行わないでほしい。

その他

堀に囲まれて近くに住んでいたが、何の建物なのか全くわからなかった。

修道会の建物は残されるのでしょうか？

毎年アジサイがきれいに咲く。シスターがくださった思い出。

開放の機会を設けてください、ありがとうございます。ご説明もわかりやすく、建物の歴史にも興味を持つことができました。

市民の心のよりどころになるポテンシャルがあると思います。

市が所有することにしたことを評価します。よく買うことを市として決心したと感じている。

建物は改築され、特に内部は竣工当時の面影はなさそうで残念でした。

参考資料 5

旧赤星鉄馬邸の保存・利活用を考える市民ワークショップニュース

vol. 1 ~ 4

旧赤星鉄馬邸の保存・利活用を考える 市民ワークショップニュース

令和5年3月発行 / 武蔵野市 総合政策部 資産活用課

1

vol.

旧赤星鉄馬邸と建物の文化財的価値と豊かな自然環境を次の世代へつなぐため、庭と建物との一体的な利活用を検討しています。全4回の市民ワークショップでは、無作為抽出と公募で応募いただいた方から抽選で選ばれた市民の皆様と旧赤星鉄馬邸の保存と利活用を考えていきます。

ニュースレターでは、毎回のワークショップの内容を市民の皆様に発信していきます。



現地見学会の様子

ワークショップの予定

※参加申込みは締め切りました

第2回以降は傍聴可（要事前申込）

第1回 1/22(日) 旧赤星邸を知ろう

次回

第2回 3/19(日) 旧赤星邸の利活用で大切にしたいことを考えよう

第3回 5/14(日) テーマに沿って利活用アイデアを考えよう

第4回 7/9(日) 次世代につながるしくみを考えよう

第1回ワークショップを実施しました

日時：2023年1月22日（日）

時間：13:30～16:30

会場：成蹊大学

参加人数：48名（6班編成で実施）

▼プログラム

- ・はじめに
- ・現地見学とグループワーク①（取得の経緯やワークショップの趣旨、進め方についての質問や感想）
- ・グループワーク②（期待していること、気がかりなこと、ワークショップの進め方への意見）
- ・グループ発表（ファシリテーターによる発表）



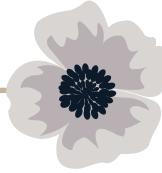
第1回ワークショップ 当日レポート

※詳しい意見概要是
後日市ホームページに掲載します

初回にあたる今回のワークショップは、旧赤星邸を知ってもらうため現地見学も行いました。はじめて赤星鉄馬を知ったという方、近代建築に興味がある方、以前から旧赤星邸を見てきた方など多様な方にご参加いただいています。後半のグループワークでは、はじめは緊張感がありましたが、グループの皆様の多様な意見に耳を傾け、徐々に和やかな雰囲気で進めることができました。

►現地見学の感想

- 想いの他建物・庭の広さに驚きました。
- やっぱり庭がきれい！
- 大事な建物なのでドキドキしながら見学させていただいた。
- 台所がどこにあるか分からなかった。
- これまで3回見学したが、今日の説明が一番分かりやすかった。
- 思ったよりも部屋数が多い。
- 広い庭が印象的。日当たりの良さも印象的。
- 洋館のイメージだったが、意外と近代的でした。
- 屋上、礼拝堂、修室棟の見学も別の機会でできると良い。
- 素敵な貴重な建物を見学できて良かったです。



グループ ワーク 1



2班／
個性的な利活用のアイデアが
生まれた。

- 様々な進めるべき政策がある中で赤星邸を市が取得を決断し、進めたことは素晴らしい！
- 歴史的に貴重な建物と庭が売却されず残ったことは良い。
- 建物の名前の由来がわかった。修道女さんも吉祥寺のまちで見かけなくなったので、どうしたのかと思っていた。
- 赤星邸のことは知らなかった。
- 民間に売却されず良かった。100年後も残せるように。
- 市民の声を取り入れながら残すのは良いが、専門家でないので良い意見を出せるか心配だ。
- 歴史的な建物と広い庭との一体活用とはどんなものか。
- 赤星邸のどこをアピールするか方向性をまとめる必要がある。
- 庁内ワーキング報告書を読んだが、利活用は思ったより法規制が多いことに気が付いた。
- 私有地から公共施設になることでクレームが増えないか。
- 登録有形文化財とはどういうもの？改装は可能なのか。



1班／予算と開設後の収入源というお金が気になるという意見が多くあります。

- 可能な場合、どこまで手を入れられるのか知りたい。
- 登録有形文化財としてどこまで利活用できるのか。
- 予算ありきで活用方法が決まるのか。想いをまとめれば、予算がつくのか。それによりワークショップの進め方が異なる。
- ワークショップと有識者会議の関係や役割、ワークショップの意見をどう計画に反映されるのか知りたい。
- ワークショップの意見やまとめが、どの時点で計画に反映されるのか。有識者会議に反映されるのか知りたい。
- 有識者会議の討議内容を知りたい。
- 市の考えを聞きたい。



3班／赤星邸を建てた赤星鉄馬の思いを大切にしたいと、班内で意見が一致していました。

旧赤星鉄馬邸の利活用に対して、期待していること、気がかりなことは？ ワークショップの進め方への意見は？

5班／市民のための場、全国から人を呼べる施設かといった議論がありました。



期待していること

- たたずんだり、目的がなくても気軽に立ち寄れる場所。子どもから大人まで使えると良い。
- 市民が楽しめると良い。
- 地域の価値が上がるような利活用ができると良い。
- 旧赤星邸の利活用により、地域活性化になると良い。
- 旧赤星邸ならではの利活用のコンセプトがあるとよい。
- すべて歴史的だから保存するのではなく、現代的な利用に合うよう保存範囲を決めたい。
- 古い建物だが、明かり取りの窓や作り付けの家具、暖房機器は生かしてほしい。
- どんどん大きな邸宅が壊され、風景が変わっているので、できる限り保存してほしい。
- 文化財として維持できる期間を設定したり、目的により人数を限定するなど工夫したい。
- 赤星鉄馬の功績と建物保存は別に捉えても良いのでは。
- 採光を生かせると良い。
- 埴で外から何も見えないので、市民を遠ざけてしまっている。今から見えるようにしてほしい。歴史や取組が分かるように堀を掲示板のように活用しては。
- 自分の得意なことやできる範囲で関わられるボランティア参加のしくみがあると良い。
- 入場料やカフェの売上などを赤星邸での売上でまかなえると良い。次世代に負担がないようにしたい。
- 喫茶室やカフェがあると、休憩しやすく、人も集まりやすい。また維持費を稼ぐことができる。
- 非営利目的利用に限定した方が良い。
- ボランティア頼りではなく、運営組織を整え、継続的に維持できるようにしたい。
- 市民が結婚式やパーティーなどができるれば、運営面や市の財政に役立ちそうだ。
- アニメ美術館として活用する と収益も出せそうだ。
- 庭を有効活用したい。
- 庭を自然の形で保存できると良い。



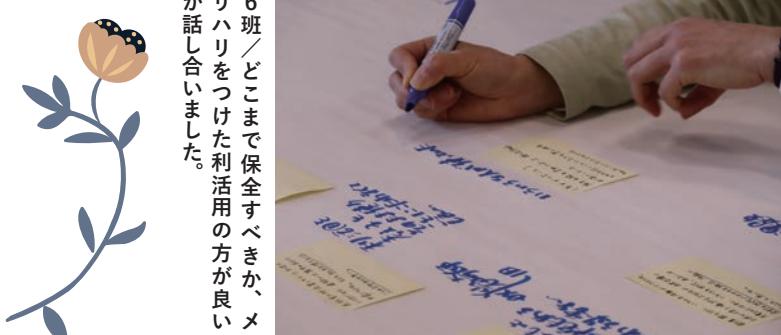
4班／利活用アイデアのほか、安全性や改修や維持コストについて意見がありました。



△気がかりなこと

- 旧赤星邸を建設当初に戻すべきか。相当手を加えないと公開できないのではないか。
- 建物に段差が多く、バリアフリーの面で課題がある。建物の文化的価値とのバランスが難しい。
- 建物と庭の一体化が大切だ。ただ建物の利活用の方向性によって、庭の状態も変わってしまうことが心配だ。
- 保存と利用のバランスが難しい。建物にどの程度手を加えるのか難しそうだ。使用されすぎたり、ずっと使用できることで故障したり、価値が損なわれないか心配だ。
- わざわざ保存するほどの価値のある建物か疑問だ。
- 公園になると、誰でも使えるようになってしまい、利用の仕方が大きく変わってしまうことで心配だ。
- 公園や観光施設になることで、騒音やゴミなどが心配だ。近隣への配慮が必要だ。
- 個人邸を公共施設に転用すると、棚や押し入れなど家具や什器などの管理が大変そうだ。
- 築90年近く経っていて、常時開放すると耐震性が心配。
- 修復や耐震、改修にかかる費用や建物の維持管理にどれくらい費用がかかるのか知りたい。市の負担や補助金、財源をどのようにまかなうのか知りたい。
- 駅から少し遠くアクセスしづらい。アクセスしづらさを感じさせない目玉となるものや駐車場整備などが必要。
- 車通りの多い場所なので、交通安全への配慮が必要だ。

6班／どこまで保全すべきか、メリハリをつけた利活用の方が良いか話し合いました。



参考者のコメントシートより

- 積極的で建設的な意見が出て楽しかったです。普段交流できない市民の方たちと同じテーマについて意見交換でき、有意義でした。
- ディスカッションの時間がもう少しあってもよいかなあ。
- ワークショップの進め方について、考えることが目的なのか、案の決定は市、有識者、ワークショップ？

旧赤星邸利活用 全体スケジュール

※現時点における想定であり、今後の検討状況や補助金申請状況により変更になる可能性があります。

令和 4 年度
(2022)

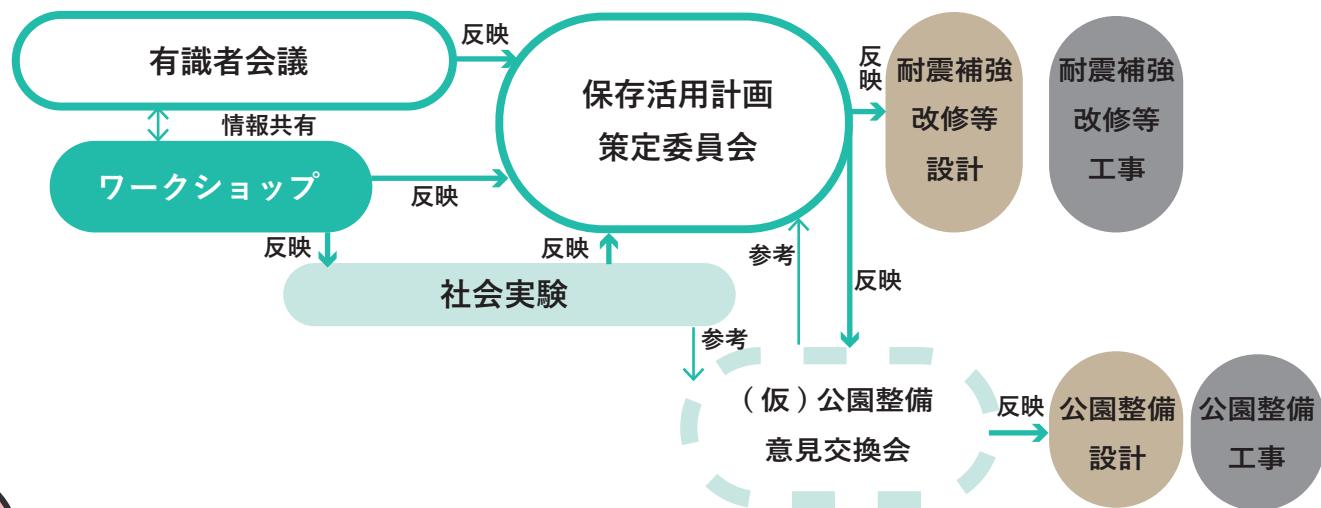
令和 5 年度
(2023)

令和 6 年度
(2024)

令和 7 年度
(2025)

令和 8 年度
(2026)

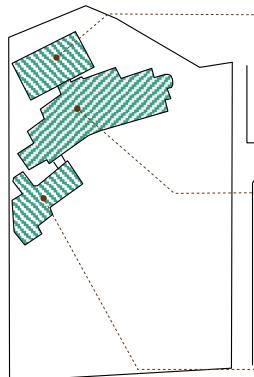
令和 9 年度
(2027)



POINT

旧赤星鉄馬邸とは

「旧赤星鉄馬邸」は、著名な建築家アントニン・レーモンドにより個人住宅として設計され、昭和 9 年に竣工した鉄筋コンクリート造の建物で、令和 4 年 10 月 31 日に登録有形文化財に登録されました。令和 3 年 2 月に、前所有者のカトリック・ナミュール・ノートルダム修道女会より、この環境を残したいとの思いから、市が建物の寄贈を受けました。



礼拝棟
建築年次：昭和 54（1979）年
構造規模：RC 造 地上 2 階
延面積： 240.0 平方メートル

旧赤星邸（登録有形文化財）
建築年次：昭和 9（1934）年
構造規模：RC 造 地上 2 階地下 1 階
延面積： 635.0 平方メートル

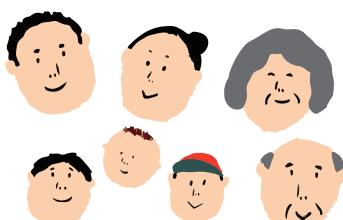
修室棟
建築年次：昭和 54（1979）年
構造規模：RC 造 地上 2 階
延面積： 320.8 平方メートル



みなさまの声を聞かせてください！

市ホームページにて、旧赤星鉄馬邸の保存・利活用に関する意見を募集しています。

いただいたご意見は保存・利活用検討の参考にします。



▼意見はこちらから



問合せ先 〒180-8777 武藏野市緑町 2-2-28 武藏野市役所 総合政策部 資産活用課

電話：0422-60-1973 fax：0422-51-5638 E-mail：sec-shisankatsuyou@city.musashino.lg.jp

旧赤星鉄馬邸の保存・利活用を考える 市民ワークショップニュース

令和5年5月発行 / 武蔵野市 総合政策部 資産活用課

2

vol.

旧赤星鉄馬邸と建物の文化財的価値と豊かな自然環境を次の世代へつなぐため、庭と建物との一体的な利活用を検討しています。全4回の市民ワークショップでは、利活用で大切にしたいこと、保存・利活用のアイディア、次世代につながるしくみと一緒に考えていきます。

このニュースレターでは、毎回のワークショップの内容を市民の皆様に発信していきます。



第2回ワークショップの様子

ワークショップの予定

※参加申込みは締め切りました

傍聴可（要事前申込）

第1回 1/22(日) 旧赤星邸を知ろう

第2回 3/19(日)
旧赤星邸の利活用で大切にしたいことを考えよう

第3回 5/14(日)
テーマに沿って利活用アイデアを考えよう

次回

第4回 7/9(日)
次世代につながるしくみを考えよう

第2回ワークショップを実施しました

日付：令和5年3月19日（日）

時間：13:30～16:30

会場：武蔵野スイングホール

10階スカイルーム

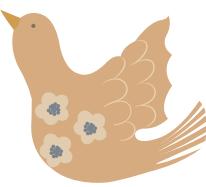
参加人数：46名（6班編成で実施）

当日のプログラム

- 前回のふりかえりと今日の進め方
- 市からの情報提供
- テーマ1：「市からの情報提供の内容を確認し、意見交換しましょう」
- テーマ2：「旧赤星邸の利活用で大切にしたいことは？」



第2回ワークショップ 旧赤星鉄馬邸で大切にしたいことは



01

視点をもとに意見を出し合おう

前回ワークショップで出された視点に修正、追加がないか確認したうえで、視点をもとに「どんな過ごし方ができるか?」「使い方ができるか?」想いやアイディアを出し合いました。

視点 1 市民のための場

日常的に、気軽に使える

日常生活の延長上で使え、近隣住民が気軽に過ごせる場所にしたい。

庭でピクニックしたり、子どもが遊んでいるのを親は室内から眺めて飲食が楽しめるようにする。コーヒーやお茶を飲みながら、きれいな庭や藤棚、緑を眺めてぼーっとしたり、ゆっくり休め、レーモンドの想いも感じられるようになる。

市民自らが主体的に管理できたり、お母さんたちの勉強ができる場所、夜もカフェなどで入れるが健全な場所が望まれる。

静かに過ごす、癒される

旧赤星邸はクローズの良さもあり、ただたたずむ贅沢を大切にし、日々の疲れを癒やせるようにしたい。

利活用のアイディアは多く出ているが、運営費用がかなりかかると思われるので、静かな使い方に絞り込む方が良い。また近隣にとっても迷惑にならないようになる必要がある。

様々な人との共生、交流の場

建物と庭を使って、健常者と障がい者が共生できる社会をめざした意識づくり、教育の場や多世代交流や国際交流などの場所にしたい。

グループでの集い、活動の場

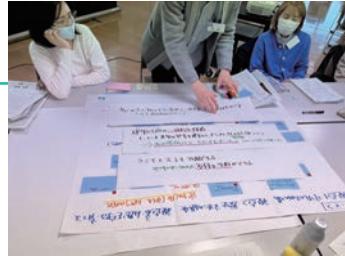
市民の冠婚葬祭や、地域の保育園や高齢者施設の方など市民も参列できるような開かれたセレモニーができる。また地域の団体や子どもたちのガーデンパーティーや発表の場、コワーキングスペースなどビジネスパーソンが集まる場所にする。

子ども、10代、若者の居場所

子どもが大切にされて育ち、楽しめる。こども食堂や中高生のための居場所、小部屋を活用した勉強やおしゃべり等自由に使える空間や、子どもの劇団や若者の演奏の練習や発表の場になると良い。蔵の部分は若者がクリエイティブなことをする場にできる。

多様な使い方ができる可能性（市民 + α）

世代や障害の有無にかかわらず誰でも使える施設にし、地域のためにやりたい人たちがチャレンジできる。今からターゲットを絞らずに社会実験で検証してから考えていくのも良い。



視点 2 歴史・文化の継承

建築を楽しむ、知る

アントニン・レーモンド設計の施設として楽しんでほしいので、一部は見学のみ可としたり、有料制でも良い。建築マニアはレーモンドの名前で訪れる人もいる。また建物についてよく知ってもらい、大切に扱う意識も育てたい。

場所の歴史を感じる、伝える

旧赤星邸を守ることの大切さを伝えるため、学校やイベントなどでの教育や組織づくりや実際の場所を使って、当時の生活を感じられるようにしたい。

赤星鉄馬の思想や行動を継承し、学習や研究にまつわるものやボランティア活動ができる場になると良い。

赤星鉄馬一家や修道女会が使用した流れを感じ、知ることで、武蔵野市の歴史や地域性を知ることができるようになる。

建物と庭を一体で楽しむ

藤棚など屋外と屋内をつなぐ場所が今でも充実している。その一体感を楽しむ趣味活動ができる場所として整備し、一日の時間の流れ、四季の移り変わりが感じられる場所にしたい。



視点 3 自然を守る・育てる



既存の緑を守る

開放的な庭で、貴重な緑空間なので、自然を守り、大きな樹木など既設の植物をいつくしむことができる場所にしたい。

市民が参加し、活用し育てていきたい。

自然を楽しむ、生物多様性

虫とりができたり、コモンズとして庭を小規模農園や菜園にしたい。地域由来の植物があるような環境や遊具のない遊び場があると良い。



視点 4 観光資源

観光資源として活用

観光資源として、全国の建築好きを引きつける場所にしたい。また、市全体としての観光資源にしたい。

レーモンド建築や赤星邸、修道院と複数の文脈や価値を束ねるコンセプトが必要だ。

庭を生かした資源に

季節の花を楽しんだり、庭の雰囲気を生かした「赤



星フラワーガーデン」にし、庭でお茶を楽しんだり、ガーデンツアーアとして市外から訪ねられると良い。

視点 5 持続可能な利活用

次世代に伝える

50年、100年とリアルに使え、見学できるように維持したい。旧赤星邸を残した目的や経緯を次世代に理解してもらいたい、価値あるもの、この場所があることを誇りに思えるようにする。また今の時代に即した使いができるようにする。

きちんと保存し、使えるようにしていくためには、管理主体へ支払う維持管理費は必要経費としてかかる。収益も考えないといけない。

収益を得る

土地取得費用が高額なので、収益のある施設にしないと持続的な運営は厳しいのではないか。

2階をオフィスにしたり、ギャラリーとして利用して若手の芸術家発掘の場やフィルムコミッション等に使って、収益を得たり、他のレーモンド建築とも連携し「アントニン・レーモンド建築基金」をつくってはどうか。

市民による管理

営利事業ではない収益をあげる方法を考え、市民の自由な活動の場にしたい。

市民が掃除したり管理運営に関わってはどうか。市民が管理・運営するのが良いが、ボランティアだけでの運営は難しいだろう。

視点 6 その他

安心安全

塀が高すぎて、中が見えない。周辺は交通量が多く、子どもの飛び出しが心配だ。

周囲の方の安心感を得るために、クローズにしながらも中がわかるような外観、開閉門の時間を決める、安全に入退場が管理されている方が良い。

マナーの悪い使い方を排除するために、開放しすぎないようにしたり、一部有料化するなども考えたい。



参加者コメントシートより

- 他の方の意見を聞きながら、だんだんと自分の考えも変化していったように思います。
- ワークショップでの検討結果がしっかりと生かせることを期待します。
- 当日説明のボリュームがあると感じたので、資料は事

02 グループ発表、シール投票

グループ毎に短冊にまとめた意見を発表後、全員でシール投票（1人3枚）をしました。

●内の数字は当日のシール投票数

ぼーっとしながら五感を満たす、季節とともに
ex) 食事、お酒、お茶

市民のための場として、おだやかな気持ちになれたり、様々な年代が交流したりイベントできたりしたい

赤星鉄馬+ナミュールの歴史 守ることの大切さを次世代に教育する

建物と庭の一体的な保存、レーモンド建築の質素な建物をもう少し手を入れた（整備）庭づくり
⇒あの場所らしさ、たたずむぜいたく、クローズな良さを楽しむ

市民のリビングとして生活に地続きの場所にしたい
市民が主体的に管理する

100年後の人「この場所があつて良かった」と思える価値ある活用を！！ 新しい視点／「建物がある」だけでなく「人が集つてこそ」の場

コンサートや結婚式会場等に活用して過ごした時間が思い出になる場所に（建物の保存、近隣にも配慮）

土地が持つDNAを（50年、100年）つなげる
赤星さん、レーモンド、中島飛行場、修道女会、歴史

庭の芝を生かしてセレモニー・イベントなどの動的活動と静の活動でゆったりと飲食しながら過ごす

広義の市民（市内市外問わず）が小さな結婚式、家族のお葬式、卒園の集いとか小さな集まりができる

様々な人（子供・障がい者・高齢者・多様な人種の人etc）が集い、共生できる愛のあふれる場所に（ピクニック、参加型ワークショップ、休憩所、子ども食堂として）

お庭を楽しみ、建物と一緒に眺望が楽しめる場として活用 ボーっとする、絵を描く、ガーデンツアーや

子どもも大人も利用できる

地域のリビングのように多様な活用ができる

近隣の人にとって利用者にとっての安心・安全のために少しclosedなしつらえ（少し中が見える、出入りは限られたところだけ）と運営（常時開放やペット×）

みんなのおうち、余白を残す

コミセン、施設ではなく家、使われ方、使う人

お母さんたちの勉強やコワーキングスペースとしてクリエイティブな場に 赤星鉄馬の想いを受け継ぐ

多くの方に知つてもらひながら（を巻き込みながら）、近隣への配慮は欠かさず

歴史文化を継承しながら、建築好きをひきつけたり、文化、アートギャラリーとして使いたい

前に共有していただけだと、多少なりとも目を通すことができ理解が深まると思います。

・ 言いたかったことは全部話ができました。ただいろいろさまざまな意見があり、まとめるのが大変だなと思いました。

旧赤星鉄馬邸利活用での前提条件

～第2回ワークショップ市の情報提供より抜粋～

※詳しい内容は市ホームページ掲載の資料をご覧ください。

自然環境の継承

- 公園空白地域内にあるため、公園として整備
- 32本の保存樹木は樹木医診断のうえで保存の方向性を検討
- 具体的な公園整備の設えは、保存活用計画策定委員会と並行で公園整備意見交換会（仮）の実施を検討

建物の有効活用

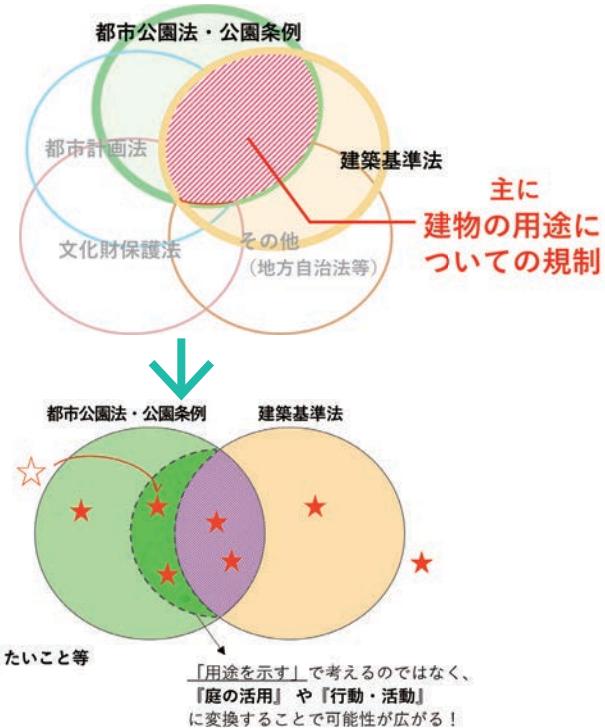
- 文化的・歴史的な価値を守るために必要な修復・補修、復元、耐震補強等の改修
- 公共施設としてのバリアフリー化
- 安全性を確保するための改修等（アスベスト除去、避難経路確保等）

財政負担の軽減

- 登録有形文化財の利活用検討や建築改修等に係る文化庁の補助金を確保
- 敷地全体を都市公園とし、国や都の補助金を確保
- 財政負担軽減のための運営方法を検討
- ふるさと応援寄付（ふるさと納税）を検討

POINT

法的な規制は主に建物の用途に関すること
→庭の活用方法や、何をしたいか、どんなことをしたいか、を考えることで可能性は広がる！



日の質疑応答より

Q. 敷地全体が都市公園となる前提での利活用検討ということであれば、市民ワークショップではどんな意見を出せばよいのか？

A. 「公園」といっても遊具のある公園だけでなく、もっと幅広く、緑地や庭園型など様々です。旧赤星邸鉄馬邸建物の保存・利活用はもとより、庭の活用もあわせて検討を進めています。市民ワークショップでは庭と建物を一体的にとらえて、何を大切にしていくのか、何をしたいかを考えていただき、そのアイディアを秋以降に実施する社会実験に活かしたいと考えています。

Q. 敷地内の旧赤星鉄馬邸、礼拝棟、修室棟の3つの建物のうち登録有形文化財はどれか？

A. 旧赤星鉄馬邸のみです。礼拝棟と修室棟は建築年数も浅く、登録有形文化財の要件を満たしていません。

Q. 旧赤星邸の利活用に関する予算は、修繕や維持管理等も含めてどのくらいを見込んでいるのか。

A. 今現在の維持管理費は、植栽の維持管理や警備、光熱費等で年間約500万円ですが、今後必要となる予算は現時点では決まっておりません。登録有形文化財として保存するために必要な補修や復元工事に要する費用や、維持管理にかかる費用は必要経費と捉えているので、文化庁の補助金やふるさと応援寄付などの財源を活用しながら、適切に予算化していきたいと考えています。



旧赤星鉄馬邸一般公開ウィーク



公開日：5/10（水）～16（火）

秋にも開催予定です

公開時間：午前10時～午後3時30分(最終受付午後3時)

※混雑状況を市公式Facebook、Twitterでお知らせします。

予約不要

※入場を制限する場合があります。

住所：武蔵野市吉祥寺本町4丁目26番21号

順路に沿って見学します。庭も見学可能です。

※駐車場はありません。駐輪場に限りがございます。

公共交通機関をご利用ください。

みなさまの声を
聞かせてください！

Webにて、旧赤星鉄馬邸の保存・利活用に関する意見を募集
しています。いただいたご意見は利活用検討の参考にします。



問合せ先 〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28 武蔵野市役所 総合政策部 資産活用課

電話：0422-60-1973 fax：0422-51-5638 E-mail：sec-shisankatsuyou@city.musashino.lg.jp

旧赤星鉄馬邸の保存・利活用を考える 市民ワークショップニュース

令和5年6月発行 / 武藏野市 総合政策部 資産活用課

3

vol.

旧赤星鉄馬邸と建物の文化財的価値と豊かな自然環境を次の世代へつなぐため、庭と建物との一体的な利活用を検討しています。全4回の市民ワークショップでは、利活用で大切にしたいこと、保存・利活用のアイデア、次世代につながるしくみを一緒に考えていきます。

このニュースレターでは、毎回のワークショップの内容を市民の皆様に発信していきます。



第3回ワークショップの様子

ワークショップの予定

※参加申込みは締め切りました

傍聴可（要事前申込）

第1回 1/22(日) 旧赤星邸を知ろう

3/19(日)

第2回 旧赤星邸の利活用で大切にしたいことを考えよう

5/14(日)

第3回 テーマに沿って利活用アイデアを考えよう

7/9(日)

第4回 次回 次世代につながるしくみを考えよう

第3回ワークショップを実施しました

日付：令和5年5月14日（日）

時間：13:30～16:30

会場：成蹊大学

参加人数：36名（6班編成で実施）



当日のプログラム

前回のふりかえりと今日の進め方

市からの情報提供

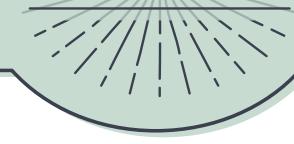
グループ討議

「大切なことをふまえた利活用アイデアを考えよう」

グループ発表とシール投票

次回に向けて

第3回ワークショップ
旧赤星鉄馬邸の利活用アイデア
を考えよう



1班

●内の数字は当日のシール投票数

1. みんなのためのみんなのカフェ 6

建築を見る人、自然に触れたい人、無目的など、いろんな人が集まる。

目的を限定せずに市民が自分たちのできることをできる範囲で、関わりながら実現できる。

赤星邸をランドマークにして時を過ごせる。



2. 武蔵野市民マルシェ（農産物直販所）3

集う、シェアする、学ぶ。



武蔵野野菜を買うだけではなく、育て方や調理の仕方を包括的に提供する場。

2班



3. レーモンド建築資料館・レーモンド先生の本棚 4

アントニン・レーモンドが設計した建物に関する資料や情報をを集め公開する。

他のレーモンド氏設計の建物（の管理者）との交流。

4. 武蔵野の実家・ふらっと行ける 6

子どもから大人まで静的に過ごすこと、一人でのんびりもできる、第3の場所、庭が魅力。

木がたくさん残されていること、庭であることが大切、館ではなく「お家」の感じがよい。

ふらっと行ける自由さ。



3班



5. 探検！みんなの赤星邸！ 7

庭と建物を知ってもらう、楽しんでもらう、静かな時間を過ごしてもらう。

6. 赤星邸（建物・お庭）の未来への伝承 7

赤星邸の歴史的価値を広く後世に伝承する→そのための収益の確保。



アイデアのもとになった意見

- どれかに選ぶのではなく複数の活用ができる場に。
- 何もしない場がとても贅沢な空間だ。
- 開かれた市民の場として、活動内容を決めて始めるのではなくゆるやかに始め、活動を試す場としてスタートし、結果を見ながら場所を作るよう余白を残してはどうか。
- 20代や30代までが集まる場が地域に少ない。
- 庭で映画を見る催しができると良い。
- 市民が庭づくりに参加できると良い。
- 繙続性を担保するには収益を得ることを大切にしたい。
- 他でもできるものではなく、この場所でやるべきことは何か。



アイデアのもとになった意見

- 静かに過ごす、癒やされると同時に建物と庭を一体で楽しめる。
- 気軽に訪ねられ、日常から離れることができるよう。
- ディベートする機会をつくり、いろいろな人が語り合う場に。
- 障害のある方が利用できる場所に。
- こども食堂、地域の人が子どもを育てるような場所に。
- レーモンド建築を集約する拠点とする。
- 初期あったオーニングなどで屋外と室内をつないで食事を体験できるよう。
- ガーデンウェディングや記念撮影で有料で貸出し、収益を得る。
- 今まで良い、木は切らないほしい。
- 埋をどうするか。防犯上も見通しを確保するため、生け垣などにして、中の様子は見えるが領域をはっきりするような工夫が必要。



アイデアのもとになった意見

- 庭を眺めながら、お茶ができるような空間はほしい。カフェ運営は用途上難しいので、やり方を工夫したい。
- 施設見学後に休憩しつつお茶が飲めるように（1階をカフェ、2階を展示室など）。
- 建物が貴重であること、登録有形文化財ということを周知し、赤星邸の価値を発信し、この建物でやる意味のあるものを。
- にぎやかな演奏より、近隣に馴染む文化財ならではのコンサート（クリスマスコンサートなど）。
- 若い層（大学生、20代）が自分たちで企画を立て実現できる場になると良い。話し合いができる場所も必要では。

4班

7. 晴れの舞台でも使える市民の憩いの場 ⑧

赤星鉄馬邸の良さを引き出す（空間、広い厨房）、庭と一体的な活用、

収益を得る（週替わりカフェ、フィルムコミッション、結婚式、アニメ、ギャラリー）

8. ナミュール・ノートルダム修道女会のヨウヘキ

ちょっと困った、を話せるよろず相談室 ⑥

修道院に守られていたような空気感を継承

愛あふれる場所であり続ける、誰かに何かを言いたくなったら来るところ

ここがかつて修道院であったことを忘れずに



アイデアのもとになった意見

- 近隣には子どもや高齢者が多く住んでいる。修道女会がなくなり、これまで守ってくれていた存在が失われた感覚がある。
- 少数の厳しい環境の子どもを支援できるよう、管理された安心して使える場に。
- 大きな厨房を活用し、若年層の貧困を助けたい。
- 常設の歴史ギャラリーのほか、収益事業として市民の絵画を展示し、地域のDNAを伝える。
- 庭を一括的に活用したり、市民ボランティアで庭を管理したい。
- 武蔵野市はアニメ作家が多いので生かしたいが、市民レベルでできるかは課題だ。
- 大きな厨房を活用し、市内の個店が週替わりで出店できる。
- フィルムコミッションで使い、市内の花屋が飾り付けに参画。
- 建物内の部屋が細かく分かれているので、不審者が心配。管理する人の常駐が必要。

5班

9. 旧赤星邸を知る ⑤

建築好きを引きつける場所

建物の維持

観光ではなくレーモンド建築を知る



10. 庭の中で料理を楽しむ場 ③

庭の中で楽しむ

料理を中心を集めやすいように

→庭の使い方は①イベント的②常に使えるの2つの観点で考える



アイデアのもとになった意見

- 子どもだけでなくいろいろな立場の人が関わる機会を創出。
- 子どもが走りまわる場が周囲はない。ただし、利用が集中して旧赤星邸の芝生や緑が傷むのは避けたい。
- 建築の重要性や魅力を伝える資料をつくり展示すると良いが、市民だけでの運営は難しそうだ。SNSなどの発信は、市民もできる。
- 住宅地なので外でコンサートや音楽会などは難しそうだ。
- 作り込みすぎない感じが良い。樹木を使って草木染めなど、この場所ならではの活動ができると良い。
- 成蹊大学の授業の一環として、学生に運営に関わってもらうなど大学のニーズも掘り起こしたい。

6班

11. レーモンド建築アニメによる聖地化 ⑫

赤星邸が唯一無二であること
を伝える。

レーモンド建築…構造の特徴を伝える（唯一無二の建築遺産）

庭と建物の関係、バランスを伝える「建物は森の中のキノコ（レーモンド）」

周辺の建物（濱家住宅西洋館）もあわせて鑑賞



12. 皆で作る祝福・祝祭の場 ①

末永く使っていくための次世代へのプレゼント、開かれた活動の場

市民が市民を祝福する



アイデアのもとになった意見

- ティーンズなど若い人がぼーっと過ごしたり、自主学習したり、静かに過ごせたりする場に。
- 目的をもって集まれるコミュニティセンターのような場に。
- 赤星邸は唯一無二の存在であることを伝える、それに絡めて武蔵野の周辺の歴史も伝える。
- 結婚式や披露宴で収益をあげられるようにする。カップルも良い想い出にできる。地域の人なども披露宴と一緒に作り地域への思いが高められると良い。
- 地域の人が発表したり、コミュニティの中で生きていると体感ができる、かつ気軽に参加できる場を。
- コンサートは騒音問題を考えると室内か屋外でできると良いが…。
- 保存樹木はすべて価値があるか疑問だ。雑木林につくり変え、多様な生き物が生息できようすれば、管理もしやすくなる。
- 「建物の見学」にニーズはある。
- アニメの要素で維持管理費に見合う収益を得られるように。
- 市民が一部でも運営に取り組み、次世代に伝えることがしたい。

参加者コメントシートより

- スムーズに進めていただきありがとうございました。「次もぜひ参加したい」というモチベーションが強くなりました。
- 使途からのアイデアは出しやすいですが、どのような機能が必要かの視点も重要と感じました。
- よく議論ができて楽しかったです。
- 様々な世代、価値観の人の意見をファシリテーターの方がうまくまとめてくださいました。
- 一般公開参加人数の多さを伺い、ワークショップは責任重大だな！と身の引き締まる思いです！

旧赤星邸の価値や継承すべきものとは

～利活用検討有識者会議より～

有識者会議より下記のキーワードが出されています。
これらの意見も参考にしながら、利活用アイデアを
さらに具体化していきます。

建物と庭との関係

佇まいや雰囲気

建物から見える庭の美しさ

庭から見た建物の美しさ

組合せ自体も非常に価値ある

レーモンドが日本に持ち込んだ、建物の中と外
の連続性、半屋外で食事をする空間

オリジナルでは藤ではなく可動式のテントで外の
リビングルームとして使われていた

建物と庭の一体化

建物の中も外であるという感覚

何もしなくていい場所があるのは贅沢

五感を満たす憩いの場

暮らしの変遷・歴史

旧赤星邸を巡る様々な歴史的背景

「赤星家」や「赤星鉄馬」の歴史そのもの

歴史的価値、文化的価値の継承

住宅～修道院で使われたミステリアスな部分も社会的価値の一部

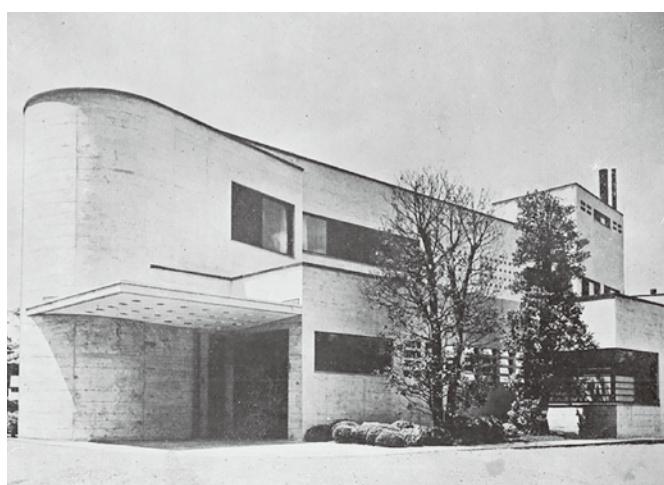
修道女会としての歴史、50年にわたる活用

庭は歴史的には暮らしの中で意味を持っていた

今までの価値とこれからの価値

木が大きいという事は、それだけ平和な時代が続いたということ

旧赤星鉄馬邸竣工当時の様子



上写真 2枚 出典：アントニン・レーモンド作品集 1920-1935、城南書院、1935年

パネル展示と意見聞き取り（オープンハウス）

予約不要

どなたでもご参加できます。

終了しました

第1回 6/4(日) 午後1~4時
はなこみち（吉祥寺駅南北自由通路）
第2回 6/18(日) 午後1~4時
イトヨーカドー武蔵境店東館

第3回 7/23(日) 午後4~8時
タワーズマルシェ@むさしの（荒天中止）
武蔵野市中町1-12-10 武蔵野タワーズ スカイゲートタワー（南棟）公開空地



みなさまの声を
聞かせてください！

Webにて、旧赤星鉄馬邸の保存・利活用に関する意見を募集
しています。いただいたご意見は利活用検討の参考にします。



問合せ先 〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28 武蔵野市役所 総合政策部 資産活用課

電話：0422-60-1973 fax：0422-51-5638 E-mail：sec-shisankatsuyou@city.musashino.lg.jp

旧赤星鉄馬邸の保存・利活用を考える 市民ワークショップニュース

令和5年8月発行 / 武蔵野市 総合政策部 資産活用課

vol.

4

旧赤星鉄馬邸と建物の文化財的価値と豊かな自然環境を次の世代へつなぐため、庭と建物との一体的な利活用を検討しています。全4回の市民ワークショップでは、利活用で大切にしたいこと、保存・利活用のアイデア、次世代につながるしくみと一緒に考えてきました。

このニュースレターでは、毎回のワークショップの内容を市民の皆様に発信してきました。今後の検討経過や実施状況は隨時市ホームページやSNS等で発信していきます。



市長を囲んで、参加者の集合写真

ワークショップ実施の流れ

第1回 1/22(日) 旧赤星邸を知ろう

3/19(日)

第2回 旧赤星邸の利活用で大切にしたいことを考えよう

5/14(日)

第3回 テーマに沿って利活用アイデアを考えよう

7/9(日)

第4回 次世代につながるしくみを考えよう

第4回ワークショップを実施しました

日にち：令和5年7月9日（日）

時間：13:30～16:30

会場：成蹊大学

参加人数：31名

(6班編成で実施)



当日のプログラム

前回のふりかえりと今日の進め方

情報提供と事例紹介

グループワーク

これまでの議論を確認し利活用アイデアを深めよう

グループ発表とメッセージ交換

おわりに

第4回ワークショップ（最終回）
次世代につながるしくみを考えよう

今回のグループワークでは、今後引き続き検討してほしいことを確認したのち、前回話し合った利活用アイデアを実現に向けてブラッシュアップし、今後の社会実験で取り組む方法を考えました。各班の利活用アイデアは全体で発表した後、良いと思ったアイデアにメッセージを送りました。約半年にわたる市民ワークショップは、今回で最終回となりました。4回を通じて出された意見は社会実験や保存活用計画策定委員会などに反映させていきます。



①各班でまとめた利活用アイデア

みんなの持ち寄りマルシェ

かつて個人の邸宅だった家でくつろぐような雰囲気を大事にする場。建物や歴史に興味のない人にも、マルシェに訪れるることをきっかけに、足を運んでもらい素晴らしさを伝える。

農産物販売のほか飲食、パフォーマンスもあり、色々なものを持ち寄って楽しむことができる。夢を持っている人がその夢を実現する場にする。

▼今後に向けて

農産物販売は、JAとの調整や中学生や若者が運営に参加するための仕組みづくりが必要。マルシェから運営費をどう捻出するか？

やりたい人のチャレンジの場所になるっていいですね。新しい名物が「赤星」からはじまった！素敵です。



1班

訪れる人の間口を広げることで、多くの人に赤星邸の魅力を知ってもらうという逆の発想が新鮮でした。色々な人が集まりそうなアイデアですね！

武蔵野の実家～建物と庭でくつろぐ異日常体験

2班

日常とは少し異なる「異」日常を活かし、別荘や純喫茶のような場としてくつろぐことができる場。半屋外の空間で楽しめるようにする。毎週末程度開催を目標に。事業者が管理し、住民はプログラム参画できるようにする。

武蔵野市＝実家＝別荘→リフレッシュ！この構造が面白い。



実家というキーワードが住居であった赤星邸にマッチしている。語り継ぐということにもつながる。

参加者コメントシートより

- 貴重な機会をいただきありがとうございました。これまで地域に関わることが少なかったので楽しく臨むことが出来ました。私達の意見、議論が反映されることで「自分事」が進むと思います。
- 旧赤星邸に継続的にかかる人々、組織が必要だと思います。市民参加、世代間、幅広い参加がポイントだと考えます。

レーモンド建築資料館・レーモンド先生の本棚 2班

アントニン・レーモンドが設計した建物の資料や情報を集めて公開し、他のレーモンド建築の管理者との交流。登録有形文化財部分でないところを活用できるとよい。



一般市民、建築専門家、学生などを対象とし、レーモンド事務所などにも協力を得ながら運営。

▼今後に向けて

関東大震災を機に赤星邸が転居したこともあるので、関東大震災から100年経っているので、今年は節目になりそうだ。

別館は比較的内装などチャレンジングなことができそうなので、良いアイデアだと思いました。「○○の本棚」というタイトルが素敵ですね。

赤星邸のコアのファンを巻き込む形の発案がとても面白い。



探検！みんなの赤星邸

3班

庭と建物を楽しみながら知ってもらい、記録に残していく。1階+庭では季節のコンサート、カフェ。2階では建物見学にあわせた展示。土日は開いていてほしい。コンサートは、武蔵野文化生涯学習事業団などに運営を任せることも検討。建物を現状のまま残せるか等、専門家との連携が必要。

▼今後に向けて

社会実験1年目：①クイズラリー（旧赤星邸や武蔵野市の歴史にまつわるもの）を市民で実施。②小規模、小編成の演奏会（庭と室内両方で実施）③あなたの赤星邸（写真コンテスト）④アンケート

社会実験2年目：①ARで当時の赤星邸を再現②1年目のアンケート結果をふまえた取組み③写真コンテスト2年目④アンケート

社会実験後：建物見学、カフェ、季節のコンサート、イベント

赤星邸に飲食は必要がないとの考えに賛成です。

クイズラリーは誰でも参加できて楽しそう。すぐできそう。

- 意見を出して、自分とは違う角度や意識の方ともテーマに沿って話を聞いたり出し合える時間、とても実りになりました。
- 今回のワークショップで出てきたアイデアが一つでも実現されたら、うれしいですね。楽しみにしています。

晴れの舞台でも使える市民の憩いの場 4班

赤星鉄馬邸ならではの空間や広い厨房を活用する。1つの村のように多様な機能があり、人が集まる場に。
隣接区や鉄道沿線の住民、近隣住民を対象に、庭でビールを楽しんだり、市内の店舗がキッチンカーなどで短期出店する。1階は憩いの空間、2階は資料館的機能にする。近隣と対話を重ね、安心してプロジェクトの味方になってもらう。



▼今後に向けて

庭の世話はボランティアで実施する。見守る人がいて子どもが安心して使えるようにする。業者選定もポイント。

お試し出店のアイデアは「吉祥寺」というブランドを有しているので、実現できれば武蔵野市以外から多くの人に来てもらえる場所になりそうです。

市民が近隣住民との対話を重ね合意形成しながら社会実験していくのは、時間はかかるがスムーズに本番にいけそうで良い。

ナミュールノートルダム修道院のヨウヘキ ちょっと困ったことを話せるよろず相談室 4班

修道院の歴史を受け継ぎ、いろいろな人が語り、聞ける場に。こども食堂や親子食堂、シェルターや支援につなげる場所。市民の少し余った時間や経験を集結させ、関連する専門家や関係機関との連携を図る。



▼今後に向けて

- ①需要を捉える：市報などで興味がある人が集まる場を作って話を聞くほか、元修道院の方や近所の方に話を聞く。
- ②近隣の方の理解を得る
- ③当事者に場所の存在を周知

武蔵野市ならではの企画案として賛同します。誰もが立ち寄れ、利用できる場になれば良い。

実施へのハードルが高そうですが、昨今困難に直面している人の助けに少しでもなれば、意義があろうと思います。「修道院跡」の活用法として良いアイデアです。

旧赤星邸を知る 5班

見学や資料展、コンサート開催の他、ミュージアムショップ。歴史的な説明をパネル展示し、各部屋には当時の写真を展示。コンサートは月1回程度、常設展は金～日・祝で開催する。



コンサートは市民の芸術家に協力を得る。業者によってイメージが変わることがないよう、市民からさまざまな形で協力を得られるようにする。コンサート等やオタク向けグッズ販売で収益を得る。

建築雑誌や学会で広告、市で特設Webサイトをつくる。

▼今後に向けて

社会実験では、コンサートなどの使い方ごとの音の測定値、データを残し検証する。

社会実験で様々なデータを取ることの必要性、おっしゃる通りですね。

新たな庭のあり方を追求するという視点は良いと思います。

庭の中で料理を楽しむ場 5班

庭で料理を中心に行なう。申請制とし、年齢を問わず使え、プレーパークのように火を使えるようにする。すでにある厨房をうまく使えると良い。



▼今後に向けて

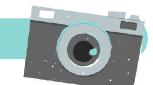
プレーワーカーなどスタッフの要否、保育園のニーズ等を確認する。火を使うので、防火管理者や消防署や市への届け出など確認が必要。

社会実験では様々な観点から検証する。

火を使うのは限られた公園でしかできないので、近場であるのはキャンプ好きとしてうれしい。

庭を守っていこうという意見が多い中、歴史の変化で変わってきたのだから「使いたいおそう」という視点は面白かったです。

皆で作る祝福・祝祭の場 6班



末長く使っていくための次世代へのプレゼント、開かれた活動の場で市民が市民を祝福する。

- ①家族写真を撮る会：カメラマン（プロ、同好会）を配置し、時間予約制で、1日数組の家族写真の撮影。多世代で多様な記念日に利用。
- ②結婚記念のロケーションフォト：ロケーション代、カメラマン代（撮影代）、プリント代から収益を得る。
- ③絵ハガキ販売：ロケーションPRをかねた絵ハガキ販売も行う。自分たちの記念日フォトを撮影した場所の絵ハガキなので、ロケーション利用した人が使ってくれるとよい。

皆で作る祝福の場、ロケーションを活かして収益を得るアイディアがよかったです。記念写真いいですね。

家族写真はいいかも！結婚式場はムリでも写真なら！と思いました。自然の中で思い出の場所にもなるし。

レーモンド建築のアニメによる聖地化 6班

6班

旧赤星邸の素晴らしさ、唯一無二の建築遺産であることに加え、緑濃き学園文化都市、武蔵野市の魅力を伝える。



パネル・模型の展示やガイドツアー：資料館的利用し、建築科出身者がガイドする。

アニメで建物の聖地化：赤星邸での収益や集客につなげる。

▼今後に向けて

アニメは、市民や専門学校生などによる制作委員会を立ち上げコンペをし、制作は制作会社に依頼する。制作費は市の予算とクラウドファンディングや会社からの寄付でまかなう。

市、現地事務所、NPO、市民による協働運営体制で日常の管理運営を行い、ハレの日には実行委員会を組織する。

レーモンド建築のアニメによる聖地化、集客のためレーモンド建築を世界に広めることに興味がある。

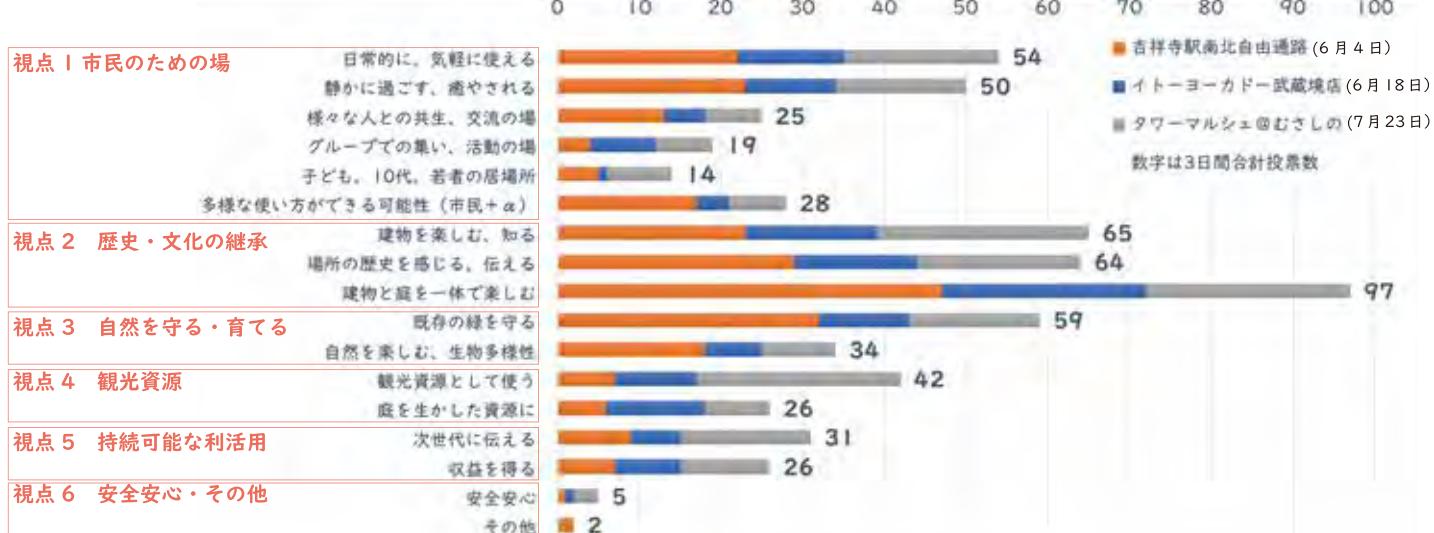
アニメ化！全く違うアプローチで赤星邸の活かし方が出たことに意義があったと思います。とても大きなアイデアですが、小さくとも実行に移したいですね。

パネル展示と意見の聞き取り (オープンハウス) 集計結果

令和5年6～7月に市内3ヶ所に出向き、幅広い方に旧赤星邸の紹介や意見の聞き取りをしました。一般公開へ訪問した方や初めて知った方など、たくさんのご意見を伺えました。

まちの人に旧赤星邸の利活用について意見を聞きました

シール投票の結果 Q. 旧赤星邸の利活用にあたっての視点、大切にしたいことはなんですか？(1人3つ選んで回答)



いただいたコメント（抜粋）

建物の魅力、続きの庭の価値が大切。実業家の邸宅だったことやその背景を伝えることが大切。
静かなカフェで庭をゆっくり見ながらくつろげる場所になると良い。
しっかり管理するためにも、少額でも料金を取る方がいい。時々無料開放にしてはどうか。
子どもから大人まで幅広く気軽に使えると良い。ロケや撮影の収益で注目度があがると良い。

海外の人もこのような建物には関心があるので、インターネットを活用してどんどん発信した方が良い。

子どもや将来に向けて若い世代に使ってほしい。気軽に誰でも反対。大切に活用してほしい。

アントニン・レーモンドの建物は貴重。建築の文化が日本では軽視されている。建物の楽しみ方を知ってほしい。旧赤星邸で美術を楽しむように光や空間を楽しめる

引き続き検討してほしいこと

～第4回ワークショップより～

■社会実験で検討してほしいこと

数時間滞在した場合などのシミュレーションをしてほしい。近隣への配慮、建物・庭のそれぞれの耐久性観点から、建物、庭それぞれの収容人数がどの程度なのかを把握してほしい。社会実験では何をもって成功とするのかを明確にしてもらいたい。例えば1回目で試したことを踏まえ、2回目は目標を定めて成功か否かを判断してはどうか。

■管理運営

100年後も愛される場であるために必要なしきみを作ってほしい。一部の人だけが関わると高齢化など停滞化してしまう。関心を薄れさせず、いろいろな人が関わる機会を作っていってほしい。

完成しすぎない、不自由さを残すような、余白のある管理を大事にして欲しい。

庭から建物内に入るときは土足も可とするのかなど、一体化的な活用を考えるうえでの庭と建物の使い方(動線やルール)を検討してほしい。

■安全性と改修

外壁が撤去もしくは低くなると、道からの見通しが良いので溜まり場などになりにくく、安全になる。一方、何もなくなってしまうと騒音の問題、近隣のプライバシー、また小さい子どもの飛び出しが心配。程よいしつらえの検討が必要。

耐震対策やバリアフリー対応改修をした場合、どの程度現状の意匠が保全できるのか気になる。できる限り残してほしい。

今後の予定

～未来へつなぐ旧赤星邸と庭園プロジェクト（社会実験）～

旧赤星邸の利活用における周辺の住居環境に及ぼす影響の度合いや運営手法を探るため、ワークショップで出された意見やアイデアをもとに社会実験を行います。最新情報は市ホームページをご覧ください。



みなさまの声を
聞かせてください！

Webにて、旧赤星邸の保存・利活用に関する意見を募集
しています。いただいたご意見は利活用検討の参考になります。



問合せ先 〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28 武蔵野市役所 総合政策部 資産活用課

電話：0422-60-1973 fax：0422-51-5638 E-mail：sec-shisankatsuyou@city.musashino.lg.jp

参考資料 6

一般公開ウィークの実施結果 令和5年5月

旧赤星鉄馬邸一般公開ウィークの実施について

建物見学の要望が多く寄せられていたため、この建物の存在を広く知っていただき、また今後の保存・利活用検討をしていくにあたり、多様なご意見をいただくための取組みの1つとして、期間限定で一般公開を行った。メディアで多く取り上げられたことから反響も大きく、非常に多くの方々にご覧いただいた。今後秋にも期間限定の一般公開を予定している。

1 日 時 令和5年5月10日（水）～5月16日（火）

午前10時から午後3時半まで（最終受付午後3時）

2 対 象 どなたでも ※申込不要、見学無料

3 内 容 建物内の順路に沿って見学、庭の見学も可能

4 入場者数 4,917人（内訳：5/10(水)257人、5/11(木)358人、5/12(金)634人、5/13(土)765人、
5/14(日)980人、5/15(月)798人、5/16(火)1,125人）

5 見学者から出された主な質問（赤星鉄馬の人物像や所有者の変遷など概要に関するることは除く）

NO.	質問	現時点での市が把握している情報
1	赤星の読み方は、「あかぼし」又は「あかほし」どちらが正しいのか？	鉄馬の孫からの聞き取りによると正しくは「あかぼし」であるが、鉄馬が渡米した際には、アメリカ人が発音しやすいように「あかほし」を通称として使っていたとのこと。市としては本来の「あかぼし」を使用することとする。
2	藤棚は竣工当時からあるのか？	鉄馬の孫からの聞き取り及び当時の写真により、接収前（S16~17頃）には既に藤棚となっていたことが判明した。
3	噴水は竣工当時からあるものか？	鉄馬の孫からの聞き取りにより、鉄馬が噴水を設置したのではなく、進駐軍接収時に設置したことが判明した。なお、接収解除時の図面からも噴水が設置されていることがわかる。
4	1階日本間から庭への出口においてある大きな石は竣工当時からあるものか？	竣工時の写真からは確認できないが、鉄馬の孫からの聞き取りにより、鉄馬が設置したとのことであった。
5	窓枠がアルミサッシになったのはいつごろか？	詳細な時期は不明であるが、シスターからの聞き取りによると修道女時代会であるようである。
6	居間・食堂、日本間の南側の格子柵はなにか？	防犯として、竣工当時から設置されていた。
7	2階の納戸の床が高くなっている理由は？	不明
8	2階の廊下のカウンター表面（石材調）の材質は？施工当時からのものか？	竣工当時のものは不明
9	GHQは旧赤星邸を何に使っていたのか？	鉄馬の孫からの聞き取りにより、進駐軍の接収住宅として大佐（コーネル）とその妻が居住していた。

6 見学者から出された主な意見・提案等

NO.	意見・提案等
1	オリジナルの状態に復元してほしい
2	増築部と本邸部（登録有形文化財）の利用の使い分け
3	庭を残してほしい、庭の手入れ、樹木の保存、四季の花が楽しめる
4	次世代に建築の保存の良さを伝える
5	関わった人たちの暮らし、庭との関わり、まちの様子など当時の生活が分かる工夫
6	赤星鉄馬の経歴、歴史伝承
7	モダニズム建築や戦争の歴史、文化が学習できるとよい
8	GHQ 時代や修道女会時代にどこがどのように改装されたのかわかるような展示
9	庭と建物の相互関係があるとよい（庭を使う時は建物も、建物を使う時は庭も使う）
10	庭を生かした喫茶スペース、庭でお茶を楽しめる
11	テラスにベンチを置き、ゆっくり庭を眺められるように、小部屋に読書用の椅子を置く
12	ミュージアム、企画展、美術展
13	カフェ、レストラン、飲食を提供できるスペース
14	コンサート、結婚式ができるとよい
15	宿泊施設、ゲストハウス、シェアハウス
16	小さなショップがいくつも入る商業施設
17	市民が日常的に気軽に利用できる、市民のための施設、地域に開かれた施設
18	幅広い年齢層が集まる、多世代交流
19	小中学校の課外授業コース
20	セキュリティ面での対策（破損、盗難などの回避）
21	管理要員の一部にボランティアを活用してもよいのでは
22	入館料（入場料）を徴収して維持管理費にあてるべき（パンフレットも販売など）
23	クラウドファンディングで資金を集めてはどうか
24	民間がやっても経済的に成立、民間活力を積極的に採用

7 一般公開をきっかけとして寄せられた利活用案、利活用検討に関する試み

- ・小学生の作品展示等の発表の場として活用することも検討できないか。（第一小学校副校長）
- ・旧赤星邸の歴史を振り返りながら、成蹊大学との関わりを紹介したうえで、「旧赤星鉄馬邸をどんな場所にしたいか」自分たちの意見を提示したい。（成蹊大学学生）

8 利活用を図るうえで一般公開を通して感じた課題認識

(1) 建物の保存・利活用に関して

- ・壊れやすいので家具には触れないよう注意喚起したが、触れたり、引出しを開ける人が少なからずいた。今となっては入手できない建材もあり、修復の困難性を踏まえると、使用の可否をどうするかが課題。
- ・今後、エレベーター設置や車いす対応トイレなど、保存とのバランスにおいて、どのようにバリアフリー化をするかが課題。
- ・見学者用トイレは旧赤星邸（登録有形文化財部分）を使用せず礼拝棟に限定したが、数が少なく多人数の対応が課題。また、水圧が非常に弱く修繕が必要。仮に、礼拝棟、修室棟を解体した場合に旧赤星邸（登録有形文化財部分）のトイレを使用するかどうか、庭の利用者のトイレをどうするかも課題。
- ・雨天時の傘（建物内持歩き）から垂れる水滴や消毒用アルコールの飛散によるシミ対策に苦慮した。雨天時の傘の運用や、コロナ対応のアルコール設置場所などが課題。
- ・自転車での来場者が多く（多い時で約 60 台駐輪）、車やタクシーで来る人もいた。駐輪場や駐車場をどのように整備するかが課題。

(2) 庭の保存・利活用に関して

- ・期間中に 5,000 人近くが庭を見学した結果、芝生がはげてしまった。植栽を保存しながら利活用をしていくためにどのようにするかが課題。

(3) 近隣住民への配慮

- ・2 階の北側窓からの視界や、庭の南側奥への人の入り込み等に対して近隣住民へ配慮が必要なため、窓ガラスに対する工夫や、庭の設え、運用をどのようにしていくかが課題。

参考資料 7

一般公開ウィーク【事前申込制】の実施結果（令和5年11月）

旧赤星鉄馬邸一般公開ウィーク【事前申込制】の実施結果について(令和5年11月)

5月の一般公開に引き続き、旧赤星邸を幅広く周知する取り組みとして、期間限定の一般公開を行った。前回の経験を踏まえ、第2回目の一般公開は事前申し込み制とした。

1 日 時 令和5年11月15日（水）～21日（火） 7日間

午前9時半から午後4時半まで（最終入場午後3時45分）

2 定 員 各日600人（15分ごとに最大30名入場）

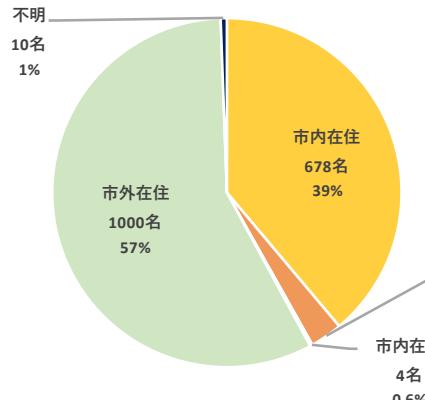
3 対 象 どなたでも（市内在住・在勤・在学のかたのみ先行受付あり）

4 内 容 建物内の順路に沿って見学、庭の見学も可能

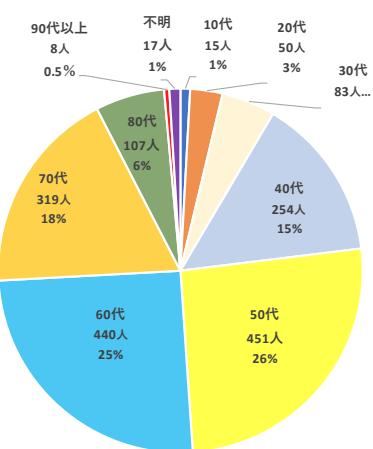
5 入場者数 合計1,744人 *参考：一般公開（5月）4,917人

6 来場者詳細

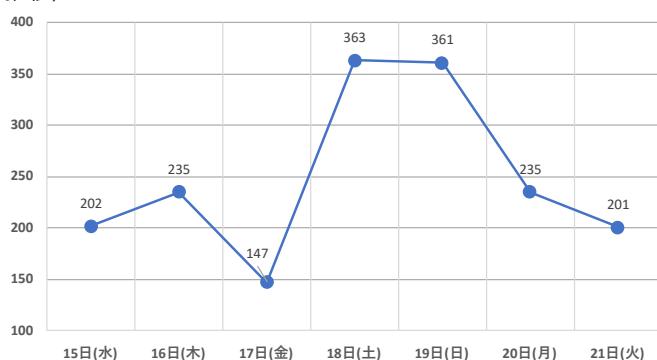
（属性）



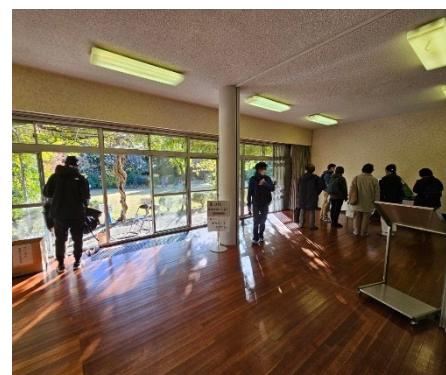
（年代）



（日程毎の推移）



7 当日の様子



参考資料 8

関係者・団体へのインタビュー結果

関係者・団体へのインタビュー結果

1 インタビュー概要

旧赤星邸の利活用に際し、関連があると思われる方々（20団体）に期待する事や気になることなどについてインタビューを行い、今後の検討の参考とする。

2 前所有者

記録

- ・ 関わっていた年代がそれぞれ違うので、記憶がバラバラ。会の100周年を機に、市からの質問に答えるために整理してみると良いかなと思っている。

地域とのつながり

- ・ 居住者によって、付き合いはそれぞれ異なっていたが、日常的に遊びに来たり、お菓子を分けたり、季節の行事へ誘ったりといった付き合いがあった。
- ・ 成蹊大学の先生や学生、近隣の方に英語を教えるなど付き合いがあった。
- ・ 退去が決まってからは、保育園の子どもたちが来てもらって、お庭で遊んでもらったり、勉強会を開催した。開催にあたっては、近隣の方から準備や当日の運営など協力してもらった。
- ・ 近隣の方が自分たちの存在をよく理解してもらっていた。

利活用

- ・ 市の管轄になることで、安心になる。
- ・ 市が真面目に検討しているのは分かるが、取得して終わりではなく、どのように決めるのは本当に難しい。
- ・ 一般的な公園よりも、文化、教育など目的に即した公園になる方が地域に受け入れられるのではないか。
- ・ レーモンドが作ったとはいえ、特定の専門家だけで使うのはもったいないので、コミセンなど自主管理の実績もあるので、市役所に任せるのではなく、地域に任せて工夫しながら、自分たちで工夫してやっていけるとよい。
- ・ 保育園などに庭で遊んでもらえるとよい。子どもたちが安心して過ごせる公園になると地域に喜ばれるのではないか。

3 赤星鉄馬の親族の方々

あらましのPR

- ・ 赤星鉄馬の兄弟の中にはゴルフ界の先駆者が居るので、そうしたことを旧赤星邸で知られると良い。
- ・ 赤星家はあまり知られていない。業績や歴史を赤星邸に集積させ紹介し、自然と一体的な文化施設にできると良い。
- ・ 赤星家の頃と修道会の頃とイメージが異なるので、写真などを展示レッツアーができると良い。
- ・ メディアを使って紹介し、フィルムなどにまとめ、建築を学ぶ人に価値を伝える必要がある。

保存

- ・ 建築としての価値があるので、意匠や空間を損なわずに残してほしい。でないと市が取得した意味がなくなってしまう。レーモンド建築であることを知ってもらい、日本の建築史の一つとして残していくとよい。
- ・ 後世に文化遺産として残し、改修してほしい。
- ・ 家具や棚も価値があるので、できるだけ今の状態で残してほしい。

利活用

- ・ 公民館のように一般化すると、違いがなくなり、旧赤星邸としての価値がなくなってしまうのが心配だ。
- ・ 歴史的建造物を見学する資料館のようになると 1 回見学したらおしまいになる傾向がある。リピートして訪問するように工夫してほしい。
- ・ 建物があると集う場として自然に集まりやすい。元々集う場所になっていた。

進め方

- ・ 市民に役立ち、市の税金がこんなことに使われるのはイヤねといわれないようにしてほしい。
- ・ 武藏野市としてよろしいようにしてほしい。特に要望はない。
- ・ 商業的なマンションにならず、木々を残したいという意向を聞いてもらえ、市民に支持されるはずだ。
- ・ 全国の事例を調べて、指針を示しグランドデザインをしていってほしい。

4 近隣住民

修道女会とのつながり

- ・ 夏休みや年末年始などには、近隣住民がカギを預り、見回ったり、シスターの家族が来たときには、近隣住民宅に滞在するなどの交流があった。
- ・ 修道女会からは感謝されており、一緒に来るまで旅行にでかけたり、シスターが吉祥寺を出てからも、家族ぐるみの交流が続いた人もいた。
- ・ 庭のバラやアジサイを植えたり、庭の手入れを近隣住民が行っていた。庭師も紹介した。
- ・ 賛美歌がよく聞こえていた。
- ・ 退去する際も、片付けや、お弁当を持って行ったりして、シスターのお世話をした。保存活動にもシスターから紹介され、参画した。

利活用

- ・ 建物から見える景色を残してほしい。
- ・ 心配や不安、期待もある。すごく人が来るようになら、目の前なので心配だ。
- ・ 塀がなくなると誰が入るか分からないので、夜が心配だ。
- ・ 一般的な公園になると、今までのイメージが変わり、いつでもだれもが入ることができてしまい、他と同じようになってしまうことが心配だ。
- ・ 公園になっても、遊具を設置したりせず、今ある庭をできる限り保存してほしい。
- ・ 災害時に使えたり、こども食堂としての活用や、シングルマザーが和めたり、かつて生活していた空間利用も行い、困っている人のためになるような、シスターの思いを引き継ぎ、多目的な利用ができると良い。
- ・ 市民の管理運営ができると良い。
- ・ 市民の施設である一方、施設運営のために費用を稼ぐことも考えたい。ただし、市外から多くの人が訪れるこまではしたくない。
- ・ 成蹊大学は近いし、ボランティア活動も盛んなので、連携できると良い。

5 地域団体／コミュニティ・福祉

■進め方

- ・ 公園は良いが、建物を残しながらどういう利用ができるのか。NPO やプロに依頼した方が良いアイデアができるのではないか。
- ・ 色々な方の意見を聞かないと、市民も納得しないだろう。
- ・ 試行的に庭で遊んだり、部屋での懇談などできると良い。
- ・ 近所の人は関心を持っているだろうが、それ以外の人は迷惑にならなければ良いぐらいに思っているのではないか。
- ・ Zoom などを使えず、外出できない人もいるので、市報でアンケートするなど、アナログ方式による意見収集も選択肢としてあった方が良い。

■利活用

- ・ 礼拝堂の方が、築年数が浅いため、利活用できるのではないか。
- ・ 武蔵境にある武蔵野プレイスのような機能が東側にもあるとよい。ただ建物を保存しながらの利活用は難しそうだ。
- ・ 地域の人や市外の人など色々な人が楽しめる場所として、自由に使えると良い。
- ・ 有形文化財なので、建物の見学に内外から来るかも知れないが、高齢者もアクセスしやすいので、多世代の市民が使えるようにしてほしい。
- ・ 税金を払って、運営するのであれば、市民が優先して利用できるようにすべきだ。
- ・ 静かに楽しめると良い。庭も茶会などで使えると良い。
- ・ 室内で高齢者が軽スポーツなど身体を動かせるとよい。
- ・ 子どもたちが自由に使える場所になると良い。他の施設はなかなか自由に使えない。2階の個室は学習室などに使えるとよい。
- ・ 庭で外遊びができると良い。
- ・ こども食堂などに使えると良い。
- ・ 地域のお祭りを旧赤星邸でできると良い。
- ・ 旧赤星邸は地域の高齢者もアクセスしやすく大人数も集まれるので、市民活動の場として使えると良い。
- ・ コミュニティセンターでできないような楽器演奏ができると良い。
- ・ 住宅地の中に立地しているので、使い勝手が悪かったり、音の問題が懸念される。

■運営

- ・ コミュニティセンターはボランティアで運営しているが、担い手不足になっている。ボランティアだけで運営するのは難しいだろう。そのためには利用料を無償にこだわらなくても良い。
- ・ 市民が利用運営するには、良い面悪い面がある。判断基準が不明瞭な施設もあるようなので、市民運営よりも民間事業者に任せた方が、管理方針が明確になってよい。
- ・ 入場料を取るより、募金や寄付金、ふるさと納税などで収益を得るようにしてはどうか。
- ・ 安全安心に管理できるようにしてほしい。そのためには最低限のルールが必要だ。夜は閉鎖するという使い方もありそうだ。

6 地域団体／商工・観光

■進め方

- ・ 旧赤星邸は市が高額で買ったものなので、市が買って良かったと思える使い方をすれば、市民も納得するだろう。
- ・ 市民の意見の最大公約数だと面白いものができにくい。少し反対があっても、個性のあるものを期待したい。
- ・ アクセスが良くないので、旧赤星邸を利活用しても、その恩恵を受けるのは一部の商店会に限られそうだ。
- ・ 吉祥寺地区にはもっと大きな課題が山積している。旧赤星邸に力を入れるより、公会堂に力を入れてほしい。
- ・ 旧赤星邸の利活用については色々内見があるが、吉祥寺に人が来なくなったら武蔵野市がダメになってしまって、将来を担う子ども、孫世代のことを考えてほしい。
- ・ 令和9年オープンに向けた準備段階から、ガイドツアーなどで人が入れる機会を設けたい。人が訪れることで、赤星邸を知ってもらいたい。既存のウォーキングツアーに組み込んだらどうか。

■利活用

- ・ 部屋数が多いので、活用の幅がありそうだ。
- ・ 「アニマ武蔵野」として取り組みを市で進めているので、アニメやマンガと赤星邸が融合した施設として、アトリエや展示施設として活用したい。アニメとマンガをまちの活性化の柱にしたい。旧赤星邸がその目玉になる。
- ・ 商業者にとって大きなメリットがあるものができると期待していないだろう。
- ・ アニメとマンガの話が出ているが、赤星邸と結びつけずに、市のレガシーとして残すにふさわしい落ち着きのある場所になると良い。
- ・ 気軽に入れるきっかけ作りとして、イベントを早くやって、地域の人に認知を広げ、積極的な利活用のイメージを持ってもらってはどうか。
- ・ コミュニティセンターのような色々な活動ができる場より、コンセプトを決めてほしい。
- ・ 市民が集い、心豊かな時間が過ごせる憩いの場になれば、市民にとっても有益だ。
- ・ リピート利用ができるよう四季を感じさせることができるとよい。
- ・ 昭和9年当初に復元し、歴史を感じさせるようにしたい。
- ・ 音の問題は最近難しいので、騒音のことは絶対配慮した方が良い。地域住民を犠牲にしてはいけない。
- ・ 近隣への視線や騒音への対策は建物の工夫で解決できるのではないか。
- ・ 意匠を維持しつつ、安全性をどう維持するかが課題だ。
- ・ 文化財を活用すること考えることが重要だ。都市観光としての核にしたい。
- ・ 色々な人が使うと庭が荒れることなどが心配だ。予約制にすることも考えられる。

■運営

- ・ 無駄なお金を使わないことが前提だ。そのためにはあの場所でキャッシュが生み出せないといけない。建物を維持するのにはお金がかかる。
- ・ 入場料を取る場所とフリーではいる場所などお金を生むしくみを考えないといけない。

- ・ 民間の力を使いながら、市の財政を減らす方向で運営し、20年30年後を見通してスタートを切ってほしい。
- ・ 旧赤星邸を貸してくれるなら、自分たちの団体で借りたいぐらいだ。
- ・ 成蹊大学が経営までコミットしてほしい。学生の活動の場になることも期待できる。
- ・ 武蔵野市にはボランティア意識の高い人もいるので、保存のためにかかわるしくみができるとよい。

7 地域団体／みどり

■利活用

- ・ 外から中の様子が見えると良い。
- ・ 建物の価値があるのでぜひ残してほしい。ただそれを見せるだけではもったいない。保存とのバランスが難しそうだ。
- ・ みどりがまとまっているところが少ない。後から建設したところはない方が良い。
- ・ アカセコイヤがとてもユニークなので、市民にも見せてほしい。
- ・ 庭と建物が一体的な利活用として庭園美術館や牧野富太郎の住宅のような使い方ができると良い。
- ・ 作品展示の他、庭にも立ち入れられると良い。この地域にはみどりがない。
- ・ 庭には、木をたくさん植えたりしない方が良い。あまり色々な手を加えて植えるのではなく、元々あった植物を生かせると良い。古くて大きな木や藤棚をいかせると良い。花壇のある公園より、木の花があるとよい。
- ・ 巣箱を設置して鳥などが来て、さえずりや自然の音を楽しめると良い。自分たちの管理している公園でも市民から庭に水があると、心地よいといわれる。旧赤星邸でもせせらぎがあるとよい。
- ・ 子どもが走り回るのではなく、静かに落ち着ける公園がよい。結局、禁止事項が増えてしまう。
- ・ 子どもが社会科見学などに来られると良い。
- ・ ギャラリーのようにして、赤星家の歴史などが伝えられると良い。
- ・ 避難場所が地域ないので、災害時に開放して避難できると良い。近隣の方も避難場所として期待しているだろう。

■運営

- ・ 市に何でも任せのではなく、ボランティアと役割分担できると良い。
- ・ 草花の手入れには人手がいる。水やりや除草のボランティアはいた方が良い。ボランティアでできることには限りがあるので、意欲はあるので、緩やかに参加できると良い。
- ・ 旧赤星邸の建物保存維持にはお金がかかるので、お金を取るしくみや有料エリアと無料エリアなど考えられるとよい。
- ・ 庭にいすやテーブルがあるとゆっくりお茶が飲めると良い。コーヒー販売店などもあるとよい。

8 地域団体／教育

■進め方

- ・ 子どもたちや学生は全く旧赤星邸のことを知らないだろう。高い塀をレーモンドの歴史など伝える場所として活用できると良い。
- ・ 周辺の小中学校の児童や生徒に見学させ意見をもらうことも大事だ。
- ・ 正式オープンまでに換気がてらイベントをしたり、コンサートなどを実施して、練習できると良い。

■利活用

- ・ 接触死亡事故も起きているので、人が集まることを考えると安全面に気をつける必要がある。
- ・ 建物まわりは死角が多いので、防犯面が心配だ。
- ・ 広く開放され、みんなが見学し、足を運んでみられる機会になると良い。
- ・ どこまで活用できるのか、保存がメインなのか、どのあたり活用できるのか分からぬ。市が買い上げて維持していくためには、活用しないと、維持費もかかるだろう。
- ・ 文化財のため丁寧に扱う必要がある。ルールをきちんと決めるいっぽう、自由に過ごせるような良い塩梅のルールが必要だ。
- ・ できれば今の形を崩さず、子どもたちが思い切り身体を動かすことができると良い。
- ・ 中学生が集まる場所がないので、そうした子どもたちが気軽に使える場所になると良い。
- ・ カフェができると、お茶が飲め、また収益も上げられて良い。
- ・ 公園と建物部分は別だと書いてあったが、公園に来た人もトイレや休憩場所として建物を使えると良い。
- ・ 児童図書館のような場所に使えるとよい。
- ・ クリエイティブな場所として活用できると良い。撮影場所として有料で貸出もできると良い。
- ・ コミュニティセンターとは異なり、予約なしにふらっと立ち寄れるようになるとよい。
- ・ 色々な世代の人が集まったり、演奏ができると良い。
- ・ 障害者や高齢者の働く場所として、落ち葉はきや昔の経験を生かすことができるようになるとよい。
- ・ 障害者には、情報が氾濫していて、インターネットでも適切な情報が得られない。情報がまとまっている拠点になると良い。
- ・ コミュニティセンターには自立支援のような場所がない。自立支援をテーマにすれば、固定の人だけの利用ではなく、色々な人が使って卒業し、循環して良い。自立支援は市が取り組むべき課題があるので、そうした場所にできると良い。
- ・ 第一小学校が防災拠点になっているが、補助的な拠点として活用できると良い。
- ・ 掃除教室や調理室を活用した調理実習など、子どもたちの学びや親子教室ができると良い。子どもたちの作品展などもできると良い。

■運営

- ・ 自分たちの活動拠点がないので、使えると良い。ただ、自分たちの団体が赤星邸を使うといつても、いろいろ他にも事業をやっているので、どの程度管理運営者として関わられるかは疑問だ。

- ・ 文化財なので、どう維持していくか、素人でできるか疑問だ。
- ・ 以前は、近所の人と声を掛け合って落ち葉掃きをやってきた。地域の人が掃除していくと、自分たちも利用運営に関わっていると実感できるので、地域の人が関わると良い。
- ・ 有形文化財部分のみしか残さず、後は壊してしまうことに税金を使ってほしくない。
- ・ 施設運営は、市直営しかないと思う。維持管理に専門性が求められることがありそうだ。
- ・ 活用の頻度によって管理方法は異なるだろう。近所の方が当番制でやるのか、専門の係がやるのか、どんな形にせよ管理やメンテナンスは必要だろう。
- ・ 企業や民間団体にお任せすると、地域団体は管理に口を出しにくくなる。利用しようと思っている団体が、施設の管理運営に参加する中心団体は NPO にして、管理運営団体を育てられると良い。

9 地域団体／子育て

■進め方

- ・ 子どもたちを連れて、みんなで旧赤星邸おさんぽプログラムをして、使い方アイデアを出してもらってはどうか。若い人が地域に目を向けてくれたら、地域がもっと発展すると思う。
- ・ 地域の子育て世代や子ども自身に意見を聞くようなプロセスをして頂ければと思う。このような情報にアクセスしにくい層に意見を吸い上げるための配慮があるとよい。

■利活用

- ・ 親子で自由に遊べるようにすることを、実際に旧赤星邸で実施するのは難しい。そもそもそうした使い方にそぐわないだろう。自由に遊んで良いといっておきながら禁止事項が増えてきている状態になっている。
- ・ まちづくりの視点で開発が検討されるべきだ。
- ・ 中学生や大学生と赤ちゃんについて触れ経験を積むような講座ができると良い。また親となる世代とのつながりができると良い。
- ・ 他にはない貴重な文化財。

■運営

- ・ ただ展示になると、コストがかかっていくため、人が集まるような場所にする必要がある。
- ・ 場所より人が大変だ。コーディネートする人やファシリテーターのような間に入る人の質が大切になる。ぽんと一つの団体に丸投げしてしまうと、その場所がその団体次第になってしまい、他の人がとても使いにくくなってしまう。
- ・ 地域は使いようだ。せっかくの財産なので、しっかりと活用する能力がどういう所にあるかが重要だ。

10 保存活動団体

■進め方

- ・ 税金だからと決め打ちにして、あとで取り壊すのではなく、お試し期間をおいてやってほしい。
- ・ 4年のうちにみんなの熱意が冷めてしまって、やり始めたときには熱が冷めないよう

にしてほしい。

- ・ 地域が反対するけれど、周りは賛成という極端な構造が生まれないように、いろいろな人がかかわるようにしてほしい。
- ・ 今は良いけれど、子や孫の代までその思いが受け継がれるように、地域に受け入れられるようにする必要がある。そのために今から手を打ち、発信していくのが旧赤星邸の役割だと思う。
- ・ 講演会や演奏会の利用はありそうだ。よく使っていたのは御御堂。地域の方がナレッジワークができるように4年間の中で活用できると良い。

■利活用

- ・ 本館の方は重要有形文化財として立ち入りもある程度制限してほしい。
- ・ 御御堂や離れは自由に使えた方が良い。地域のいろいろなお店が入ることで、活性化できるのではないか。赤星鉄馬邸より修道女会の所持していた期間の方が長い。
- ・ 元々日本間だったところは日本間にてお茶や四季折々の活動に使えるだろう。
- ・ 美術館にするのであれば、最初からそう使えるように建物を別途作った方が良いだろう。
- ・ 高齢者や子どもたちや地域の参加しづらい方が、自分が好きなことを見つけることができるぐらい、建物自体に癒し効果があると思う。
- ・ 武蔵野市の多目的な場所に使ってほしい。庭もあるので、お茶会やお琴の演奏もできたり、姉妹都市などとの交流や、発表会や結婚式にも使えると思う。
- ・ 武蔵野市の所有になったので、一つの点だけで地域活性を考えるのではなく、面として考えてほしい。
- ・ 第一種低層住居専用地域だが、店舗なども特例としてできる可能性はあるだろう。特例をとれるためには地域の同意が必要。活用についてはいろいろな考え方があるだろう。
- ・ 旧赤星邸は壁が少ないので美術館は適さない。絵画は高くて、入手にお金もかかるだろう。一回見たら終わりではなく、何回も足を運んでもらいたい。
- ・ モダニズム建築が見直されていて、旧赤星邸が日本のモダニズムとして、世界中に訴えれば、ヨーロッパをはじめ興味をもつだろう。
- ・ 赤星鉄馬、レーモンド、修道会に続いている想いを引き継いでいってほしい。一つの建物がなくなってしまうと、建物だけでなく培ってきた精神までなくなってしまうことになってしまう。守っていく必要がある。
- ・ モダニズム建築の資料が散逸しているので、アーカイブスとしての機能を旧赤星邸に担ってほしい。
- ・ 成蹊大学から浜邸やグリーンベルトとなって、面になって多角的な広がりをもった動きになってほしい。武蔵野歴史館などとも連携したい。近代建築を活用しようとしている所とも交流しているので、しないだけでなく横のつながりをつけてほしい。

■運営

- ・ 無料になると荒れてしまう。

参考資料 9

WEB アンケート実施結果（令和5年3月～11月）

WEB アンケート実施結果

集計期間：令和5年3月27日～令和5年11月30日

武蔵野市ホームページに掲載

アンケート集計合計 163 票

(1)アンケート回答者の属性

図1 居住地内訳 (n=163)

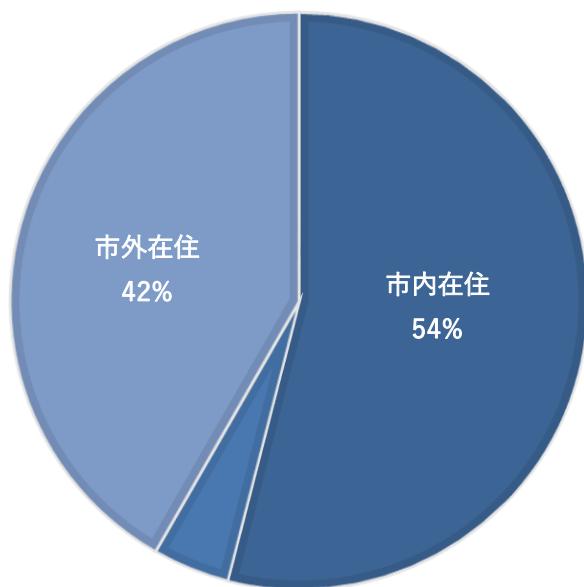
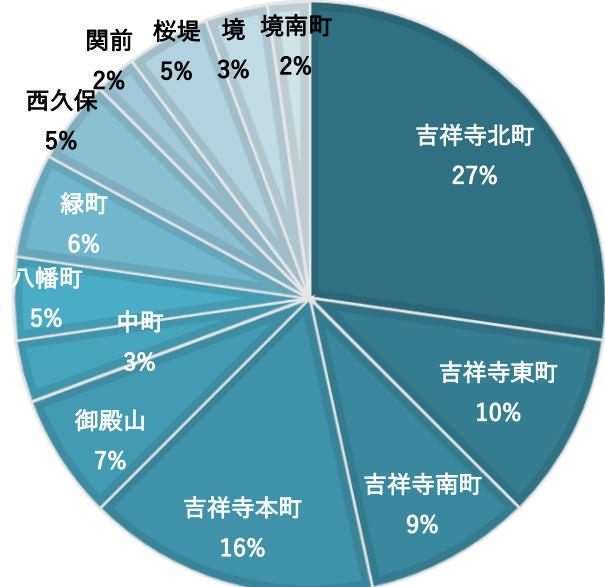


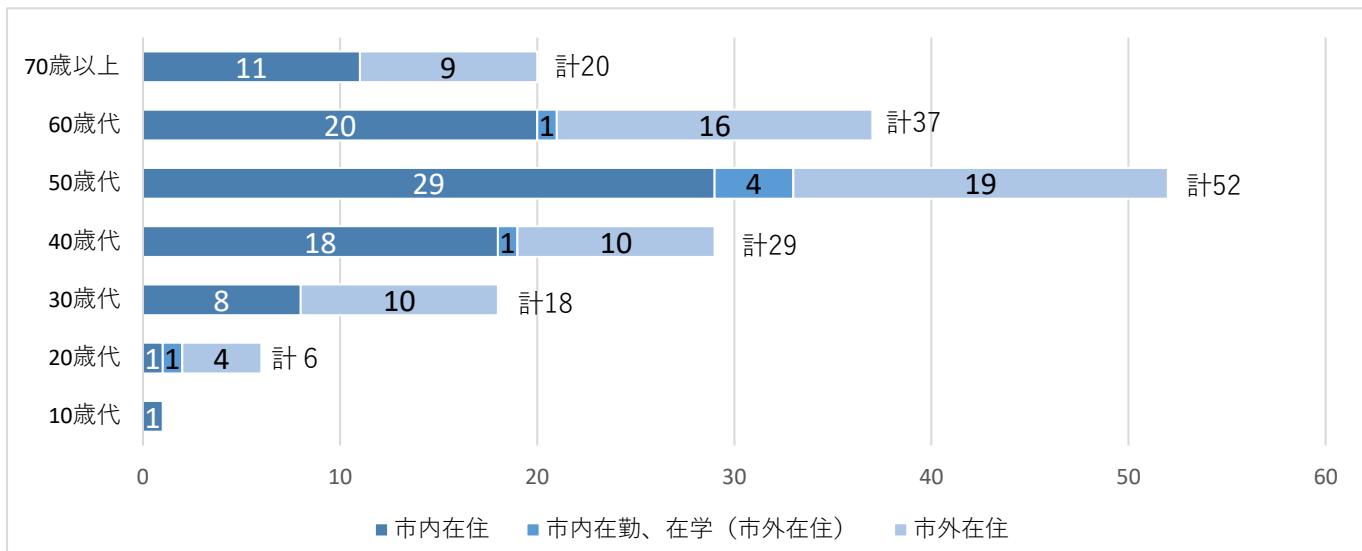
図2 市内在住の町名内訳 (n=88)



回答者の内訳は、市内在住が半数以上だが、市外在住者からも4割を超える回答があった。

また、市内在住者の町名内訳は、近隣の吉祥寺北町と吉祥寺本町で4割を超えており、中央から西側(西久保、関前、桜堤、境、境南町)の割合は小さいが、漏れなく市内全域から回答があった。

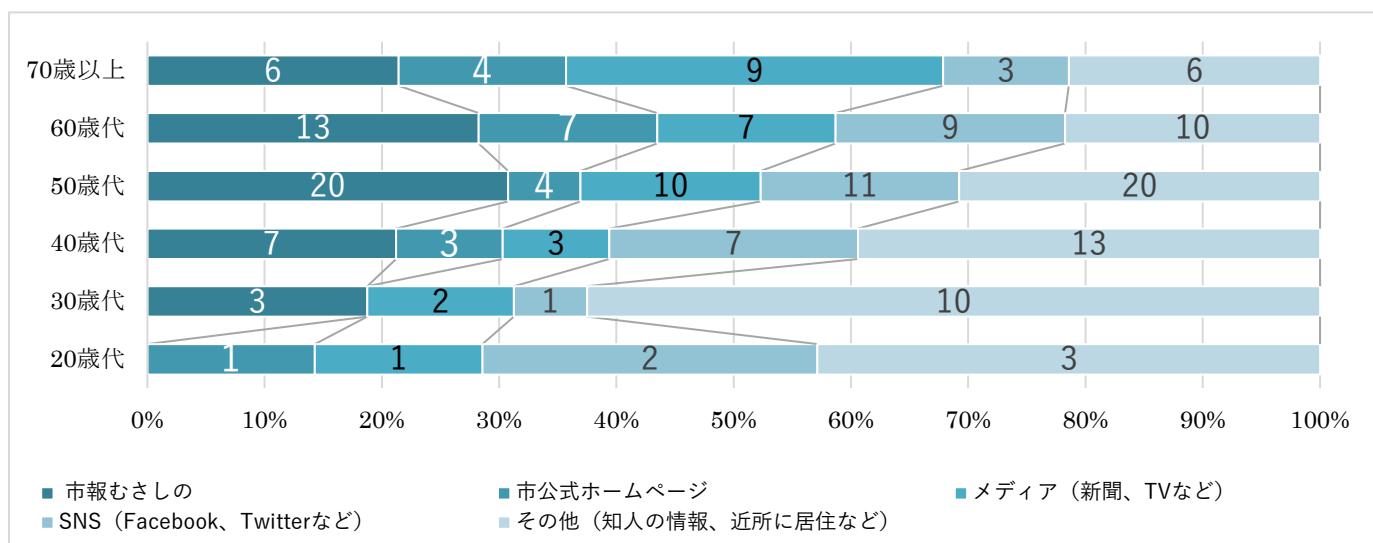
図3 年齢層別居住地内訳 (n=163)



回答者の年齢は、50歳代が多く、続いて60歳代、40歳代となった。10歳代、20歳代からも若干ではあるが回答があった。市内在住、市内在勤・在学、市外在住の内訳の傾向は、どの年齢層もほぼ同じ傾向となったが、30歳代において、市外在住者からの回答が若干多かった。

※複数回答

図4 旧赤星邸を知ったきっかけ (n=145 旧赤星邸を知っている人数)



20歳代から60歳代は知人の情報や近所に居住などの「その他」が多かったが、70歳以上の方のみ「メディア（新聞、TVなど）」が最も多い結果となった。また、20歳代では市報が0人、30歳代では市ホームページが0人であった。

(2) 旧赤星邸に対する興味・関心の理由

旧赤星邸への興味関心への理由や詳しい内容は次のような傾向があった。

①アントニン・レーモンドの設計、デザイン性の価値

- ・ アントニン・レーモンドの設計した建築物だから
- ・ レイモンド建築の現存個人宅として魅力的だから
- ・ 建築物の内装や造り付けの家具に興味を持ったから
- ・ フランク・ロイド・ライトが好きで彼に師事したレーモンドの設計の建築物を見たいから
- ・ 前川國男に興味があり、師であるアントニン・レーモンドの建築なので大変興味があるから

②建築に興味関心がある

- ・ 元々、建築全般や古い建築に興味関心がある
- ・ モダニズム建築で現存するものは日本で少なくなってきたが、赤星邸は綺麗な形で残っており極めて貴重な建物だから
- ・ 鉄筋コンクリート構造の近代建築で、当時どのような耐震設計がなされたのか関心があるから
- ・ 昭和初期のモダニズム建築を味わいたいから
- ・ 近代建築が好きだから
- ・ フランク・ロイド・ライトが好きで、その時代の建築物に興味があるため
- ・ 日頃から建築などの公開イベントに参加しているから

③身近にある

- ・ 長い間身近にあり、親しみある建物だから
- ・ 修道院として親しみのある建物だから
- ・ 堀の中の様子はどうなっているのか以前から知りたいと思っていたから
- ・ 吉祥寺駅から歩ける範囲で美しい建物や庭があるとは知らなかつたので興味を持った
- ・ 自分が住んでいる武蔵野市にあるのなら気軽に見学したいので、壊されることなく大切に保存してほしいのと有効活用してほしいから。

④自然が豊か

- ・ 庭や大木も緑地として貴重だから
- ・ 貴重な文化財であり、緑豊かなオープンスペースもあって、観光資源としての活用ができそうだから
- ・ 緑が多く、市民の憩いの場となりうるため
- ・ 敷地の広さ、樹齢の長さを感じられる樹々、白亜の建物、全てに興味を持ったから

⑤歴史的な価値がある

- ・ 戦前のモダニズム建築として歴史的価値のある建築、文化財だから
- ・ アントニン・レーモンドが設計した建物だから（再掲）
- ・ 家具をデザインしたノエミ・レーモンドに興味があるから
- ・ そこに暮らしていた赤星鉄馬や渡辺和子シスターといった人物の歴史に興味があるから
- ・ 戦前の富裕層の暮らしぶりを垣間見ることができ、非日常を味わえる空間となっているため
- ・ 赤星鉄馬を知る上で、彼が建築家レーモンド氏に設計させたこだわりのある住まいは極めて重要であるから

⑥武蔵野市にある

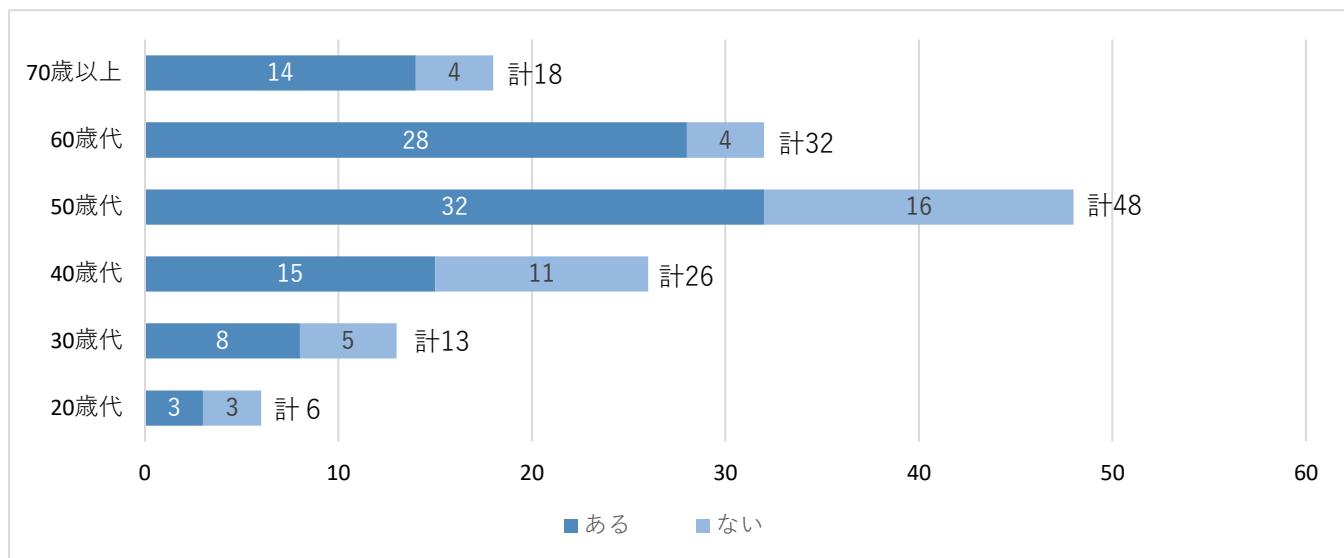
- ・ 武蔵野市の貴重な文化財として興味があるから
- ・ 市内でも有数の緑地だから
- ・ 生まれた時から吉祥寺に住んでいるが、赤星邸の存在は知らなかったから
- ・ 素敵な佇まいに以前から気になっていたから
- ・ 立地は吉祥寺駅から離れているものの、成蹊大学の前ということもあって若い人もたくさん行き来する場所というところも良いから
- ・ 市の財産として興味があるから

⑦今後の利活用に興味がある

- ・ 今後しっかりとこの建物や庭園を保全していってほしいから
- ・ 市税を使って土地が買われている以上、市が納得のいく使い方をしていくか、注目しているから
- ・ 建物は建築的・歴史的価値が高く、庭を含む周辺環境は街にとって潜在的価値があり、今はまだあまり知られていないからこそ今後の活用方法が気になるから
- ・ ふるさと納税の返礼品や地域の憩いの場として図書室やカフェとして活用できそうだから
- ・ 多くの方に楽しんでもらい、お金を生み出すような施設にしてもらいたいから
- ・ 建築物の保存について常日頃関心があり、民間業者の利権絡みの再開発手法に疑問を感じているから

(3)旧赤星邸の訪問経験（行ったことがあるか、どの機会に行ったか）

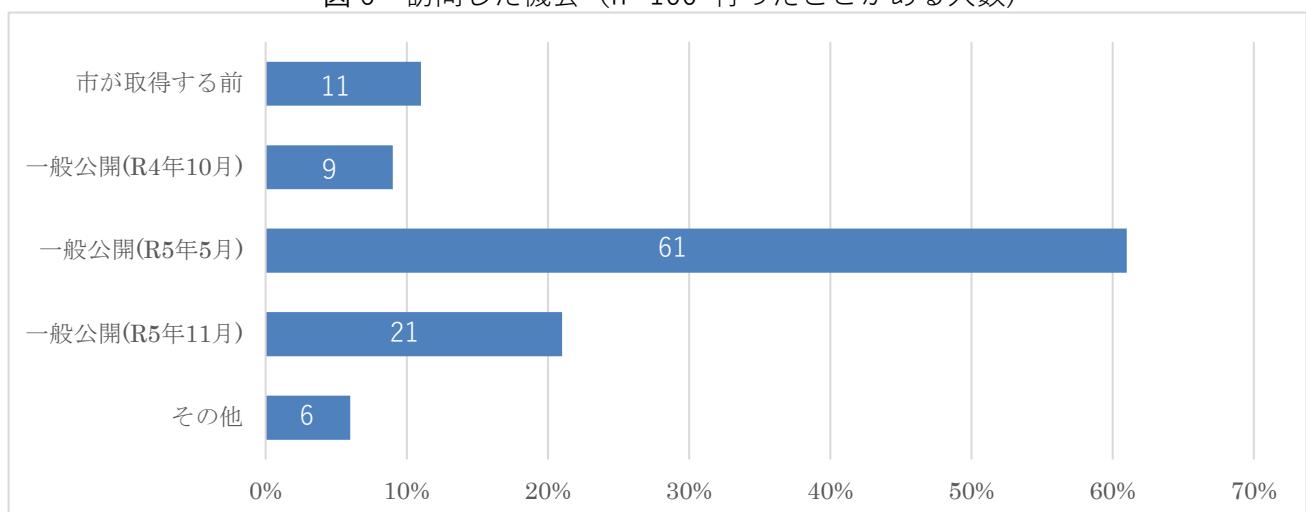
図5 年齢層別訪問経験 (n=143 回答があった人数)



60歳以上の方は旧赤星邸へ行ったことがある方が多かったが、50歳代以下になると、行ったことがない方からもアンケートへの回答が多かった。

※複数回答

図6 訪問した機会 (n=100 行ったことがある人数)



行ったことがある方の訪問機会は、令和5年5月に実施した、一般公開が最も多く、次いで令和5年11月の一般公開となった。

(4)利活用に関する自由意見

以下のような意見が寄せられた（ワークショップで整理をした視点に沿って再構成）。

視点1 市民のための場

■日常的に、気軽に使える

- ・ 貸会議室とする。
- ・ 1階ラウンジを市民に有料で貸し出しヨガや瞑想のイベントに使わせて欲しい。
- ・ 歴史遺構としての特徴部分の玄関、階段、書斎、外観、庭は残し、それ以外の部分は最新の設備にリノベしてカフェ、レストラン、ギャラリー、など近隣が実用しうる施設とすべき。
- ・ 吉祥寺の飲食店などに呼びかけてワンコインパーティやアンティークマーケットなど。
- ・ 市民に開かれた場になることを期待します。
- ・ リピート客を創出することが、市民に長く支持されるポイントだと思います。
- ・ 市民が日常的に気軽に出入りできるような施設を希望します。高級レストランなどではダメです。

■静かに過ごす、癒やされる

- ・ 文化度の高い空間なので室内樂や写真、お茶など、静かめな活動の場になると良い。
- ・ カフェスペースや読書など静かに過ごせるラウンジなどをぜひ併設してほしい。
- ・ 建築当時の姿に戻してもらって、当時の風情を楽しみたい。ゆったりと座ったり、お茶を飲んだりして、建築や庭を当時の人気がしていたように楽しみたい。
- ・ カフェ
- ・ 騒がしい場所でらなく憩いの場として親しめる場所にしてほしい。
- ・ 藤棚のあるテラスにベンチを置き、ゆっくり庭を眺められるようにする。一階3、6、二階7、8の部屋に手頃な椅子を置き読書等の用に供する、簡単なカフェを設けるなど。
- ・ 四季折々自由に散策しながら、建物内は図書室や茶室として利用できるのでは。

■様々な人との共生、交流の場

- ・ 芸術文化の交流の場所
- ・ こどもから、高齢者まで幅広い層が集まれる場所
- ・ どの年齢や世代にも使いやすくして欲しい。子育ての息抜き、若者の悩みやストレス解消、年寄りの孤独回避…全てに優しい施設になる事を希望します。
- ・ 市民の会合の場として活用してほしい。
- ・ 定期的に展示や催しが行える施設にしてほしい。
- ・ 市民のための迎賓館になると良いです。

■グループでの集い、活動の場

- ・ 市民が活動する時に使用できるものになるとよい。
- ・ 美術作品の展示空間として優れていると思うので、市民が使える美術の展示空間としての活用ができるとよい。美術展示の場所として使われることで、建築の良さを理解できる人にも認知が広まると思いますし、展示の際に入場料などをとれば建築の保存、維持費にも活用できるのではと思う。

■子ども、10代、若者の居場所

- ・ 新しい世代、子育て中の家族が利用することで、育児の負担が軽減される施設、あるいは、遠くに行かなくても家族旅行気分が味わえるプレリゾート化、それら複合施設でも良し。駅前の子供向けショップとのコラボ、マルシェ開催等など、若い世代が楽しめる場所に。
- ・ 子育て中の親子が気軽に立ち寄れるような、ぐーぐーこども文庫のようなこども文庫の場所として利用できたら、豊かで開放的なお庭も活用できてよいなと考えました。

- ・ グーぐー子ども文庫は移転先が見つかっておらず、人員等の運営に課題はあるかもしれないですが、いち 이용자としてはよいなと思いました。
- ・ 高校生にも利用して欲しいがルールは徹底した上で自由に使えるのが理想。
- ・ 建物の塗装や安全性を保つための適切なメンテナンスをして、建物は有料公開、庭園は自由に散策できるような場所だと嬉しい。

■多様な使い方ができる可能性

- ・ 建物を出来るだけオリジナルに復元しつつ、今の時代に合った市民の為の施設になると良い。
- ・ 土日祝日に一般公開するイベント
- ・ クラシックやジャズコンサート、ギタートリオなどのコンサートイベント
- ・ レストランやコンサートホール、ガーデンウェディング等にも活用されると建築に興味のない方にも親しまれる場になる。
- ・ 由来ある建築家のトークショー
- ・ レゴと協業したワークショップ
- ・ 武蔵野市の魅力を発信する展示会の利用
- ・ 武蔵野 FM の公開スタジオとしての利用、文化イベントの活用
- ・ 博物館的な運用をして市内外へアピール+収益確保
- ・ 小学生などの総合の授業で見学させる
- ・ グッズや名産品の考案→側で売る
- ・ 大変貴重な物件で適切な復元と、今後の活用の為の改修を望みます。
- ・ 邸内でコーヒーや軽食がとれる
- ・ コンサート、美術展などのイベント
- ・ 市民優先で使える結婚式などの会場として利用する他、ふるさと納税の返礼品に活用。
- ・ 市民ミュージアムとしての利用
- ・ 歴史的な価値を保存する視点も大切だが、現代の暮らしや生活において利活用されることを念頭に検討してほしい。
- ・ 住宅や修道院としてのイメージを刷新し、地域に開かれた施設となって欲しいので周辺施設(成蹊大学、五日市街道の商店街や親交会など)と連携しやすい用途、運営形態にしてほしい。
- ・ 中廊下と複数の階段を有する空間構成により回遊性と明暗（外向きの居室→中廊下→外向きの居室）の体験を創出しており、その建物固有性を活かしてほしい。
- ・ 利活用を大切にしてほしいので、指定管理者制度の活用により、民間活力を積極的に採用してほしい。
- ・ 増築部と本邸部（文化財指定）の利用途の使い分けと、施設全体としての融合、調和、共存が、要になる気がします。
- ・ コンサート・ライブ会場(弾き語りなど)、ファンクラブのイベント会場などに利用してみると良い。
- ・ クラウドファンディングなどの手段で支援者を募り、建築は建設当初の姿に戻し、ごく安い料金で公開、庭園は小公園として無料開放する。サイト全体を誰もがいつでも利用できる小公園+建築記念館+カフェ+イベント会場のようなものとし、利活用しながら保存することを考える。イベントの内容や運営方法、参加者や業者選定などは市と支援者が協議して決める。頻繁に市民市のようなイベントを開催するなど、利用率を高める工夫をする。
- ・ 庭は素敵なままで荒らされないように、日にち時間限定で入れるような公園やカフェに、美味しさはプレイスのカフェ位おいしいと嬉しいです。
- ・ 建物は資料館や歴史館にしていただけと嬉しいです。ビデオが流れていた部屋で、市の歴史の展示やビデオを流したり、市役所のロビーの展示や武蔵野ふるさと歴史館みたいになれば足を運びたいと思います。
- ・ 建物保全については、市に貢献した赤星さんの旧邸としてなのか、またはレイモンドの作品としてなのかで、保全の対象が変わってくるものと考えます。増築分は建物的には価値を感じず、見苦しい存在でした。所有者が変わる度の改装部分も多く、オリジナルをどこまで復元できるか疑問に感じました。

- ・ 小部屋がたくさんあるので菓子や弁当などを部屋ごとに種別に販売して、庭に飲食スペースを一部設けて食べられるようにする。
- ・ 勉強会を重ね、市民による建築ツアーや
- ・ キッチンカー等の利用によりガーデンを憩いの場にする等の活用
- ・ 外観や内部意匠が素晴らしい。定期的に是非公開して頂きたい。邸内でのポートレート撮影などに是非使用してみたいです。
- ・ 展示会や、小規模なコンサートに利用されたら素敵だと思いました。
- ・ キッチンやバストイレの設備もあるので、研修会などの会場にも利用。
- ・ ガーデン広場ではお茶をいただいたりして1日を豊かに過ごすには持ってこいのスペースです。
- ・ 1F居間は広さがあるので、コンサートなどイベント等に使用
- ・ 竣工当時に最も近い形でリノベーションされる事を望みます。建物全体の機能としては、美術館にしてはどうでしょう。居間食堂を中心に南側に面した居室はレストラン・カフェに。細かく仕切られた居室は展示室に。増築棟はアートインレジデンスとして。庭も一般に公開。自然とアートと人が緩やかに交わる場になったらと思います。
- ・ 個室が多数残っているため、例えば一部を宿泊施設として維持管理していくのはいかがでしょうか。吉祥寺という町自体に魅力があるため、訪れる方は少なくない。
- ・ コスプレイヤーの写真撮影場所として解放、SNSで拡散。カフェ、レストランも併設。

視点2 歴史・文化の継承

■建物を楽しむ、知る

- ・ 古き良き物を大切にしていく。とても大事な事だと思っており、武蔵野市の取り組みは素晴らしいです。維持は大変かと思うのですが、もう少し見学出来る日が増えると嬉しいです。
- ・ 建築家によるトークイベントを実施してほしい。映画会、読書会も楽しい。
- ・ 保存状態が良くなかったので、入場料金を取ってでも、手を入れると良いかと思いました。
- ・ 是非一般公開の期間を増やして欲しい。またドラマや映画の撮影、演奏会等に有料で貸し出し、世間に広く知って貰いたい。得た収入は維持費にあてる。ずっと残して欲しい。
- ・ 建物の時代背景など、あれば写真などで子供でも見やすいような展示や、市で行うイベントなどでも使用できると良いと思います。中庭の水が溜めてあるところだけ この時期蚊が発生しないか心配です。
- ・ 一般公開ウィークで拝見しましたが、とても素敵な空間でした。しかしながら、内装や建具などがレーモンドの建築と異なる点が見られたため(恐らく後に入った方が手を加えた点)元の状態にまず近づけていただけだと、建築ファンとしては嬉しく感じます。
- ・ できるだけ竣工時の状態に戻して保存してほしい。モダニズム建築を堪能できる、数少ない実例です。公開ありがとうございました。
- ・ 住宅規模の建築に関する展示会を、市外からも関心のある人なら訪れたいと思うくらいの内容で継続的に開催する施設として知られるようになると素敵。
- ・ なるべく建築当時ままに残してほしい。
- ・ 見学してみて、修道院として使用されていたためか、想像以上に個室が多い。なるべく往年のスタイルは遺しておいていただければ近代建築好きとしては嬉しい。
- ・ 保存してください。
- ・ まさに日本近代建築史の聖杯とも言ふべき作品です。実物を見て改めて衝撃を受けました。壁面から後退した柱、自由な平面など、コルビュジエとほとんど同時代に東洋の果てにこれほど先進的な設計思想の住宅が建てられ、しかもそれが現存しているというのは想像を絶することです。近年、同時代のモダニズム邸宅である原美術館が解体されたこともあり、この時代のモダニズムの住宅の現存例として旧赤星邸の価値はますます高まっていくと考えます。
- ・ レーモンド記念館の提案：帝国ホテルの建設に際しライト共に来日し、その多くの作品や弟子達の育成を通して戦前、戦後の日本の近代建築の歩みに貢献したレーモンドの軌跡を紹介する展示館とする。建物は住宅だった時の姿に戻し、和室やオリジナルの内装、スチールサッシの復元などにより当初の赤星鉄馬邸の雰囲気を生かした展示空間とします。

- ・（都の庭園美術館や品川の原美術館のような）修道女会だった時の記憶を残すものとして礼拝堂は残すとしても、南西側の増築部分は撤去した方が良い。
- ・増築された礼拝堂や居室棟部分は建物の使われてきた歴史を知る上ではそれなりに貴重なものです、住宅建築としての赤星邸の本来の姿を味わう上では夾雜物的な部分なので、この際残念ですが撤去した方が良い。
- ・改編された建物の部分、例えば二階のバルコニーが部屋になっている箇所や、和室が洋室になっている部分、更にできればサッシや内装なども当初の姿に戻せば理想的なのですが....。

■場所の歴史を感じる、伝える

- ・レーモンドは太平洋戦争末期の日本空襲に重大な役割を果たしており、彼の建築家人生の光と闇にスポットを当てて、モダニズム建築の歴史を学文化と共に戦争の悲惨さ愚かさを学習出来る施設になれば良いと思う。敷地が広いのでおかしな造り込みをせず、武蔵野らしい景観を維持して欲しい。
- ・当時の暮らしぶりの再現、赤星鉄磨の経歴、歴史伝達、ル・コルビジェ作品の類型紹介、近代建築の特徴伝承、類型建築物の紹介、維持費捻出の為の、有料公開
- ・こういった建築物は維持管理の費用や手間も掛かってしまい、管理される方々のご苦労は並大抵のものではないだろうと想像します。
- ・正式にオープンし公開するときには、赤星鉄馬、ナミュール修道女会、アントニンレーモンドなど旧赤星邸に関わった人たちの暮らしの様子、庭とのかかわり、町の様子など、旧赤星邸に住んでどんな生活をしていたかがわかるよう工夫をしてほしいと思います。建築とは人が住んで暮らして初めて家になると思うものですから。有料にして手入れ修復すべきだと痛切に感じました。
- ・ヨーロッパと違い、地震が多く戦争の被災などで貴重な建築が現存しにくい日本だからこそ、大切に保存してほしいし、建物の歴史的背景やデザインについて、またはどうやってここまで残すことができたかなどのためになるエピソードをたくさん盛り込んでほしい。
- ・再開発や変化も素晴らしい事ですが、いつでも建てる事が出来るものよりも、取り戻す事の出来ない歴史のある建物を大事にしてほしい。建物に関わって来られた人のお気持ちや、植物も大切に保存していってほしいです。
- ・東京の郊外化の歴史を振り返る展示を見られて、さらに素晴らしいお庭にものんびり滞在できるような空間になったらと思います。
- ・赤星さんが生活していた時代の調度品を揃え、ロケができるまでに忠実に再現する。現在、利活用についての委員会が開催されているようですが、是非ご検討ください。
- ・内装を建築当時の様子が感じられる程度に復元してほしい。
- ・赤星鉄馬という謎多き大富豪の生涯辿り、彼と縁のあった人達を紹介し、彼が生きた明治から昭和にかけての激動の時代について学ぶことができる博物館になるとありがたい。

■建物と庭を一体で楽しむ

- ・広い部屋を美術館またはギャラリー、ミニコンサートホールなどにする。可能ならカフェ併設。季節が良い時には庭もオープンカフェに。2階はアンティーク家具など調度品を整えて期間限定や予約制で見学可能にする。
- ・撮影し映えのする建物・庭園ですので、フィルムコミッションに活用することも出来そうです。
- ・建物と庭、外部と内部における空間としての関係性がとても気持ちよかったです。活用方法もこれになぞらえて、庭を使うときは建物も、建物を使うときは庭も使うといった相互関係があるといいと思いました。
- ・美しい庭や建物は耐震など補修して永久保存にしてください。
- ・広い庭園を手入れして、庭を眺めながらのコンサート等開かれたら多くの市外の方々にも訪れるようになり、吉祥寺駅と三鷹駅からも徒歩圏内でとっても良い立地。
- ・こう言う個性あるものは、その物件だけでなく環境を含めて保存しなくては意味が無い。有料で良いので公開の方向で検討頂きたい。

- いろいろと改変がなされているので建築的な価値の回復のために、当初のレーモンドが設計した時の段階に戻すべきだと思います。(増築部の撤去、外壁仕上げの復旧、藤棚を撤去しオーニングの再生など)
- 庭も素晴らしいので、建物は見学しながら旧食堂あたりでティールームとして活用してはどうか。庭でもお茶を楽しめれば最高。維持のため、多少はお金をとってよい。
- できる限り竣工時に復元し、庭と建物を分断しないでほしい。
- 庭を公園として整備する予定との記載がありましたが、建物と庭は一体として保存・公開してほしい。
- 建物部分は芸術・文化的な拠点、例えば美術館や音楽サロンのような公共施設に、庭はパブリックスペースとして開放し、敷地のフェンスは閉塞感があるので生垣などに変えて周囲の景観に合わせるとよい。

視点 3 自然を守る・育てる

■既存の緑を守る

- 緑豊かな庭は是非残して欲しい。公園にするとしても、余計な遊具などは置いて欲しくない。
- 四季の花を楽しめたら嬉しいです。

視点 4 観光資源

■観光資源として使う

- 武蔵野市の観光のシンボルとなるような利用をお願いしたい。
- 観光地として売り込む。
- 市外在住のため、貴重な建物の保存・利活用に動かれていることを知り、とても嬉しく思います。若い方たちにも是非この建物のことを知ってもらえたなら、YouTube や Instagram などで取り上げられて、武蔵野市の認知につながるかもしれません。市外から訪問する方たちのためにアクセス方法や近隣の見どころなどもまとめていただけるとありがたいです。
- 全国の方々に建造物を見て頂くため、内部を最小限改装し、ミュージアムとするのが良い。武蔵野市の財政負担を出来るだけ少なくする必要もあり、集客力が抜群かつ吉祥寺に御縁が深い色々な漫画家の方々(例えば、イラストレーターの江口寿史さんや北条司さんなど)の作品を展示するミュージアム。トップカルチャーがとても合う、学生の町でもある吉祥寺に相応しく、継続的な集客が期待でき、維持管理費も助かるはずです。
- 武蔵野市の観光スポットとして再開発したら良いのでは。

■庭を活かした資源に

- 是非市民のために有効活用をお願いしたい。
- 本邸いがいの建物ち広いお庭を活用してほしい。
- 庭の芝生がふかふかで靴で歩いても気持ち良い。一部は子供が裸足で遊べる場所とすると良いと思う。
- ステキな藤棚があるので、開花する時期に公開してほしい。また、庭木に紅葉するものが見受けられたのでもう少し遅い12月の公開も良さそうだと思う。

視点 5 持続可能な利活用

■次世代に伝える

- 今回初めて知ったのですが、素敵な建物だと思ったので小学生の時に社会科見学できたらよかったですなと思いました。
- 誰でも入れるようにするのは安全性、保存のためやめてほしい。
- 意外にも修道院時代の改裝が貧弱だったと思われる。上野の旧岩崎邸あたりと比べて文化財的な価値は劣ると思いました。国の指定を受けると改修が困難になるのではないかと不安です。
- 庭の管理が貧弱なので、ちゃんとした庭師集団に整備を依頼する必要性を感じました。

■収益を得る

- ・ 入館料を徴収することが、サステナブルな運営へ繋がると思います。
- ・ 500 円程度の入場料を徴収すべきです。管理要員の一部にボランティアを活用するのもよいと思います。
- ・ 維持管理のために無料公開が難しいのであれば、有料でもよいと思いますが、なるべく金額はおさえていただきたいです。学生割引や武蔵野三鷹市民割引など設定してほしい。
- ・ 市外からも集客が見込めるならば、入場料を設定しても良いのではないか。
- ・ 入場を有料にして修復や維持の費用に充てることはできないのだろうか。
- ・ 本当に最低限の補修、以前の姿を取り戻しておくことが、最善の策でしょうか。収益化することへのこだわり二の次にされていることに驚きました。有識者の助言を受けることを条件に民間へ売却、より良いコンセプトへとリノベーションすることも可能なのでしょうか。
- ・ 長く保存していくためにも民活を生かしていくべきだと思います。
- ・ 保存維持に多額の税金がかかり、あまり入れない見られないのでは、市民としては良くない気持ちになるので、広い敷地を活かしてイベントを催したり、身近にある素敵な場所の1つとして根付いていけば、より価値を高められる。
- ・ どんどん老朽化していきます。入場料を決めて一般公開し、収益を保存、修復、人件費などにあてれば良いのではないのでしょうか？
吉祥寺という環境からこだわりのある物への需要と供給は最適でしょう。比較的大きなスペースは飲食を提供出来るスペースに出来そうです。
- ・ ただ、見学するだけの後ろ向きな利用だけでなく、受け継いだ遺産をより良く、次世代に建築の保存の良さが伝わる手法での利活用を実現して下さい。もちろん民間がやっても経済的に成立する手法で！
- ・ 末永くよい状態で保存するため、有料にするか募金箱を置いていただければ協力します。
- ・ 国の緩やかな保護措置もあるが、体験宿泊ができる機能を一部に持たせてはいかがかと思います。使われている材料の歴史を感じるには、宿泊することが、最も身近に感じ、保存への愛着も湧いてくる。
- ・ 補修るべきところは補修しつつも、可能な限り建築当時のままの保存を求めたい。
- ・ 多くの人が関心を寄せている建物なので、クラウドファンディングといった、誰でも保存活動に参加できるようなやり方もあったら嬉しい。
- ・ 喫茶等で利活用して欲しい。（有形文化財のスタバ等）
- ・ レストランやホテルとして活用できるように思う。
- ・ 映画やドラマのロケ地として利用できる工夫をしたら、効率の良い運営ができるのではないか。

視点 6 その他

■安全安心

- ・ 赤星氏の暮らしていた頃から、修道院として利用されていた頃まで、様々に手直しをしつつも建築と庭そのものは大切に残されてきたことが感じられました。
- ・ 今後、文化財や公園として残されていくことですが、多くの方が出入りするようになると故意の破損や設備の盗難など、悪意を持って訪れる人が出てくることを危惧しています。セキュリティ面での対策をお願いしたいです。
- ・ 1階玄関から入り少し歩くと右側に小さな庭園のようなものがあります。そこに水が溜まっていて、蚊が発生するのではないかと不安に感じております。以前の近隣の方向け公開と今回も

水が溜まっていました。すぐ近所に住んでおりますので蚊がわかないように対策をお願いできませんでしょうか？

- ・単に緑の多いだけの公園は夜まで自由に入れると治安的に不安です。最近の若い人たちの闇バイトなどの溜まり場にならないようにしてください。
- ・外に対して閉鎖的な柵を張り巡らせてはいるが、地域に開かれた柵に改修してほしい。

■文化芸術の拠点

- ・光と風とアートある空間／アートは人とお金を呼ぶ。アートを絡ませてお金を産む仕組みを組み込み持続力を備える。
- ・武蔵野市立吉祥寺美術館の移転。現状の吉祥寺美術館はとてもよい企画をおこなっているが、アクセスこそよいものの手狭。猥雑な街中にあって落ち着かない立地ともいえる。内装は、可能なかぎり当時の状態に戻す。
- ・鉄馬の父・赤星弥之助のコレクションが再集結する展覧会、鉄馬がパトロンとなった藤島武二展、鉄馬の弟・赤星五郎旧蔵の李朝のやきもの展など。
- ・アート、デザイン、建築の美術館にしてもらいたい。武蔵野市にはまともな美術館が一つもないでの。
- ・「武蔵野市ガーデン美術館」を提案します。絵画を所有するのではなく絵画の「企画展」として活用できるといいなと思いました。
- ・耐震調査等もされた上で、ぜひ市の美術館として活用して下さい。時の庭園美術館にも負けない、市民の誇りとなる素晴らしい美術館になる。

■ペットが使える場所

- ・建物を大切に管理する費用のために、あの敷地を会員制のドッグランにする。武蔵野市はペットを飼う家庭がかなり多く、獣医さんも多数、さらに犬の保育園や調教師の方も敷地の近所にいます。決められた時間内に会費制で自由に犬を遊ばせながら、簡単なカフェを置き市民の憩いの場として活用する費用で文化財を管理維持し、見学可能にする。
- ・庭を犬連れでも入れる公園として開放していただけるとうれしい。

(4)その他意見

①進め方

- ・庭を活かす：広く、風も通り、適度に大きな木もあり、大変気持ちいい庭です。
- ・住宅街ですから遠方から車が来ても近隣の方には迷惑でしょうから駐車場はいらないと思います。駅からここまで散歩するのも悪くないし、人気が出たら距離は足枷にはならず。その分ガーデニングに予算を回す方がいいと思います。
- ・最低限の整備で十分だと思います。少なくとも庭は今ままが造られすぎていなくていい。建物はイベントをするのに貸すのはどうか。結婚式だってケイタリングすればできると思うし、用途はいろいろあるような気がする。
- ・残念なことは有識者会議に女性のメンバーがいないことでした。
- ・取得・保存決定は素晴らしい決断だと思う。保存と活用の兼ね合いが難しいとは思うが、貴重な建築を後世に残してほしい。ドネーションや庭の整備など、できることがあれば参加したい。次回の社会実験にも参加したい。

②一般公開

- ・前回の抽選に外れ、今回楽しみにしていたが、期間短いので土日には予定があり行けず、平日も並びが凄くて在宅勤務の昼休み1時間じゃ間に合わずわざわざ行ったのに断念した。有閑マダムやシニアや学生じゃない会社員のことも配慮して欲しい。市民税納めてるのだから、優先で整理券配布とか対応して欲しい。
- ・年に1.2度の特別公開を続けて欲しい。今回のような新緑の時期も中庭が美しいですが、出来れば藤棚が見頃の時にも伺ってみたいです。

- ・パンフレットと部屋名が異なっていたり(執事室と応接室)、奥の深い引き出し(どうなっているのか見てみたかった または聞きたかった)や、建築についても聞いて見たかったので、説明会もあるといいなと思いました。
- ・この度は、見学する機会を設けていただきありがとうございました。修道院だった頃から、中を見てみたいと思っていたので念願が叶い嬉しかったです。
- ・ぜひ見学をしたいと考えていますが、一般公開の期間が短すぎて調整が難しいです。保存や利活用を検討する上でも、多くの人に実際を見てもらい意見を求めるという形が必要だと思います。
- ・遠くに住んでいるので、公開期間を延長して頂けますと幸いです。是非見学にまいりたいです。
- ・見学ツアーや一般公開をしてくださってありがとうございます。
- ・11月の一般公開を楽しみにしています。
- ・残念ながら混み合って建物内部は拝見出来ませんでした。
- ・一般公開の頻度がもう少し多いと、四季を通して拝見出来るので良いと思います。今回は残念ながら逃してしまいましたが、秋の一般公開には参加したい。
- ・本日(5/11)まつたりした雰囲気のなかで落ち着いてのんびり見学ができました。よい状態で見学できてとても嬉しいです。ありがとうございました。
- ・耐震性が不足している箇所があるのでどこまで可能かわかりませんが、ぜひ誰もが見学出来るようにしていただきたいです。
- ・建物は常時公開では傷みが進む…と思うので、期間を限っての公開が望ましい。
- ・建物もお庭も美しく、是非公開していただきたいと思います。
- ・今まで抽選に外れてしまった人を優先的に案内してほしい。
- ・今回の公開は、もぬけの殻の建物のみの公開で生活感が感じられず、素人の私にはその価値があまりよく分かりませんでした。残念！
- ・保存の為に常時公開は難しいかもしれないが、ぜひ年に1、2回公開してほしい。
- ・レーモンドさんの建築が西武線沿線にあり、期間限定で公開されていたことを知って、ネット検索でこちらのサイトにつきました。5月に公開された時のSNS投稿を見ていると行列ができていましたが、期間限定でなく通年公開になって、ゆっくり見られるようになった時に伺いたいと思っています。
- ・建物も庭もとても興味深く見させていただきました。赤星さんが住んでいた頃や修道院当時の写真や資料をもっと拝見したかったなと思います。
- ・公開についてもっと広めた方が良い。成蹊大学の学園祭と日程が被るので、学園祭と連携など。当日でも空きがあれば見学出来ると良かった。
- ・秋の一般公開にも参加したが、事前予約制は文化財を保護する観点からも良いと思う。
- ・期間を限定しても良いので、一般公開していただきたい。
- ・安全に配慮していただいた上で、なるべく早く本格的に公開していただきたい。
- ・建物内を見学した印象は、一度見たら十分、何度も見学したい場所ではない、ということ。後から付け加えられた部分が多すぎたこと、そこがありきたりで、昭和初期の建築物、というありがたみが薄かった。レーモンド氏の建築物としての価値を高める方向にしなければ、ただの古いコンクリートの建物になってしまふと感じました。藤棚も立派なようですが、もともとあったものじゃないのに、それをレーモンド氏の建築物につけての展示でありつづけるのは、中途半端になると思う。むしろ、庭側に移設するなどして、庭は庭で楽しめるよう工夫して欲しいです。庭は、町の喧騒を感じながらものんびり過ごせて、長居するつもりじゃなかったのに、気が付くと時間がたっていた、そんな空間だった。建物に影響しないよう、休める場所が出来て、そこに簡易的なカフェでもベンチでもあれば、そのために数百円払うのは特別な時間を得るために惜しくないなと思った。

③参考事例

■武蔵野プレイス

- ・芸術文化の交流の場所として、武蔵野プレイスのように市民が利用しやすい交流の場になるとうれしい。プレイスよりスペースもありそうなので人が集まるように活用できたらと思います。

■東京都庭園美術館

- ・ 白金台の東京都庭園美術館がよい先例となりうる。戦前の広い庭つきの白亜の邸宅を利用した美術館で、鉄馬邸の前年・昭和8年の竣工と年代も近く、ケーススタディーとして非常に有効と思われる。
- ・ 建物は、東京都庭園美術館のように、美術館として、不定期に公開し、お庭は通年公開していただけるといいなと思います。ベンチがあって、遠くまで歩けない高齢者もひと休みできるようだ。
- ・ 目黒の庭園美術館のようにミュージアムとしての活用など、料金を徴収し、保全・修繕にかかるお金に利用してほしいと思う。ただ、そのような施設にする場合、耐震性の問題のほか、床・壁・段差の修繕費が莫大にかかると思うので、クラウドファンディングなどで資金を集めのもひとつだと思う。
- ・ 東京都庭園美術館では壁紙を額縁に入れて当時をイメージできるように各部屋の壁面に展示していました。今後の活用に向けて内装を修復したりするとは思いますが、こういう当時が分かる演出を希望します。
- ・ 立派な蔵もあることから、庭園美術館として市に在住・ゆかりの芸術家の作品を保管・展示するのも良さそう。
- ・ 目黒の庭園美術館が以前行っていたような、サロンコンサートが出来るような形での1階の食堂のレンタルです。隣の和室も茶会利用などが可能であれば、市民が気軽に市井の文化活動を行える。

■自由学園明日館

- ・ 活用する文化財としては目白の自由学園明日館が、結婚式等集会的なイベントに利用されているようです。旧赤星邸は比較的小さな部屋に区切られている為大きなイベント等には不向きと感じています。
- ・ 池袋にあるフランク・ロイド・ライトの自由学園明日館の様に建物を使いながら保存する「動態保存」を希望します。
- ・ 同規模建築の動態保存を目指している自由学園明日館のケースが参考になると思います。以前明日館では月に一度土曜日の朝に近隣の音楽大学の学生を演奏家として招いて、フリーコンサートを行なっていました。近隣の方など 100 名以下規模の観客でしたが新しい音楽や演奏家、楽器との出会いがあり毎回とても楽しませてもらいました。演奏家の学生の方にも腕試しの機会ともなりとても良い試みと思いました。
- ・ そのままの形にして、池袋にある明日館のように撮影や展示などで貸し出しをしても。税金だけで維持をしていくのではなく、多少の商業利用をしても、ながく存続するためには必要なことだ。
- ・ 自由学園のように部屋を教室として使えたり、日が降り注ぎ明るい食堂で庭を眺めながらお茶をいただけたりするとよい。

■三鷹市山本有三記念館

- ・ 三鷹の山本有三邸のように有料にして、公開していただけたら嬉しいです。
- ・ 三鷹の山本有三記念館のように、入館料を徴収することで、保全を補い、かつ本当に敷地のコンセプト・中身を理解して入館できるようにしてほしい。
- ・ 三鷹市運営の山本有三記念館のように、近隣住民と一体となって、未来永劫保存できるよう、安易な自由入園等はやめていただきたい。

■江戸東京たてもの園

- ・ 小金井公園の建物園で以前 ジブリ作品の 3D モデルや絵コンテなどで大変集客してあたるので、人気アニメのイメージ展示をする。

■kudan house（山口萬吉邸）

- ・ 九段にある 九段ハウス（山口萬吉邸）を見学した時に、内部を上手にリニューアルしていて、今の建築技術の素晴らしい実感しました。

■くにたち未来共創拠点 矢川プラス

- ・ 国立市で4月に開設された「矢川プラス」では、毎日多数の母子連れ、小中学生、お年寄りが、出入りしています。（新しい形の複合的、横断的市民利用施設かもしれません）ただし一方で、建築の平面プランから考えると、多数の個室（修室）、厨房や浴室が、増築部にあることから、ゲストハウス、シェアハウスなどの利用が想定されます。

■朝倉彫塑館

- ・ 朝倉彫塑館のように見学料を取って一般公開してもいいです。

■旧古河邸

- ・ 旧古河邸のように貸し出したり結婚式にや撮影スポットとして使ったりしてもいいかと思います。

■荻外荘

- ・ 荻窪の荻外荘も現在復元工事中で、近くにはカフェ併設の資料館も来秋オープンと聞きます。旧赤星邸も一般公開されるように願っています。

■原美術館

- ・ 品川にあった原美術館のような施設になったら、とてもうれしいです。有料でいいと思います。企画展も楽しみですし、カフェも素敵でした。ミュージアムショップもセンスが良く大好きでした。有料にすれば、庭も荒らされずに良い施設として維持できると思います。
- ・ 建物は品川区にあった原美術館に雰囲気が似ている気がしますので一般の人がはいれる美術館などの施設がふさわしいと思います。
- ・ 今は無き品川の原美術館のような場所が武蔵野の地にできたら嬉しいです。
- ・ 今はなき原美術館のように、常設でなくとも美術館のような役割を担うのも良い。

■神戸 CowMouse

- ・ 神戸のCow and Mouseさんは趣のある会場での企画をしている。

■ホテル・ニューアカオ

- ・ 財政難で廃業する直前、若いアーティストを公募して展示空間として活用していました。

■俣野別邸庭園

- ・ 庭の広さは違うが、庭園散策と芝生広場は無料、邸内は入館料を払って見学ができ、展示室と図書コーナーがある。ホールはカフェになっていて、テラス席もあり、季節のコンサートも催される。奥の部屋は、集会室として貸し出されていて、俳句の会などのグループが集まりを開いている。運営は指定管理者ですが、たぶん、地元の人たちで作った会ではないか？と思われる。

■スターバックスコーヒー青森弘前店、鹿児島仙巖園店

- ・ 歴史的建物活用のカフェ活用事例として。

■小笠原邸

- ・ 小笠原邸のようにレストランとして活用して欲しいが立地上難しいでしょうか。

④保存・利活用全般

- ・ ガタもきているので、ある程度割り切りも必要なのでは???
- ・ 建物の使われ方も、あまり一般利用にこだわることなく、あくまでも文化財として見学を主に想定した方が結果的に市民の誇れるものとして残る。
- ・ 近頃は後世まで残しておくべき素晴らしい建築や環境を簡単に壊してしまうことが多い中、文化が大事な資源として成り立っている武蔵野市の気概として、今後も保存してほしい。

- ・増築部分はバックヤード、管理部門として活用。こちらにエレベータを設置し、車いすはこちらから出入り。・天井の高い増築部分のホールも展示室として改造。車いすでは廊下がすれ違いづらいが、それはどんな活用法でも起こりうることで、改善はむずかしいか。
- ・旧赤星鉄馬邸があることにより、市にお金が落ちてくるならなんでもいい。文化財になるなら保存をして欲しいが、人が入らないと劣化する気がするので、何かで運用して欲しい。
- ・名称が「赤星邸」となっているが、GHQ時代、修道女会時代にどこがどのように改装されたのか、わかるような展示がほしい。現在のように一週間の公開だと見学者が集中してしまうのでもう少し公開日を増やしてほしい。
- ・NHKニュースで知りました。素晴らしい名建築の活用とってもうれしいです。ただニュース映像で折りたたみのパイプ椅子が写っていたのが残念に感じました。おそらくはマスコミ向けの説明会等で仮で置いたものだとは思いますが、これから活用していくにあたり、ちょっとした催し物に使う際でも名建築にふさわしい椅子を配置していただけたらと思います。
- ・購入後に建物が好ましい状態にないことが分かったり、購入後に利活用を考えていること自体がおかしい。無駄な買い物をした挙句、無駄なコストをかけて検討し、無駄なコストをかけて恐らくは市民には大したメリットもないことに維持管理コストなどの無駄なコストを払い続けようとしていることに呆れている。
- ・最初の印象では、外壁が前にも傷んでいて土地代込みとはいえ、税金でずいぶん高い買い物という印象でした。
- ・竣工時のオリジナルに復したうえで利活用するのか、接収、賃貸、宗教組織による大幅な改造、改変等を経た現状のまま利活用していくのかによってさまざまな選択肢があるはずなので、それが見えない限り安易な利活用案を提示すべきでないと考える。まずは所有者としての武蔵野市の考えが先にあるべきと考える
- ・貴重な文化遺産を、より多様なより多くの、武蔵野市民の生活空間の中に取り込むことができれば、武蔵野市民の豊かな生活づくりに貢献できるとおもいます。また、市民を中心となって再利用計画を作ることにより、他の自治体が同様な文化遺産を保有している場合その参考事例となるよう役所も市民を尽力を尽すことが大切です。多くの市民から賞賛されるような活用方法を考えてください。
- ・建物を保護するため、全ての要望を叶えることは難しいことと存じますが、博物館のように建物を閉じ込めて管理するよりも、活用しつつ管理されていく方が資金的にも宜しいかと思われます。使いつつ、守りつつ、そんな二つの軸を持たせられるような活用を期待しております。
- ・建築意匠は可能な限り竣工時の形に修復、設備は原設計を生かしつつ現在の技術でエコに、外構も竣工以降に付加されたものを撤去。増築部分を解体して、レイモンドの建築を復元する。レイモンドが住宅として設計した建築なので寝食ができる利用が理想。庭や屋上も含めて。建築を理解して大切に有料で使い続ける方法を話し合いたい。
- ・11月の公開に行きました。一般利用ができるようにするには、まだまだ時間とお金がかかるのだが、と感じた。何かボランティアができれば…と思う。白金の庭園美術館のような使い方ができそうだが、お金がかかる。三鷹台の立教女学院の寄宿舎と、雰囲気が似ていると感じた。国分寺市に、S. 8年に建った沖本邸は個人の持ち物で、カフェになっているが、この建物の設計者は立教女学院寄宿舎の設計者と同じ人だそうだ。立教女学院、沖本邸、東京女子大、赤星邸など、戦前の建物巡りのツアーができたら面白そう。赤星邸を起点に、ケヤキ並木を経て、市役所前から千川沿いを歩き、東女から西荻窪へ…または、青梅街道を渡って武蔵関、東伏見方面…と、ハイキングコースが作れそう。
- ・南側の宿舎(増築棟)は撤去、礼拝堂は防音工事をしてコンサート会場、本館は、ホテル・レストラン、イベント会場、庭の芝、樹木はできるだけ残す。
- ・日米友好の象徴として出来るだけ現状で保存、維持することを基本とするが、老朽化を防ぐため、毎日使用・活用する方法を検討する中で、ある程度の改造は認め（トイレ設置、炊事場設置など）、有効に活用したいと思料する。活用方法の案としては、幼児、幼稚園児に庭を使用させる、高齢者の談話室、などは如何だろうか。

- ・ 昭和初期のモダニズム建築を是非今後も大切に残して欲しい。まだこのような建築が残っているのは貴重だが、その価値を皆さんと共有して欲しいので、ガイドツアーなど実施して欲しい。また庭園を眺めながら演奏会をするなどもいいと思う。
- ・ 傷んでいる部分をどう保存するのか？庭園美術館のように使えないか？荒れずに保存出来ればと思う。
- ・ 常時一般公開するためには多分、耐震補強が必須と推察するが、その方法と使いかたとは一緒に考えるのが合理的。その一例として、アントニン・レーモンドの建築や作品を紹介するアートプラザ（小美術館）みたいなものはどうか。戦前から戦後にかけて日本で活躍したレーモンドの事績を辿ってその功績を顕彰するような小スペースがあつてもよいように思う。レーモンドの設計事務所は現在まで引き継がれていると思うので、貴重な資料が残っている可能性もあるのでは。
- ・ 残念ですが、現状のままであれば全く建築的な価値は無く、行ってみて建築的感動は皆無で写真一枚も撮る気にならずに帰って来た。もし文化財として残すのであれば、増築部分は全て解体撤去して、本体も竣工当時のオリジナルの状態に復元しないとレーモドの設計した建物とは言えない。（現状はレーモドが設計したが、別の人改修したボロい建物）オリジナルに復元して、パーティーやイベント会場に使えたら楽しいだろう。逆に、オリジナルに復元をしないならば、全てを解体撤去して、現状の庭の自然を生かした公園にした方が、市民の憩いの場となつて皆で使えるので良いと思う。
- ・ 貴重な建築物であり、改修されてはいるが、オリジナルの箇所もあり、現存しているのが奇跡であると思います。大目に有効活用されることを期待している。
- ・ 見学させていただいて可能な限りオリジナルにもどして保存が望ましいと感じた。人手に渡つても増改築を経てその時々の役割を担えたからこそ、解体を免れて現在に至つていると理解している。しかし、国登録有形文化財になった今こそ、予算などの制約はある事と思うが耐震補強と併せてオリジナル保存が良いのではと思う。
- ・ これだけのものは、可能な限り保存していただきたい。財政的な難しさはあると思うが、竣工当時の形に寄せて次の世代に残すことができれば素晴らしい、と感じる。やはり、修道会の方の暮らしに合わせて手を入れた部分に若干の違和感がある。ただ、増築棟は、普段触れる事のない修道会の生活を垣間見るように、興味深かった。赤星家が子供たちと明るく開放的なムードで暮らしていたのでは、と想像させる雰囲気がとても良いので、将来的には一般への公開、もしくはイベントなどへの貸し出しなど、実際に中に入つて建物を楽しめる方向を期待する。
- ・ (1)旧赤星邸については竣工時の状態を復元し、かつ一般公開が可能とするため必要な補強工事をしてほしい。(2)ただし、修道施設として利用されていた50年以上の歴史も尊重すべきである。例えば、主寝室（？）の壁に残された十字架の痕跡は残してよい。また、礼拝棟は残すことが望ましい。(3)今後の利活用に不要だとするならば、修練棟は解体・撤去して良いのではないか。
- ・ 建物は美しいけれど…窓枠がサッシになっていることやいろいろなところに元々の材料ではないものが使われてしまつてることが残念。手入れもされてないのかただ古いだけのものになつてゐる。丁寧に手入れをして見せる所と見せない所を区別しても良いと思う。庭も手入れされていない様子でしたが今からでも庭の手入れはできるはず。残すと言うならば金を払つても見たくなるようなものにしないとならないと思う。
- ・ 不必要な市有管理財産は民間に払い下げ売却して市政に活かすべき。
- ・ 保存や利活用については近隣の江戸たてもの園などとも連携してはどうか？
- ・ 部屋数も多く、家具なども可愛く、とても見応えがあると思ったが、今まで見学した洋館や建物の中でダントツでボロかった。観覧料を取つても修繕、修復すべき。
- ・ お庭も素敵なので整備して欲しい。他の区に住んでいる友人と見学したが、武蔵野市が文化にお金をかけてないみたいで恥ずかしかった
- ・ 貴重な建物の保存はもちろんの事、出来れば接収された家具なども取り戻すことができれば良い。

参考資料 10

オープンハウスの実施結果（令和5年6月～7月）

オープンハウス実施概要

	第1回	第2回	第3回
実施日	6/4(日)	6/18(日)	7/23(日)
実施場所	吉祥寺駅南北自由通路	イトーヨーカドー 武蔵境店東館入口横	タワーズマルシェ@むさしの (三鷹駅北口)
開催時間	開催時間 13:00-16:00	開催時間 13:00-16:00	開催時間 16:00-20:00
回答者数	73	46	67

当日は以下のパネルを展示して、来街者の方に説明や意見聴取を行った。



左上 吉祥寺駅南北自由通路にて

右上 イトーヨーカドー武藏境店にて

左下 タワーズマルシェ@むさしのにて

国登録有形文化財
旧赤星鉄馬邸の保存・利活用を進めています
パネル展示と意見の聞き取り

あなたの声をお聞かせください

主催 / 武蔵野市 総合政策部資産活用課



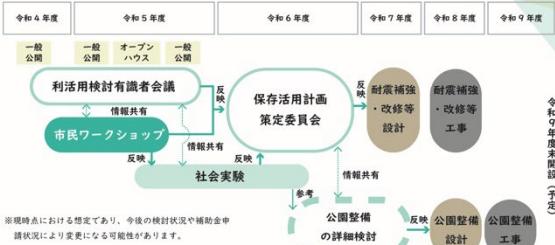
旧赤星鉄馬邸とは

モダニズム建築の先駆者である建築家アントニン・レーモンドにより個人住宅として設計され、昭和9年に竣工した鉄筋コンクリート造の建物で、令和4年10月31日に国の登録有形文化財に登録されました。令和3年2月に前所有者のカトリック・ナミュール・ノートルダム修道女会より建物の寄贈を受けたことから、『旧赤星鉄馬邸』の保存はもとより、緑豊かな庭との一体的な利活用により、この環境を将来につないでいくための検討を進めています。

敷地・建物概要



これまでの取組とスケジュール



一般公開

5/10 (火)～16 (火)に一般公開を行いました。期間中約5,000人の方々に見学いただきました。秋にも一般公開を予定しています。



利活用検討有識者会議と市民ワークショップ

建物の保存に関することや、庭との一体的な利活用に関するここと、旧赤星邸の利活用アイデアなどを考えます。傍聴も可能です。



パネル展示と意見聞き取り(オープンハウス)

下記の実施期間中どなたでも自由にご参加できます。

- 6/4 (日) 午後1～4時 はなこみち（吉祥寺駅南北自由通路）
6/18 (日) 午後1～4時 イトーヨーカードー武蔵境店東館
7/23 (日) 午後4～8時 タワーズマルシェ@むさしの（荒天中止）



市ホームページ

社会実験

市民ワークショップで出された活用アイデア等をもとに、利活用や運営手法を探るための社会実験を実施し、今後企画・運営に携わる方を公募していく予定です。

有識者会議より 旧赤星邸の価値や継承すべきものとは

有識者会議より「保存・利活用に関する基本の方針」や「具体的な利活用」について助言を受ける予定です。

建物と庭との関係

- 佇まいや雰囲気
- 建物から見える庭の美しさ
- 庭から見た建物の美しさ
- 組合せ自体も非常に価値ある
- レーモンドが日本に持ち込んだ、建物の中と外の連続性、半屋外で食事をする空間
- オリジナルでは藤ではなく可動式のテンントで外のリビングルームとして使われていた
- 建物と庭の一体化
- 建物の中も外であるという感覚
- 何もしなくていい場所があるのは贅沢
- 五感を満たす憩いの場

暮らしの変遷・歴史

- 赤星邸を巡る様々な歴史的背景
- 「赤星家」や「赤星鉄馬」の歴史そのもの
- 歴史的価値、文化的価値の継承
- 住宅～修道院で使われたミステリアスな部分も社会的価値の一部
- 修道女会としての歴史、50年にわたる活用
- 庭は歴史的には暮らしの中で意味を持つていた
- 今までの価値とこれからの価値
- 木が大きいという事は、それだけ平和な時代が続いたということ

旧赤星鉄馬邸竣工当時の様子



完成: アントニン・レーモンド内山義 (1930-1935), 建築監修: 1935年

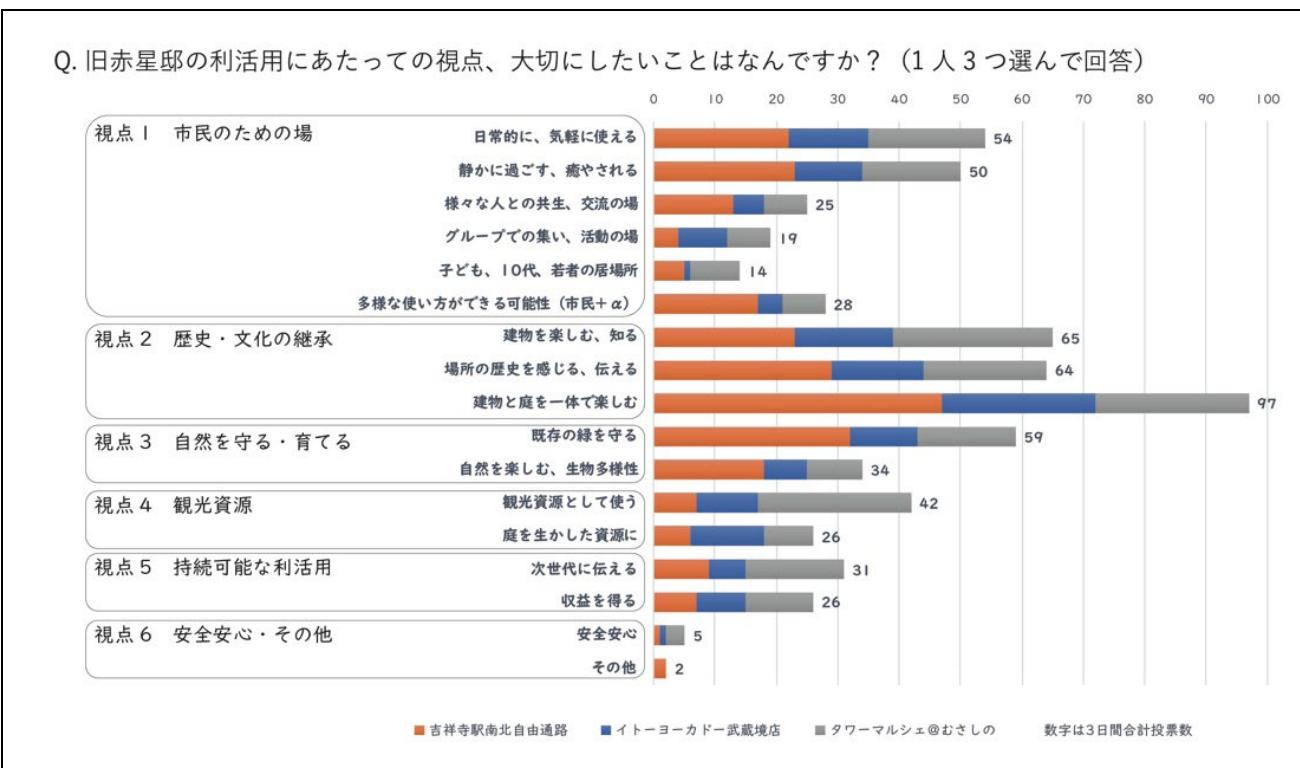


完成: アントニン・レーモンド内山義 (1930-1935), 建築監修: 1935年

市民ワークショップより 利活用にあたっての視点・大切にしたいこと		
 <p>市民のための場</p>  <p>歴史・文化の継承</p>	シールを使って、お一人3枚まで選んであなたの意見をお聞かせください。	
	①日常的に、気軽に使える	<input type="radio"/>
	②静かに過ごす、癒される	<input type="radio"/>
	③様々な人との共生、交流の場	<input type="radio"/>
	④グループでの集い、活動の場	<input type="radio"/>
	⑤子ども、10代、若者の居場所	<input type="radio"/>
	⑥多様な使い方ができる可能性（市民+α）	<input type="radio"/>
	⑦建物を楽しむ、知る	<input type="radio"/>
	⑧場所の歴史を感じる、伝える	<input type="radio"/>
⑨建物と庭を一体で楽しむ	<input type="radio"/>	
⑩既存の緑を守る		
 <p>緑を守る・育てる</p>  <p>観光資源</p>  <p>持続可能な利用運営</p>  <p>その他</p>	⑪自然を楽しむ、生物多様性	<input type="radio"/>
	⑫観光資源として使う	<input type="radio"/>
	⑬庭を生かした資源に	<input type="radio"/>
	⑭次世代に伝える	<input type="radio"/>
	⑮収益を得る	<input type="radio"/>
	⑯安全安心	<input type="radio"/>
	⑰その他	<input type="radio"/>

(1)利活用にあたっての視点、大切にしたいこと

当日はワークショップで整理した視点をもとにシール投票（1人3票）のほか、利活用に対して気がかりなことや期待していることについて、意見を収集した。



(2)もっとも利活用にあたっての視点、大切にしたいことの理由（概要）

①日常的に、気軽に使える

- ・ 年代、障害の有無にかかわらず過ごせるカフェや喫茶コーナー
- ・ 庭をみながらお茶を飲むことができる
- ・ 静かに自由に使える公園のような場
- ・ 気軽に自然を味わえる
- ・ 無料で行ける
- ・ 予約をしなくて行ける
- ・ ひなたぼっこなど自宅でできないことができる

②静かに過ごす、癒やされる

- ・ カフェで過ごす
- ・ 庭をゆっくり見る
- ・ 歴史を感じる
- ・ おしゃべりする
- ・ 散歩
- ・ 読書
- ・ 有名スポットやライトアップして興ざめしたくない

③様々な人との共生、交流の場

- ・ 歴史的建築で文化の発信拠点
- ・ 共通の話題で出会うの場
- ・ PRの機会
- ・ マイノリティの人も意見交換しながら交流

④グループでの集い、活動の場

- ・ いろいろなグループがそれぞれ使える
- ・ 武蔵野市内の学校、幼稚園、保育園などの同窓会館
- ・ 活動備品を保管できる場所

⑤子ども、10代、活動の場

- ・ 一つの世代に特化せずに、いろいろな世代に使えるように
- ・ 行き場のない子どもたちの場所にし、子どもたちが建築ガイドなど役割を持つことで、自己肯定感につなげる
- ・ 子どもが安全に過ごせる自習スペース
- ・ 子ども預かり施設
- ・ 宿泊体験ができるようにする

⑥多様な使い方ができる可能性

- ・ 新たな価値を持たせ未来につなげるなどコンセプトを大切にする
- ・ 庭や緑を大切にしながら多様な使い方ができるように改築して使う
- ・ ヨガワークショップ
- ・ アンティークショップ
- ・ ミニシアター
- ・ 音楽会
- ・ アーティストインレジデンス

⑦建物を楽しむ、知る

- ・ 建物の価値やそこに住んでいた人の思いを次に伝える
- ・ 建築を解説する
- ・ 博物館的に見たい
- ・ 建物を保全するだけでなく、使っていくことが大切
- ・ 人が訪れるしくみをつくる
- ・ レーモンドの作品としての解説
- ・ 建築の楽しみ方の発信
- ・ モダニズム建築としての発信
- ・ 成蹊大学との連携

⑧場所の歴史を感じる、伝える

- ・ 建物の魅力や続きの庭の価値を伝える
- ・ 旧赤星邸の背景や歴史を伝えること
- ・ 建物自体を活かしミュージアムカフェ
- ・ 美術館にして市内アーティストを展示する
- ・ 建物の歴史や魅力を、市民をはじめ、次世代に伝えていく

⑨建物と庭を一体で楽しむ

- ・ 雰囲気をそのまま残し、あまり手を加えない
- ・ 建築を傷まないようにする
- ・ 建物から庭を見て楽しめるように
- ・ 行き来しやすくしてほしい
- ・ いろいろな人が来すぎるので、入場料をとる
- ・ 人が訪れるしくみをつくり、吉祥寺などの地域活性化のきっかけにする
- ・ カフェ

⑩既存の緑を守る

- ・ 自然と一緒に緑を楽しむためにも、緑の維持管理費がかかるが大事にすべき
- ・ 都内で緑が減っているから、緑は大切にしてほしい

⑪自然を楽しむ、生物多様性

- ・ 吉祥寺地区の貴重な緑として残してほしい
- ・ 自然を生かして残さないと意味がない
- ・ セットで残っているからこそ価値がある
- ・ 自然の中でのんびりしたい
- ・ 子供の居場所
- ・ 宿泊体験
- ・ 保存樹木を間近に見たり触ることができる

⑫観光資源として使う

- ・ 庭園などビジネス色が強く出ない方法
- ・ この地域だからこそそのアイデンティティを打ち出す
- ・ 収益を得て、市民へ還元する
- ・ 収入面を確保するためには観光資源は大切
- ・ 多く収益を得られるよう宿泊施設やカフェなど広さを生かした場所

⑬庭を生かした資源に

- ・ 使いながら建物と庭を保存する
- ・ 庭もきれいに整備し入館料を取って保全に
- ・ 星を見る会

⑭次世代に伝える

- ・ 次世代に伝えることで、建物保存につなげる
- ・ 建物保存のため収益が必要
- ・ 本人が亡くなっているので、建物を残してほしい
- ・ みんなで大事に生かしてほしい
- ・ 旧赤星邸のオーナーの背景や建物の価値を伝えることが大切だ

⑮収益を得る

- ・ ロケや撮影の収益で注目があがると良い
- ・ カフェやクラシックコンサート、パーティーなどの場として、安く貸し出す
- ・ クラウドファンディング
- ・ ジブリ美術館との連携
- ・ 収益を得ないと継続できないと市民の理解を得にくい
- ・ あまり高い料金は取ってほしくない
- ・ お金をとり、利用人数を制限し、良いものを良い値段で

(3)利活用にあたって期待すると、気がかりなこと

①アクセス

- ・ 交通手段を検討すると良い。
- ・ 駅から距離があるので、対象は地域住民になるのではないか。観光資源にはならないイメージ。

②安全安心

- ・ 震度7が繰り返し起きても耐えられるような耐震性向上を。
- ・ 耐震は大切。時間の問題でいつか壊れてしまう。

③バリアフリー

- ・ 一角でもよいので、障害のある方が休める場所や医療的ケア児をサポートしている団体に貸す。
- ・ バリアフリーは大事だが、近代的になりすぎないようにしてほしい。

④利活用のコンセプト

- ・ 次世代のために何ができるのか。環境破壊を食い止めることなど考えたい。
- ・ こう行った場所ができ活用することで、他の人にも胸を張って文化都市と言えそう。
- ・ できあがった後の管理や利活用方法を“●●ありき”にしてほしくない。
- ・ 貴重な家具もあり、維持管理も心配。公開してほしいが、利活用もしたい。バランスが難しそう。
- ・ 高齢者の施設が足りないので、そうした施設を作るべきだ。旧赤星邸の利活用にお金をかけるより、非課税の人に新型コロナウィルスに関連した支援をしてほしい。
- ・ 子育てにお金を給付するより、豊かな環境を利用できることこそが、心の豊かさが得られる。
- ・ 市は文化芸術に力を入れているので、その一環として残してほしい。
- ・ 庭と建物を一体として、保存していく活動は、町の風景を継承できない不動産のあり方そのものについて一石を投じることができるのではないか。
- ・ 古いものはお金では買えないで、みんなで掃除するなど大切にしてほしい。これから若い人に残していってほしい。
- ・ わざわざ国の登録有形文化財に登録した意味がわからない。建物は好きだが、大きく改築されていて、価値をなくしている。
- ・ 変に既存のものを守るというスタンスにならないように。何でも保存すれば良いという考え方ではなく、時代に合わせて変化させるべきものは変えていってほしい。
- ・ 市民がリピートできるように、市外の人が使うより、市民のためのものにしてほしい。
- ・ 人々に愛される空間として、ルール作りやゾーニングなど、静けさとにぎわいの場を分けてほしい。

⑤利活用方法

►視点1 市民のための場

- ・ 場所に敬意を払えるような施設にし、邸宅や増築部分で食事ができるようにする。

- ・ 気軽に利用できるものも良いが、大切に保存してもらいたい。雑に扱ってほしくない。
- ・ 気軽に入れる場所があると良い。
- ・ グループでも活動できると良い。
- ・ 音楽を聴いたり、交流できる場がたまにあると良い。
- ・ 散歩がてらに気軽に立ち寄れ、みんなが使えるようにしてほしい。
- ・ 多様な使い方（お泊まり会、星を見る会、マルシェほか）ができる。
- ・ 吉祥寺のカフェを集結させたり、ピクニックやビールフェスなどイベントができると良い。だれでも自由に入れるようにしてほしい。
- ・ 市民への還元としてマルシェなどのイベントをやり、市民が楽しく利用できるようにしてほしい。
- ・ 貴重な財産なので、一般に開放してもらいたい。
- ・ 未就学児と一緒に楽しめる企画があると良い。
- ・ 地域試写会の広場として生かす。
- ・ ティーンの場所があると良い。
- ・ 高齢者の方にも使えるように。
- ・ 普段家を空けられない人が月1回くらいリフレッシュに来られると良い。
- ・ 広さをいかせると良い。（イベントスペースやお食事会など）
- ・ 癒やしの場になることを期待したい。

▶視点2歴史・文化の継承

- ・ 市内に庭園がないため、庭園を希望するが、公園とするならば、コンセプトにあった設えにしてほしい。杉並区や三鷹市はコンセプトを明確にして整備している。
- ・ 展覧会や庭園美術館のような使い方が良い。カフェにしてしまうと、ただ建物として利用することになってしまう。
- ・ 修道院の歴史もあるので、ウクライナ人の居場所や外国人、難民のショートステイやシェルター。
- ・ 喫茶コーナーがあって、外で椅子に座りながら話せると良い。
- ・ 利用しないで保存してほしい。壊れたものは直して、そのままにしてほしい。
- ・ 建築ガイドツアーがあると良い。
- ・ 赤星さんが最初にブラックバスを入れたので、ブラックバスの展示があると、釣り業界の発展にもつなげられる。

▶視点3自然を守る・育てる

- ・ ピクニックや建物の中から見た庭の景色を生かせるように。
- ・ 子供の居場所づくり。自然を守るだけでなく、楽しみながら生かすことも大切だ。
- ・ モミジやサクラなど四季の花を楽しめると良い。

▶視点 4 観光資源

- ・撮影に使える。ニーズもあると思う。
- ・フィルムコミッショングで建物の美しさを生かせると良い。

▶視点 5 持続可能な利活用

- ・建物の背景を知れば、愛着につながる。勉強の場から交流につなげる。

⑥管理運営

- ・傷まないように、きちんと維持管理して長く使えるようにしてほしい。
- ・きれいに使えるように、ルールを守る。次世代が使えるようにする。
- ・イベントで使えると良いが、建物が傷ついてしまうことが心配。保存と使い方のバランス。
- ・管理運営が大変そう。
- ・鉄筋コンクリートなので、建物を保存してほしいが永続的に保存できるか心配。
- ・管理が大変になるので、ボランティアなどみんなで協力してやってもらえると良い。特に若い人は地域の関係をきっかけになると良い。
- ・維持費にお金がかかりそう。
- ・公立で無料にすると草ぼうぼうになってしまう。庭園にするなら、管理を徹底してほしい。せっかくの財産なので、一部の市民達だけに使わせるようにしないでほしい。

⑦収益

- ・寄付やクラウドファンディング、友の会などで財源を確保する工夫をしてほしい。
- ・持続するために収益をうまく保つことができるよう、カフェ、写真集、グッズなど。
- ・著名な建築に対して、維持のために応募者を募る。気軽に共存できる形が良いと思う。文化的価値、歴史など全体で素晴らしい場所だからとなれば、納得感を得られる。
- ・持続可能性や旧赤星邸の存在を伝えていくためにはどうやっていったらいいか。
- ・コスプレの撮影スポット等のアイデアで収益を確保できれば、しっかり維持できる。
- ・持続するために収益をうまく保つ。そのために、入場料を取った方が良い。
- ・収益を得て、憩いのためにも、庭にカフェ系がほしい。
- ・お金を取っても保存できるように、定期的にお金を取って良い。
- ・市民のためだけを考えると市民から無駄遣いと言われてしまうのは避けたい。収益と価値ある建物であることを、バランスを見て検討してほしい。
- ・有料の方が付加価値をつけられる。
- ・修道女会が大事に使ってきたので、少しでも良いから有料にして、引き続き大事に使えるようにしたい。
- ・場所の雰囲気を生かしたイベントで使い、貸出料を維持管理に充てる。
- ・皆が見られるようにしてほしい。荒らさなければ、お金をあまり取らなくても良いのでは。
- ・有料で収益を得られるようにしてほしい。
- ・無料は危ない、建物や美術品などを大事に保存するために。

- ・ 誰にでも入れるようにすると傷んでしまうだろうし、維持管理費を捻出するためにも入場料をとる。
- ・ 商業的な場所になってしまふと、歴史的価値を損なってしまうことが多い。維持管理とのバランスが難しい。

⑧保存の範囲

- ・ 庭はできるだけ今ある自然を残す。
- ・ 旧赤星邸当初の形に復元して、美術館のようにした方が良い。
- ・ モダニズムのある建築物（レーモンド）だから価値があるのではないか。建築に興味のある人や興味を持つきっかけになる内容にしてほしい。
- ・ 修室棟は一般的な公共建築とあまり変わらない気がする。
- ・ 戦争や宗教などのイデオロギーは保存に含めず、フラットに歴史を伝えてほしい。
- ・ 守ることと生かすことのバランスが大切だ。ただ存在するのではなく、建物自体を生かしてほしい。
- ・ 観光名所というより、今の雰囲気のまま趣を残してほしい。
- ・ 登録有形文化財以外も活用してほしい。壊したらもったいない。

⑨情報提供

- ・ 現地に行くまでの経路がネットで最寄り駅など記されてると行きやすい。
- ・ 常にオープンに情報公開して、市民に伝えてほしい。
- ・ 資金が必要だろうから、市民として何ができるか情報発信してほしい。公開やパネルのイベントも大事だ。
- ・ 場所を知らないので、もっと知ってもらった方が理解できるのではないか。
- ・ レーモンドの価値がそんなにあるのか。それが市民に伝わってこないことが課題だ。周知が足りないのでないか。
- ・ 市報でもっとクローズアップして、昔のことを伝えていく等工夫をもっとしてほしい。
- ・ 建物内に展示があると良い。
- ・ 価値を伝えられるしくみを作る。そこなるだけでなく、建物の工夫、時代、持ち主のことなどぱっと見ではわからないことを伝えていってほしい。
- ・ フォートナイトのゲームの中に建物を取り込んで遊ぶことができるので、旧赤星邸も活用してPRしても良いのでは。

⑩周辺環境との関係

- ・ 成蹊学園と新旧の対比ができると良い。
- ・ 吉祥寺の目玉のスポットになって、広く周知できると良い。
- ・ 活用するのに新しい建物を作つて、周りの景観を悪化させないでほしい。
- ・ 塀をなくし、柵にすれば市民の関心も高まる。
- ・ 住宅地の一角なので、混雑、音やゴミなど周辺住民の迷惑にならないようにマナーを守つてもらう。

- ・ 三鷹市ジブリ美術館とつなげる。このような建物は海岸でも関心を持つと思うので、インターネットを使って外国人にもアピールした方が良い。

⑪進め方

- ・ 歴史を残したい人とそうでない人とのコンセンサスがポイントになりそうだ。
- ・ 情報発信としてオープンハウスを夜遅くまでやっているのがとても良いと思った。細かく取り組めている。
- ・ 市の職員には事例研究をして、市の職員として意見を持ってもらいたい。
- ・ 本公開まで時間をあまりかけすぎず、すぐに使えるようになると良い。
- ・ 行ったことはないが、気軽に入れると良い。早く開放してほしい。
- ・ 一般公開のとき、説明など市の職員やボランティアの方にとても親切にしていただいて良かった。
- ・ 次世代に伝えられるように残す。取り壊すのはさみしい。できるだけ公開してほしい。
- ・ 近くを通っていたが知らなかったので、秋の一般公開で入ってみる。
- ・ 興味があり行ってみたいが、予約が必要か。次の公開を楽しみにしている。
- ・ 使い方はワークショップの意見などを見て、考えてみたい。まだ見たことがないので、秋の一般公開に行ってみる。

参考資料 11

旧赤星鉄馬邸の庭園活用社会実験（11月速報版）

旧赤星鉄馬邸の庭園活用社会実験

【11月速報版】



社会実験開催概要

● 開催までの経緯

当社会実験の実施にあたっては、2023年7月に公募により武藏野市在住在勤の企画・運営スタッフ25名を選出した。8月～10月に亘り、計3回の企画会議を実施した。企画会議では、7月までに実施した市民ワークショップの結果を基に、5つの企画を立案した。当企画は、企画・運営スタッフにより、ブラッシュアップし、社会実験での実現性について検討した。

▼社会実験開催に至る経緯

公募	第1回	第2回	第3回
今年度実施する社会実験のプログラムの企画・準備・当日の運営を行うプロジェクトスタッフを募集。	現地を確認し、市民ワークショップの意見を踏まえて、意見だし。社会実験の企画内容を検討。	市民ワークショップ、企画会議で意見が多かった企画について実施にむけた検討を開始。	5つの企画に分かれ、準備物の確認等の最終確認を実施。また、社会実験当日の運営計画も共有。

● 社会実験の概要

当社会実験は、旧赤星鉄馬邸と庭園を一体的に活用していくことを目指したものである。まず第一弾としては、「庭園の活用可能性」に視点を置き、庭園のみを実験の会場とした。

社会実験は、秋晴れのなか開催され、老若男女さまざまな方が来場し、旧赤星鉄馬邸の庭園を堪能していた。

▼社会実験開催概要

日時	11月5日（日）10時～19時 ※10時～16時は入退場自由。17時以降はシアター上映のため、入場制限を設けた。
企画	①カフェ「自家焙煎コーヒー屋 DREAMERS COFFEE」 ②スイーツ「ラトリエドウタカコの焼き菓子」 ③雑貨販売「アトリエショップ P&M」 ④テーブル茶道ワークショップ ⑤旧赤星鉄馬邸七不思議展示 ⑥歴史勉強ツアー ⑦Harvest Wreath のこどもワークショップ ⑧親子ヨガ ⑨屋外ナイトシアター「人生フルーツ」 ⑩来場者対象ワークショップ（庭の活用方法について）
調査	・アンケート調査（①来場者対象、②近隣住民対象） ・滞留調査 ・音環境調査



社会実験結果報告（12月集計時点速報）

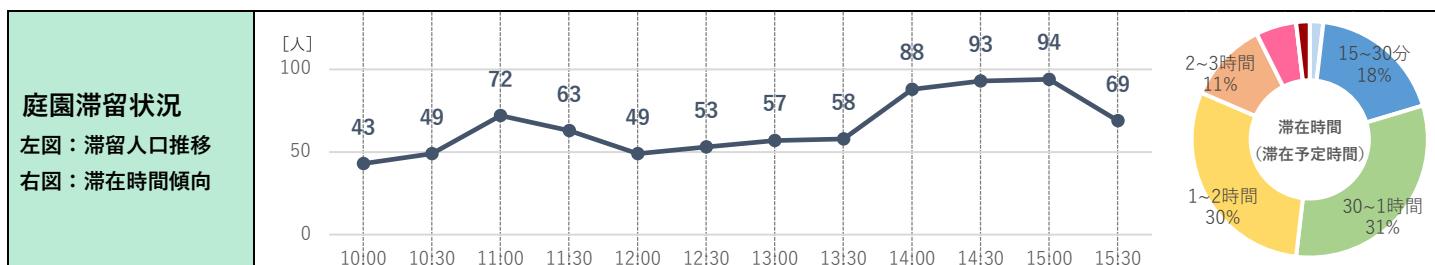
●社会実験時のプログラム

	10:00	10:30	10:30	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	…	17:00	17:30	…	19:00
① カフェ		●																
② スイーツ		●																
③ 雑貨販売		●													●			
④ 茶道 WS				●	●													
⑤ 歴史ツアー				●		●									●	●		
⑥ 旧赤星邸展示		●														●		
⑦ リース WS		●	●	●	●										●	●		
⑧ 親子ヨガ															●	●		
⑨ 屋外シアター																	●	●
⑩ 来場者 WS		●																

●庭園内の滞留状況

社会実験時の庭園内の滞留人口は、40～100人の間で推移し、企画が重なる11時台、14時以降に多くの人が来場した。また、来場者対象アンケート調査によると、滞在時間は「30～1時間」が31%、「1～2時間」が30%と多く、一定時間の滞在が確認できた。

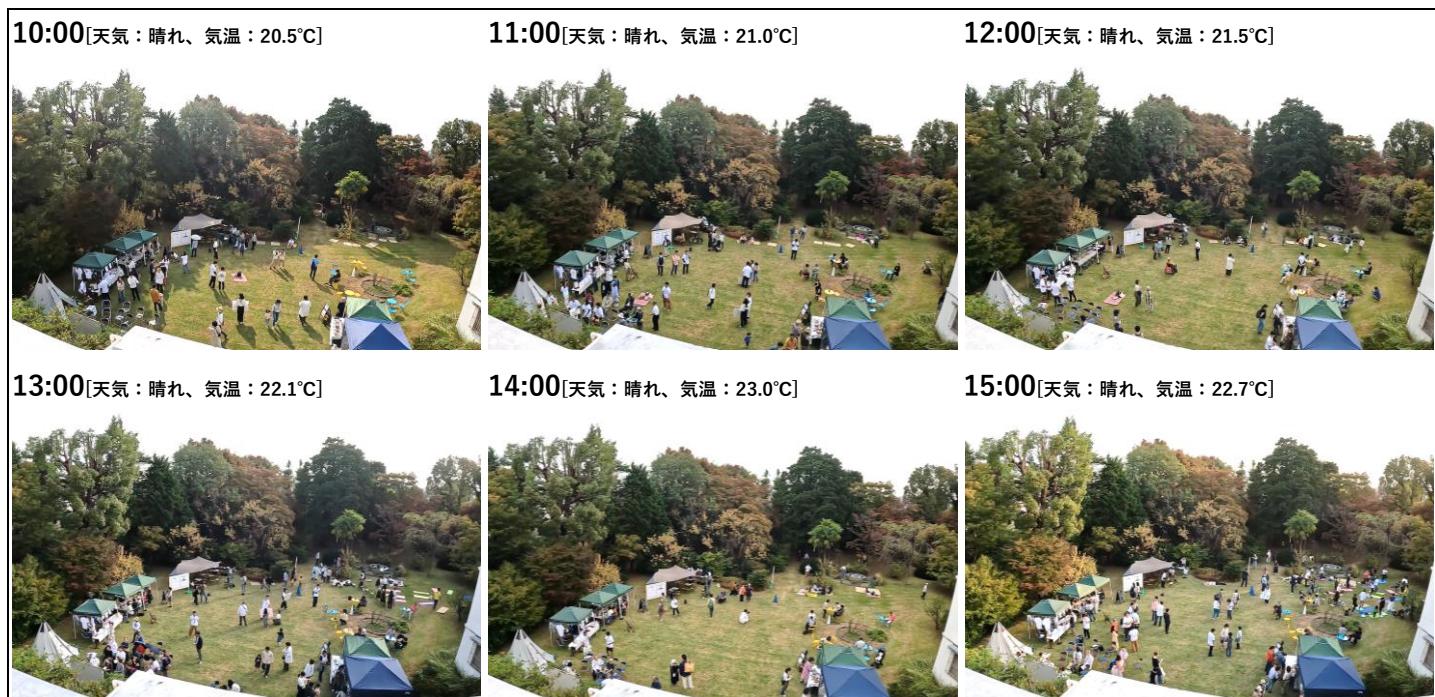
▼滞留人口推移及び滞在時間の傾向



※左図：定点カメラに記録した人数をカウント（スタッフ含む）

※右図：来場者対象アンケート調査による聞き取り（有効回答者数=54件）

▼定点カメラによる滞留状況



▼各企画の実施状況と参加者数等の結果



来場者対象アンケート回答者が利用した（または利用予定）コンテンツ（複数回答有）							各コンテンツの結果報告	
(有効回答者数 = 53 件)	0	5	10	15	20	25	30	
カフェ						28		◀販売数：珈琲 120 杯、パック等販売 27 点
スイーツ					20			◀準備した焼菓子完売
雑貨販売 (Tシャツ)		9						◀販売数：Tシャツ 42 枚、雑貨等販売 20 点
テーブル茶道ワークショップ	6							◀参加者数：34 名（1回 800 円）
Harvest Wreath のこどもワークショップ			11					◀参加者数：22 名（保護者除く）
親子ヨガ	3							◀参加者数：29 名
歴史勉強ツアー			11					◀参加者数：26 名
旧赤星鉄馬邸七不思議展示				16				—
屋外ナイトシアター	2							◀参加者数：96 名
ワークショップボード	2							◀意見数（付箋の数）：104 件

●社会実験来場者による評価

(社会実験全体満足度)

社会実験全体の満足度については、回答者の 89%が「満足」または「やや満足」と回答した。その理由としては、「空間・心地のよさ」や「楽しさ」に関する理由が多くあり、庭園での滞留・活動の可能性について評価できた。また、「赤星邸自体」や「学び」に関する理由もあり、滞在しながら歴史等を学ぶことができたことについて評価できた。

一方で、回答者の 9%が「どちらともいえない」、2%「不満」と回答した。その理由としては、建物内部の見学がなかったことやバリアフリーの入りにくさが指摘された。

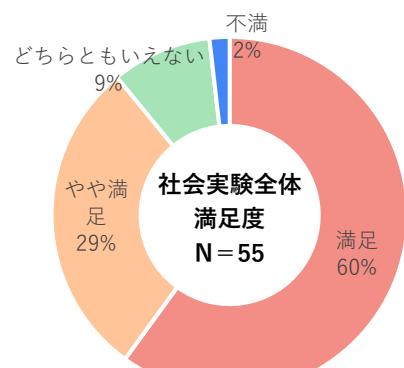
▼満足度評価の理由（来場者アンケート調査より解析）

【評価できる理由】

- 空間・心地よさ 15 件（くつろげる、居心地がいい、雰囲気が良い、庭が広くて気持ち良い、芝生が気持ちいい 等）
- 赤星邸自体 7 件（前々から入ってみたかったから、目に触れない文化財を見ることができた、地域の風土や伝統を感じた 等）
- 楽しさ 8 件（遊んだ、子どもと一緒に楽しく過ごすことができた、沢山の来場者、テントの内容、素晴らしいです 等）
- 学び 3 件（知らなかった事を学べて楽しかったです、普段公開されていない場所を解説付きで見られたのがよかったです 等）
- 飲食 2 件（広いお庭でのカフェ気持ちいい、食と座る空間が充実していたから）
- 社会実験自体 3 件（歴史ある建物の話を地域の皆さんのが手で活用しようとしているので、普段このようなイベントはないから 等）

【課題となる理由】

- 赤星邸自体 4 件（建物の中が見れなかった、内部をみたかった、中が見られない、剪定をした方がいい 等）
- 楽しさ 2 件（遊びがもう少し欲しい、音響的にやや難あり？）
- 福祉面 1 件（バリアフリーがまったくダメ）
- 社会実験自体 1 件（予約制のイベントばかり）

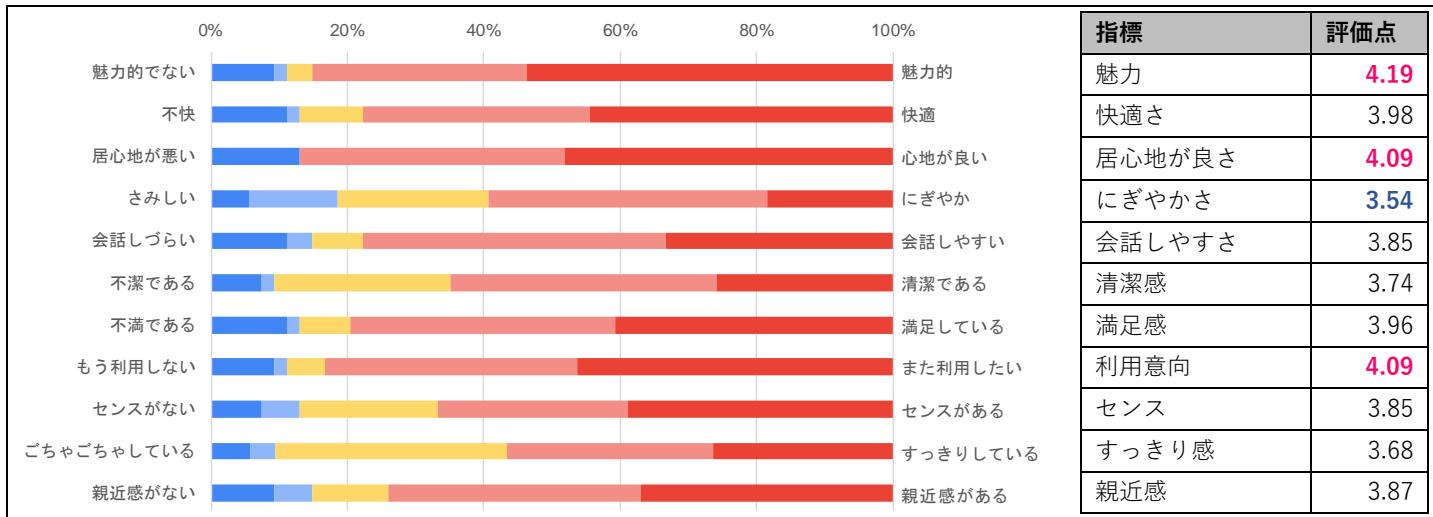


▲社会実験の満足度評価

(庭園の空間的な評価)

社会実験時の庭園の空間的な評価について、11 項目を 5 段階で評価した。「魅力」「居心地が良さ」「利用意向」について、4.0 以上の評価点が確認できた。一方で、最も低い評価点としては、「にぎやかさ」が 3.54 であった。

▼空間的評価（来場者対象アンケート調査による 5 段階評価）



（以前から旧赤星鉄馬邸を知る人が思う普段の印象）

普段の印象としては、歴史・文化的な財産としての印象がある一方で、閉鎖的な印象を持つ人も一定数確認した。

▼普段の印象（来場者アンケート調査より解析）

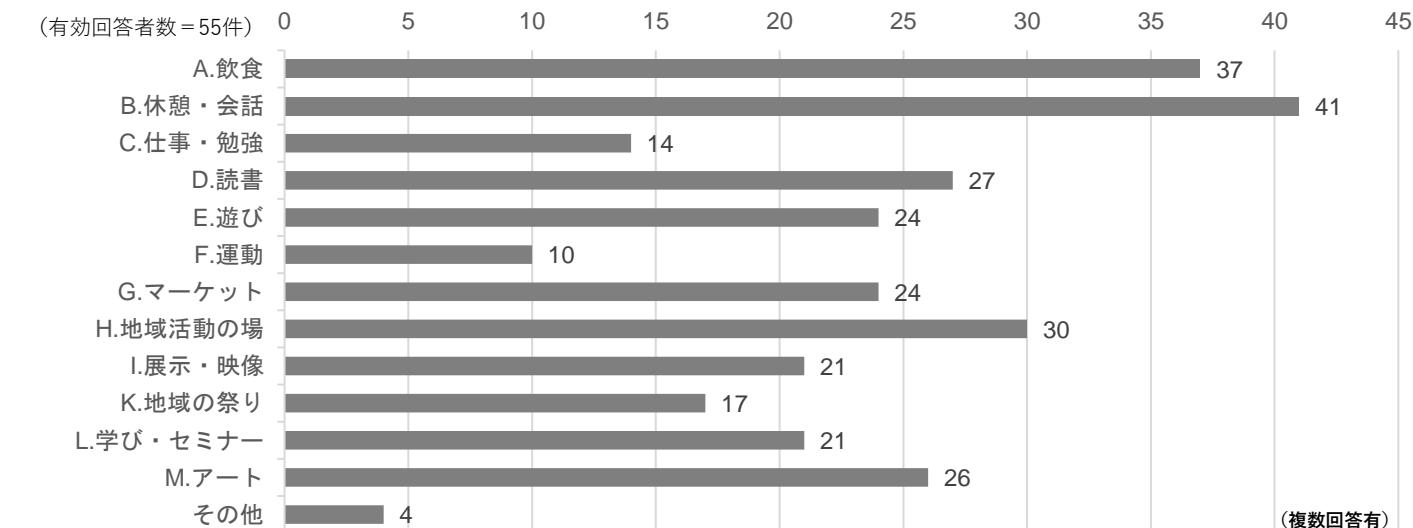
- 歴史・文化 8 件（歴史的な建物と庭、地域の文化財、残ってよかった、モダン 等）
- 閉鎖的 8 件（塀が高く近寄りづらい感じがしていた、暗いイメージ、入れない、謎、暗く閉鎖的 等）
- その他 8 件（思ったより緑がある、静かな感じ、地味な感じ、有名な建築や赤星邸とは知らない 等）

●来場者の活用意向

(旧赤星鉄馬邸の将来的に望まれる活動・活用)

将来的に望まれる活動・活用については、「休憩・会話」が41件、「飲食」が37件と多く、日常的に利用できる活動・活用が望まれている。次いで、「地域活動の場」が30件と多い。

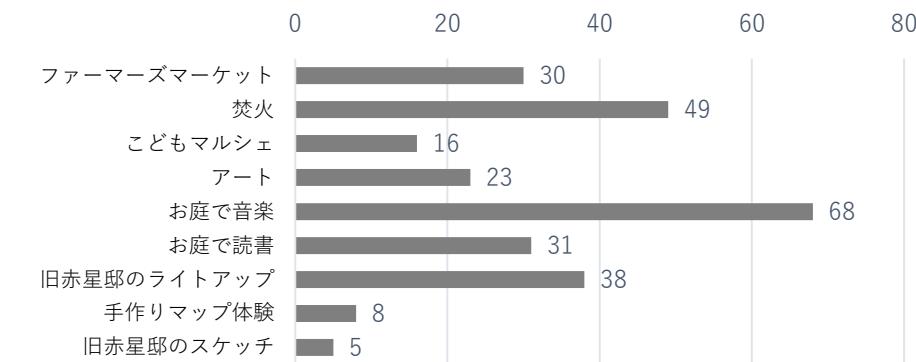
▼将来的に望まれる活動・活用（来場者対象アンケート調査）



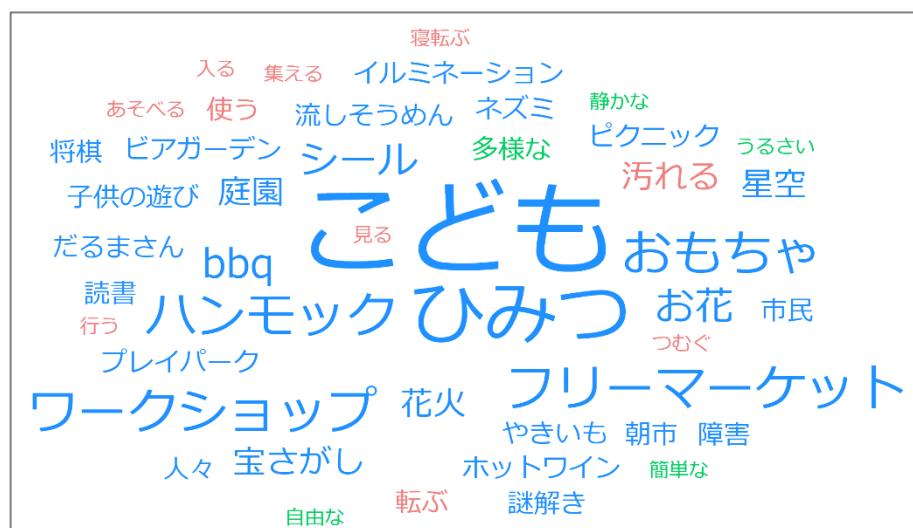
(庭園での利用意向)

会場内で「この庭、どう使いたい？」をテーマにワークショップを実施した。市民ワークショップで出された意見で今回の社会実験の企画として実施しなかった企画を掲載したコンテンツボードを作成した。コンテンツボードでは、「お庭で音楽」が68件と最も多く、次いで「焚火」が多い結果となった。また、その他自由に記述できるワークショップボードでは、子どもに関する活動・遊戯・運動に着目した企画に関する声が多かった。

▼コンテンツボードの調査結果



▼ワークショップボードの自由記述（テキストマイニング※出現頻度順）



●周辺環境への影響

(音環境調査)

社会実験時の音環境を確認し、近隣への影響度合いを把握した。計測地点は、①旧赤星邸屋上、②南側隣地付近、③西側隣地付近の3地点で計測した。

環境基本法に規定される騒音に係る環境基準と比較評価すると、当調査における音レベルの平均値は、住居地域^{*}の昼間の基準値（55dB以下）を下回る若しくはそれ相当の数値となった。

一方で、一時的に鳥の鳴き声や調査機付近での会話等で一時的に高数値になることはあるが、継続的なものではなかった。

今後、平常時の音レベル、日常生活等に適用する騒音の規制基準（隣地境界線で45dB）を踏まえた調査・分析を実施予定である。

▼音環境調査結果概要

	①旧赤星邸屋上			②南側隣地付近			③西側隣地付近		
	AVE	MAX	MIN	AVE	MAX	MIN	AVE	MAX	MIN
10:00	50.35	62.90	44.70	46.04	60.20	37.60	-	-	-
11:00	49.65	59.10	43.10	46.14	58.80	39.10	45.04	51.10	38.50
12:00	48.46	56.10	42.80	55.88	76.70	44.80	46.92	54.70	40.20
13:00	50.35	56.60	45.60	50.02	62.90	43.10	45.92	63.30	39.60
14:00	50.69	59.90	44.40	45.78	66.60	38.50	47.31	58.20	41.20
15:00	51.92	60.10	46.10	47.86	76.30	39.20	45.92	58.20	39.30

※単位は、音レベル（dB）

※環境基本法に規定する環境基準における地域の類型A及びBを「住居地域」と定義した。

▼調査機設置位置



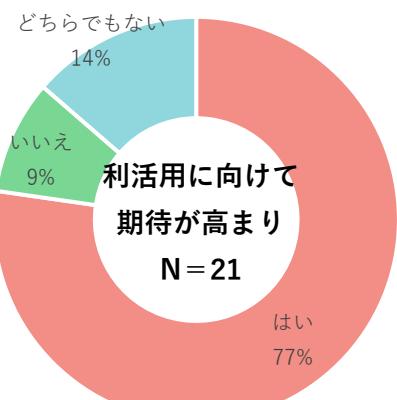
(近隣住民による印象調査)

社会実験当日に、会場や自宅にいた方を対象に社会実験の印象調査^{*}を実施した。社会実験の実施を受けて利活用に向けた期待の高まるかについては、77%の人が「はい」と回答した。

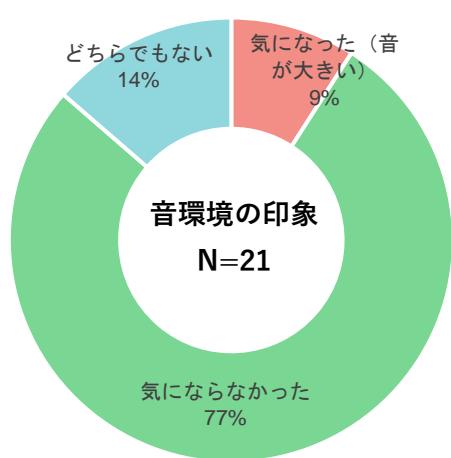
また、近隣住宅・住民への影響として、「音環境」「人の多さ」「交通量の増加」の印象を調査した。いずれも「気にならなかった」が最も多く、「音環境」が77%、「人の多さ」が63%、「交通量の増加」が73%であった。一方で、「気になった」との回答もあるため、今後の社会実験や利活用においては十分な配慮が必要である。

※近隣住民 129世帯を対象に社会実験の実施を受けて活動自体や当日の印象、今後の

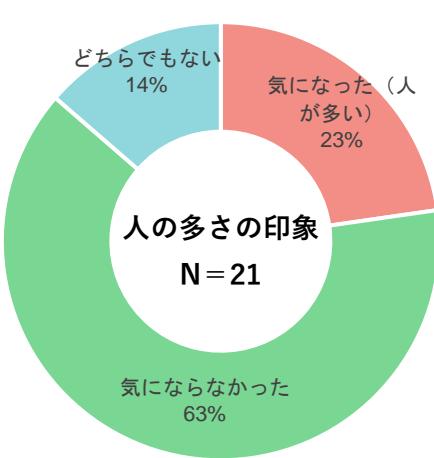
意向や懸念点についてアンケート調査を実施した。(回収数33通(回収率25.6%))



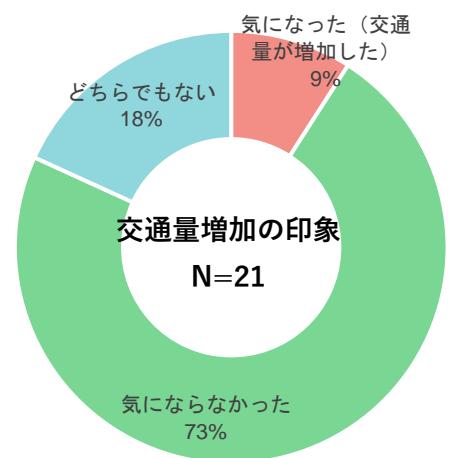
▲利活用に向けて期待の高まり



▲音環境の印象



▲人の多さの印象



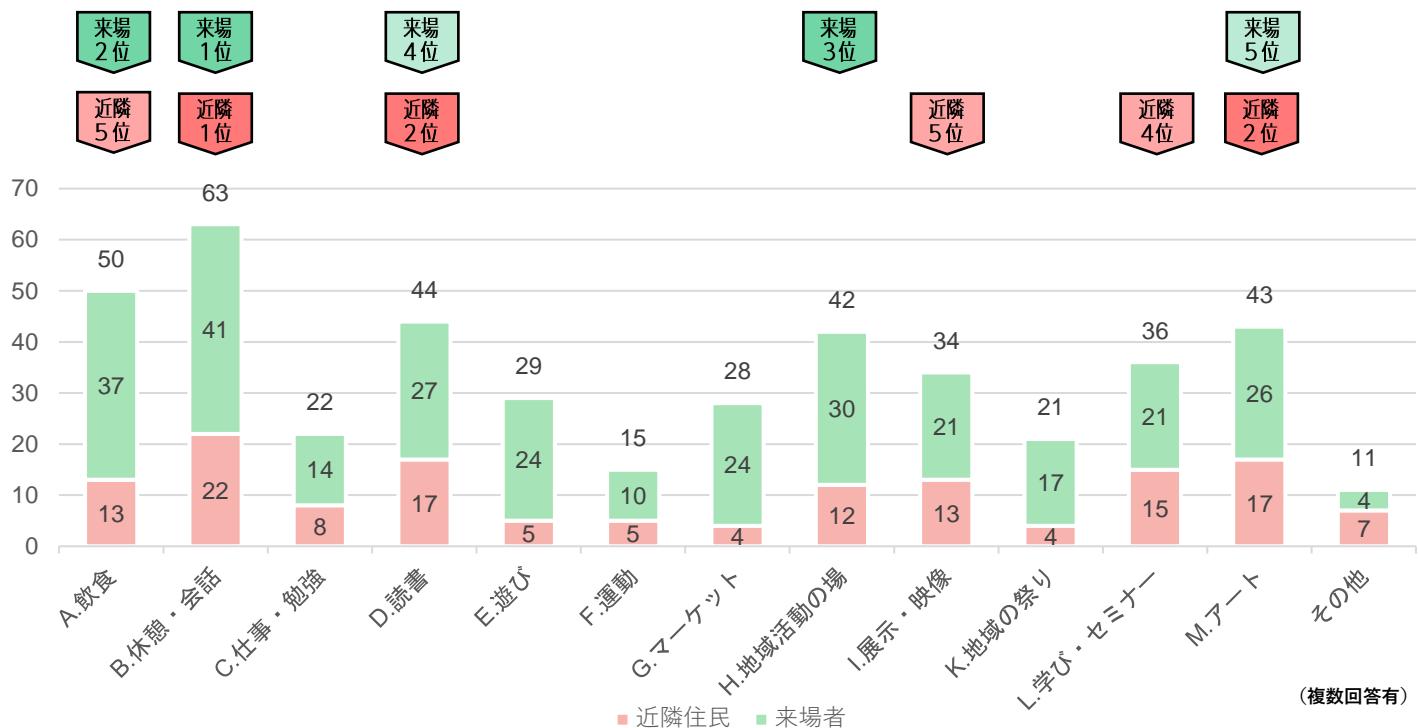
▲交通量増加の印象

●来場者と近隣住民の印象比較

(旧赤星鉄馬邸の将来的に望まれる活動・活用)

将来的に望まれる活動・活用について、来場者、近隣住民ともに同項目で意向を聴取した。来場者、近隣住民とともに「休憩・会話」が最も多かった。また、近隣住民が求める活動・活用種別としては、「休憩・会話」「読書」「アート」「学び・セミナー」「展示・映像」の順位が高く、比較的文化的な活動意向が多い。

▼将来的に望まれる活動・活用（来場者対象アンケート調査・近隣住民アンケート調査）

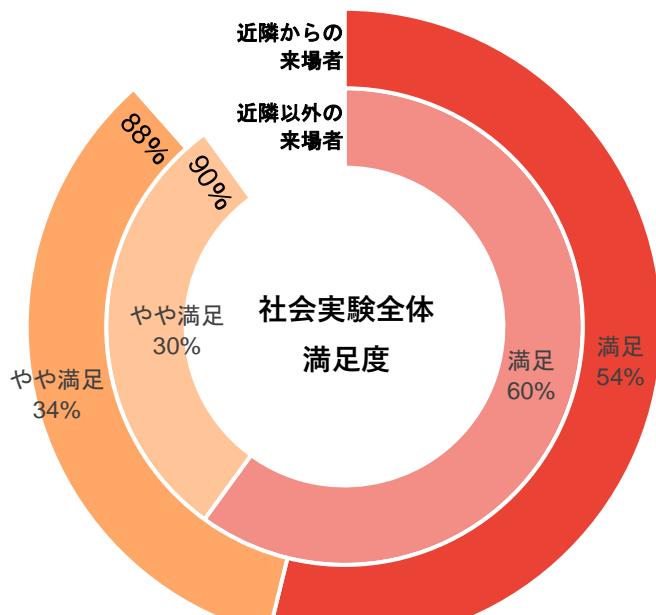


(社会実験全体満足度)

社会実験全体の満足度について、居住属性を分類し解析した。近隣から来場した回答者の 88%が「満足」または「やや満足」と回答した。また、近隣以外から来場した回答者の 90%が「満足」または「やや満足」と回答した。近隣とそれ以外の回答者の満足度に大きな差異がないことが確認できた。

近隣からの来場者：来場者アンケートにおいて居住地に関する設問を「旧赤星鉄馬邸付近」と回答（15 件）、近隣住民対象アンケートにおいて社会実験に「参加した」と回答（11 件）の合算値（26 件）とする。

近隣以外の来場者：来場者アンケートにおいて居住地に関する設問を「旧赤星鉄馬邸付近」以外の回答（40 件）とする。

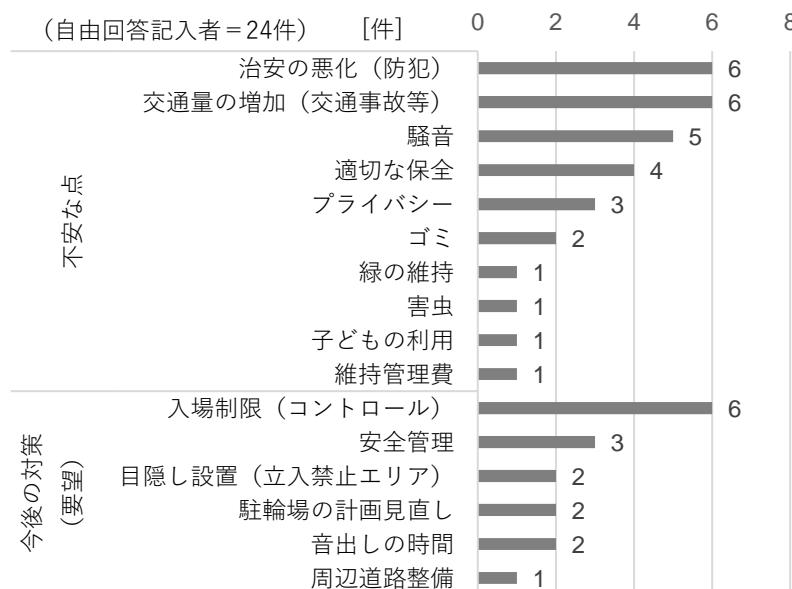


●今後の活動における留意事項（近隣住民の要望（心配な点）や留意事項）

近隣住民対象アンケートによると、旧赤星鉄馬邸の活用を進める中で心配される事項は、「治安の悪化（防犯）」「交通量の増加（交通事故等）」に関する意見が6件と最も多く、他に「騒音」が5件で次いで多かった。

また、今後の対策として講じてほしい事項としては、「入場制限（コントロール）」に関する意見が6件と最も多かった。

▼活用を進める上で不安点（近隣住民対象アンケートから解析）



▼具体的な意見（抜粋）

A 氏（印象調査で音、人の多さ、交通量で気になったと回答）
近所に住んでいる人の事を考え多人数の入場をさせない。近くまで家のまわりに入り込ませないでその時だけの柵をもうけてほしい。交通量も考えてほしい。こちらを見ている人は感じないかもしれないが、家をじろじろみられるのを本当に不愉快である。そんな人と目があうのがとてもいやでたまらない。1日中不愉快な思いで過ごした。

B 氏（印象調査で人の多さで気になったと回答）
玄関が赤星邸の庭から直に見えるため、人通りが増えると防犯面で少し心配です。邸宅に入る時間を作りするなど、何らかの安全管理はしていただきたいなと感じます。

C 氏

来場者が増えすぎると地元の人たちがゆっくり過ごしづらくなるので、周辺に住む人をターゲットにした企画、コアなファンを引き付けるような企画にする等をしてうまくコントロールしていただきたい。

D 氏（印象調査で人の多さで気になったと回答）
住んでいる人がいないえ、不特定多数の人が訪問されるようになると、防犯上、問題が心配される。（そもそも、木が多い多すぎることで、目がつきにくい。）

E 氏

建物を丁寧に利用しない人への注意ができるか心配。子ども・大人も乱暴に使用する人。大声でしゃべったりする声（大学生が叫びながら歩いていると、とても気になっているので、大声を出す活用はやめてほしい。）

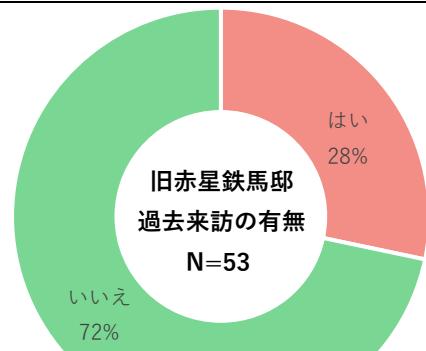
●その他来場者の属性

今回、来場した方の72%は、旧赤星鉄馬邸に来たことがない人であった。

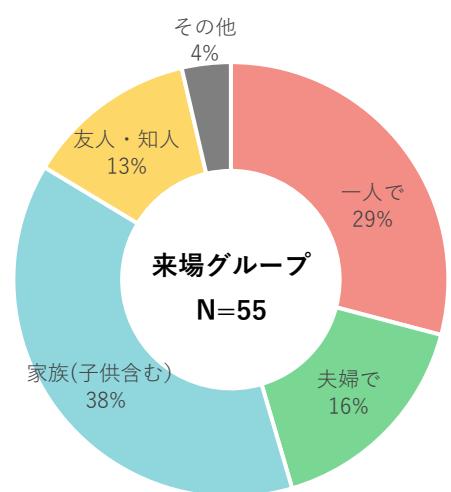
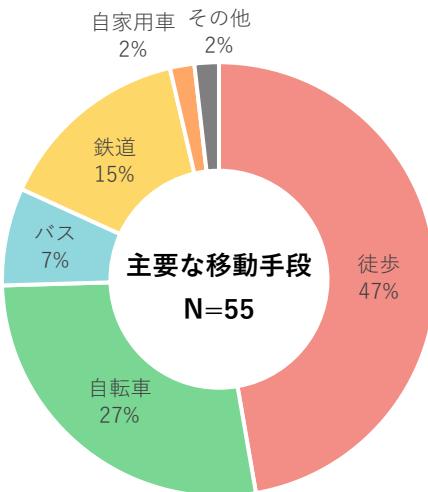
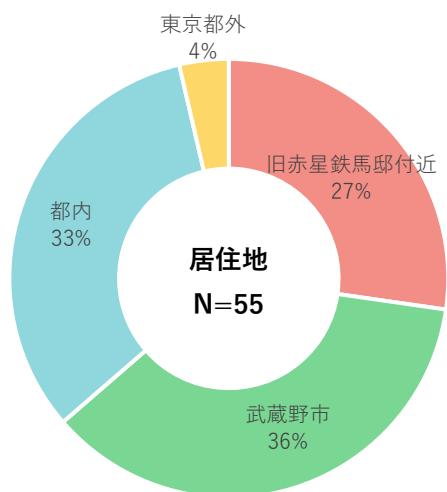
来場者の居住地は、武蔵野市内が63%（近隣27%、近隣外の市内36%）であった。都内（市外）からの来場者も33%あった。

来場者の移動手段は、「徒歩」が47%、「自転車」が27%と、近い距離からの来訪者が多かった。なお、当社会実験では、予備駐輪場として第一小学校を確保していたが、ほぼ使用されなかった。

来場グループは、「家族（子ども含む）」が38%と最も多く、次いで「一人で」が29%と多かった。



▲旧赤星鉄馬邸の過去来訪の有無



▲居住地

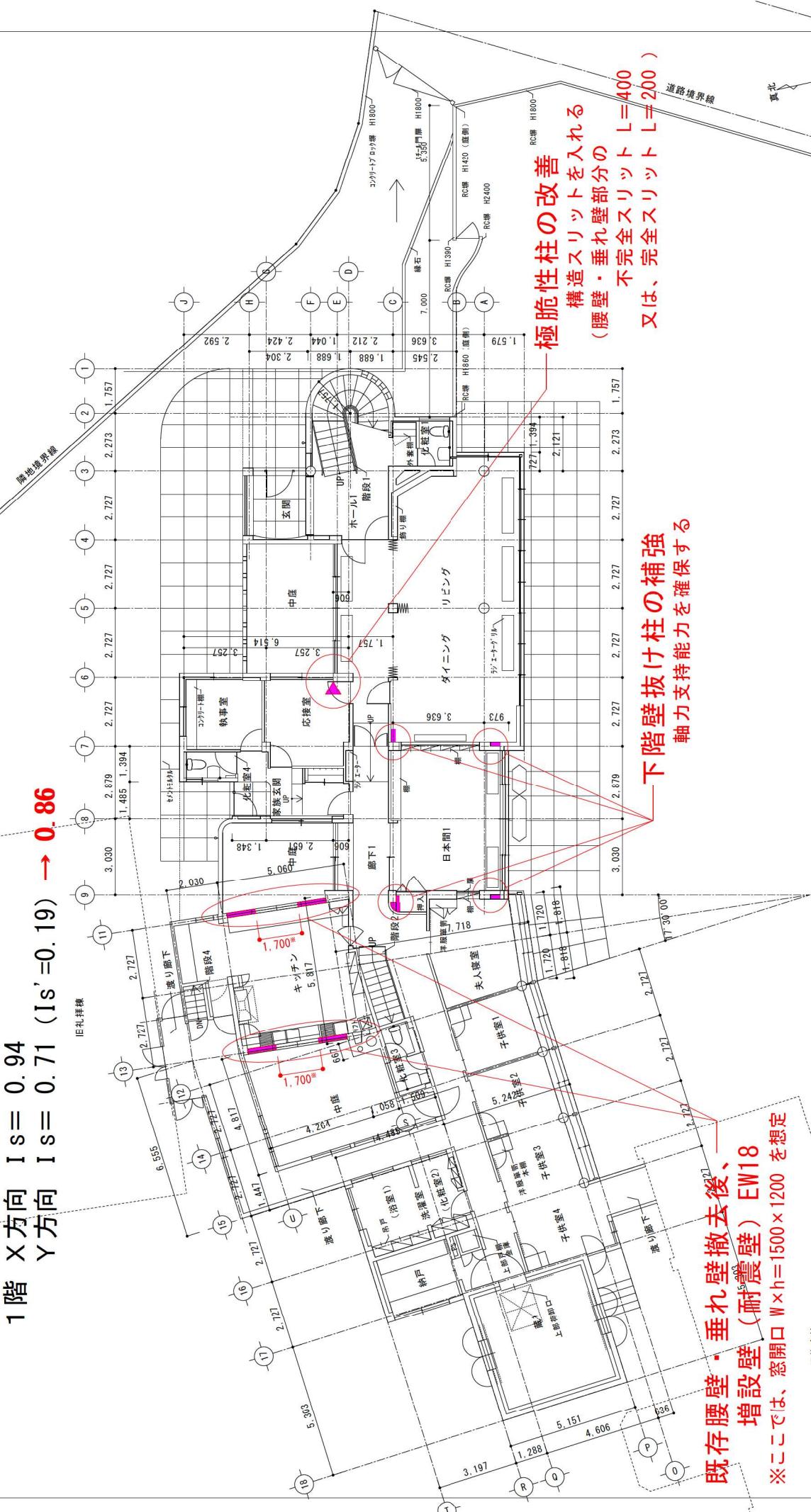
▲主要な移動手段

▲来場グループ

參考資料 12

耐震補強計画（案）

A案
1階 X方向 $I_s = 0.94$
Y方向 $I_s = 0.71$ ($I_s' = 0.19$) → 0.86



※本資料は、「旧赤星邸保存・利活用に係る耐震補強計画作成業務委託」により
調査・復刻された建築平面図を基に耐震診断・補強案を示したもので
したがって、旧建物の復元等を踏まえたものではないため、
今後の復元・改修計画により構造耐震指標 I_s に変動を生じる事があります

旧修室棟

旧赤星邸 1階平面図

A3/1/150

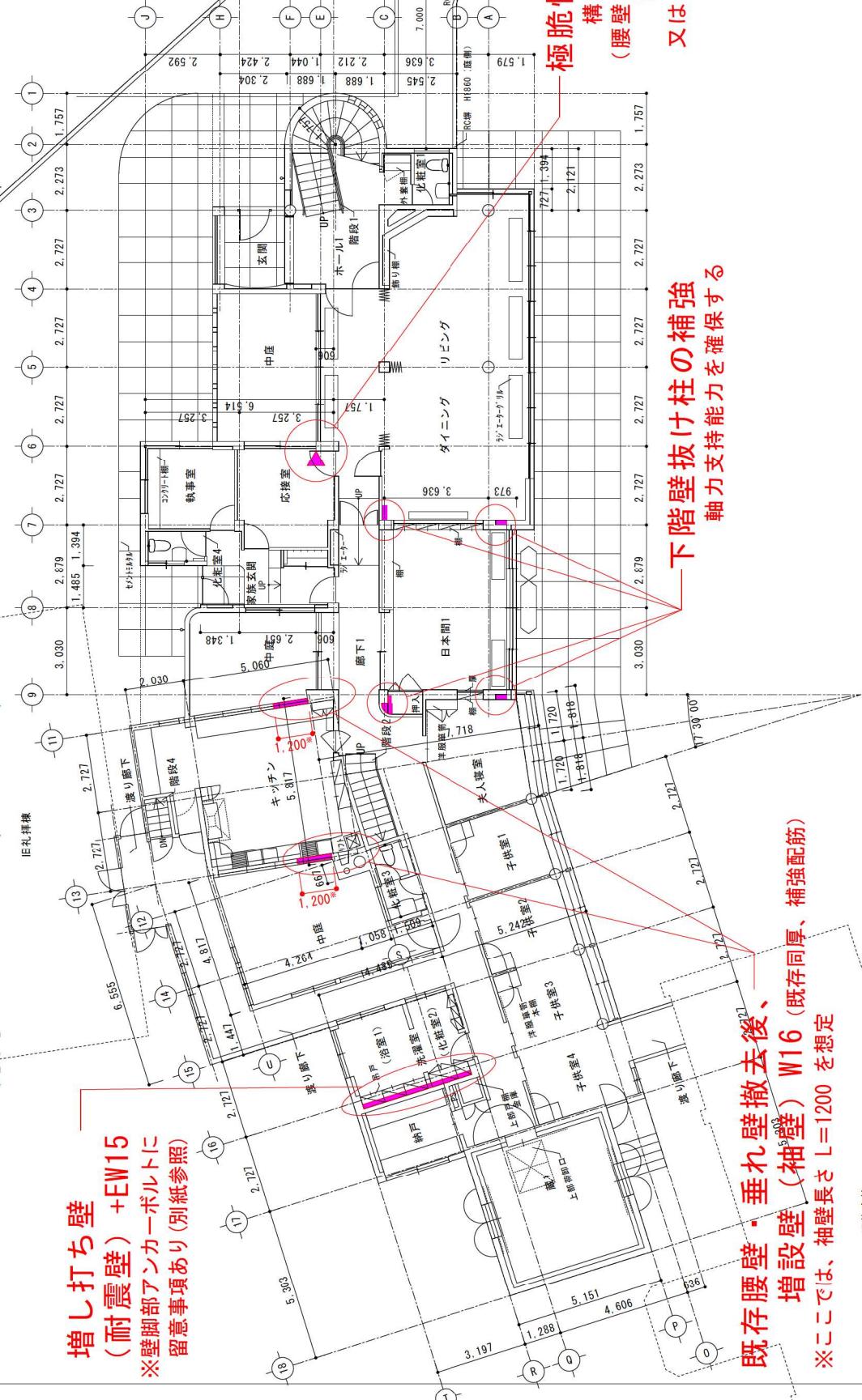
B案 1階 X方向 Y方向

$I_s = 0.94$
 $I_s = 0.71$ ($I_s' = 0.19$) → **0.82**

増し打ち壁

(耐震壁) +EW15
※壁脚部アンカーボルトに
留意事項あり(別紙参照)

隣地境界線



旧修業棟

※本資料は、「旧赤星邸保存・利活用に係る耐震補強計画作成業務委託」により
調査・復刻された建築平面図を基に耐震診断・補強案を示したもので
したがって、旧建物の復元等を踏まえたものではないため、
今後の復元・改修計画により構造耐震指標 I_s に変動を生じる事があります

旧赤星鉄馬邸の利活用に関する有識者会議 報告書（資料編）

令和6年2月

旧赤星鉄馬邸の利活用に関する有識者会議

担当課：武蔵野市総合政策部資産活用課